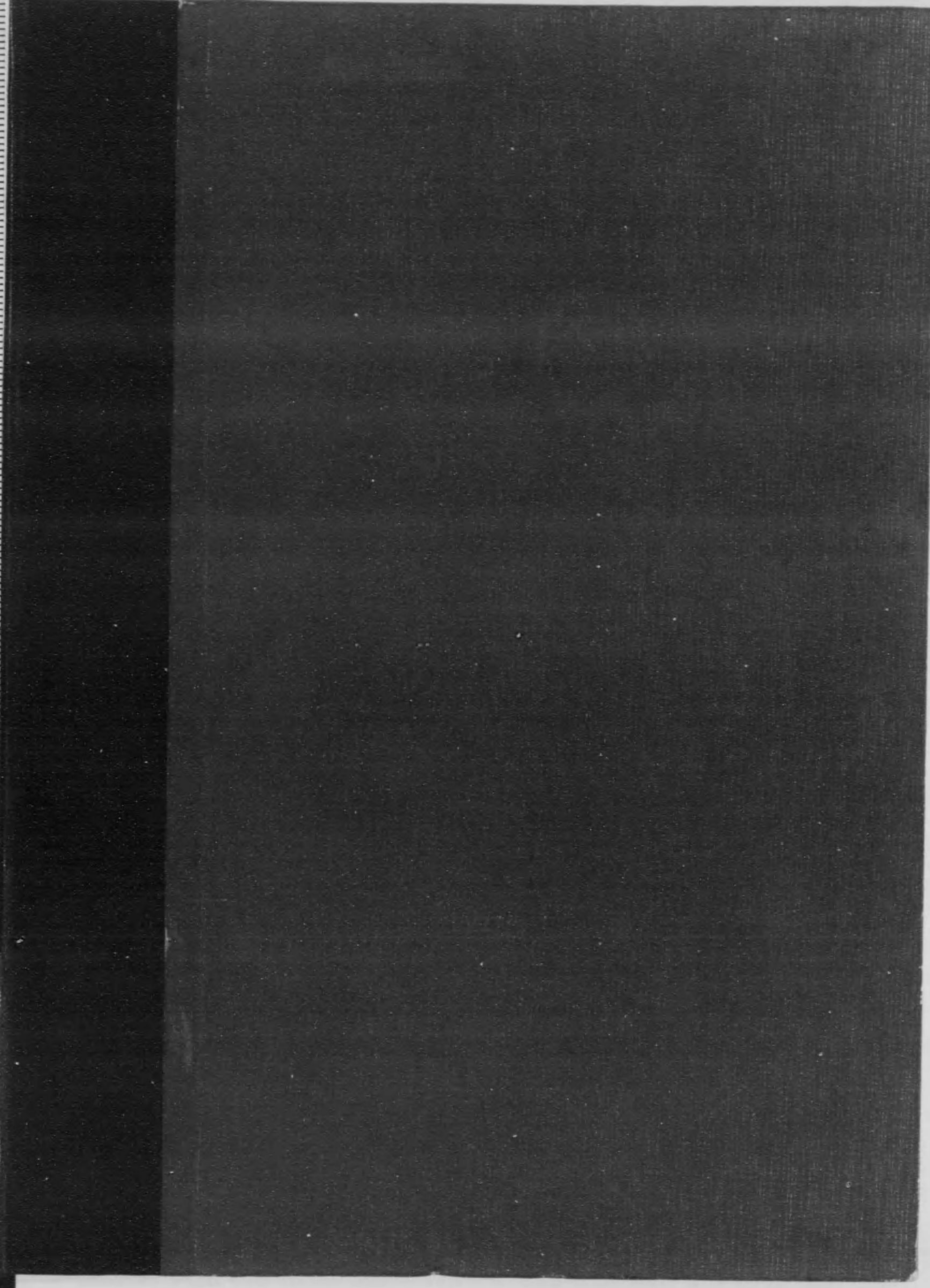
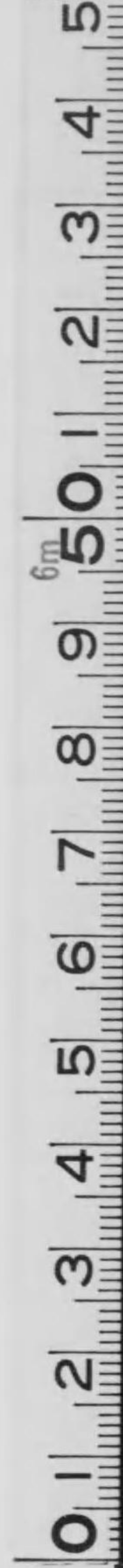




始



2633

165

265g-100



# 書教授歌學小學式入譜本 細目式小學唱歌教授書

新潟縣高田師範學校

## 附屬小學校

大正  
10 4 20  
丙交

# 凡 例

## 一 教授 時 數

四十時間 { 第一學期 十五時間  
 第二學期 十五時間  
 第三學期 十時間

尋常四年以下は體操及び修身と組合せて三十分授業をなす。

それが爲一歌曲に要する時間數が比較的減少することになる。

一曲約二時としたのはそれに基づくのである

## 二 教 材

選 擇 針 本文總說中に特色を明記してある。  
 方 針 針 本文總說中に特色を明記してある。  
 參 考 書 名

文 部 省	尋 常 小 學 唱 歌
同	小 學 唱 歌 集
音 樂 學 校	中 等 唱 歌 集
同	中 學 唱 歌
同	中 等 唱 歌 集
同	箏 曲 集
伊 澤 修 二	小 學 唱 歌
納 所 辨 次 郎	教科統合 尋常小學唱歌
田 村 虎 藏	教科統合 高等小學唱歌
同	幼 年 唱 歌
同	少 年 唱 歌

同	教科統合	女學	唱歌
同	教科統合	中學	唱歌
共益商社	唱歌	教科書	
開成館	新編教育	唱歌	集
山田源一郎	女學	唱歌	集
同	中等教育	唱歌	集
同	教科適用	新唱歌	
吉丸一昌	ポケット	唱歌	
同	新作	唱歌	
北村季晴	中等音樂	教科書	
福井直秋	祝祭日	唱歌	集
山田源一郎	大捷軍	歌	
巖本捷治	歐米學校	唱歌	
	新樂	樂譜	界

排列

下記事項を注意して排列した

1. 學年と歌曲との程度
2. 季節と歌曲との連絡
3. 他教科との連絡
4. 男女別

三 記載形式の説明及び運用上の注意

本書は總説と各説との二部に分つて總説には教授上の一般的注意や改定小學唱歌の特色を記し、各説には各歌曲に對する教授上の注意を記述した。故に教授者は各説の部分を見る前に必ず總説を通覽し唱歌教授に對する當校の態度を熟知してほしい。

各説の記載形式について

1. 月(旬)教授上の便をはかつて月(旬)別に記したのであるが一ヶ月は大體四週間ある故に、時間は上旬下旬を一時間づつとし、中旬に二時間配當して合計四時間としたのである。
2. 歌曲、教授上の注意  
 ここには歌曲名、教授時數、教授上の注意等を記した。高學年には男女の別をも記した教授上の注意は先づその歌曲の曲想を簡単に記して、後細かな教授上注意事項を記した。  
 ここで特に注意して貰ひたいのは教授時數である。低學年では三十分授業の爲一曲の時數を少くしてある又高學年でも、割合に時數が不足である。多くの教材について一々説明しやうとした爲勢その様になつたのであるから、教授者は兒童の能力及び時間數等を考へて適宜教授してほしい。
3. 参考事項  
 ここでは連絡、その他参考事項を記したのである。鑑賞教材は特に鑑賞させたいと思ふものだけを記したのであるから、その他は教授者の任意に鑑賞させたい。  
 又この欄には教授者が實際教授後の感想を簡単に記入し研究上の参考に供せらるるに都合のよい様に特に餘白を置いたものである、十分の活用を望む。
4. 基本練習及び樂曲大要と云ふ様なものは別に配當してない、總説中に明記せる基本練習に對する記事を読んで教授上の態度を十分確立して貰ひたい。

### 歌曲一覽表

<b>尋常科一年</b>		雪 達 磨 鬼 ごとこ ポチトタマ おきやがりこぼし	網 引 一月一日 餅つき
<b>第一學期</b>	鳩 練 兵 ひ よ こ 人 兎 と 形 か た つ む り 一 金 太 郎 金 烏 猿 と 蟹 日 本 男 子	花 咲 爺 紙 鳶 の 歌 卒 業 式	<b>第三學期</b> 雪 紀 元 節 笛 と 太 鼓 鬼 の 餅 つ き 大 黒 様 那 須 與 一 祭
<b>尋常科二年</b>		大 江 山 小 さ き 兵 士 雲 こ う ま ほ た る の 子 蛙 と 蜘蛛 浦 烏 太 郎 蟬 か み な り さ ま	<b>尋常科三年</b>
<b>第二學期</b>	池 の 鯉 牛 若 丸 桃 太 郎 君 が 代 駈 つ こ 菊 の 花 木 の 葉 兎 雀 犬	飛行機 の 夢 案 山 子 月 見 餅 天 長 節 紅 葉 富 士 の 山	<b>第一學期</b> 春 が 來 た 招 魂 社 雨 の 樂 隊 森 の 樂 隊 お た ま じ や く し 雲 と ん 雀 青 汽 ば 葉 終 業 車 玩具 の 飛行機 式
<b>第三學期</b>			<b>第二學期</b>

何 だ っ け 蟲 の こ え 蟲 の 樂 隊 秋 の 風 祭 村 雁 轉 車 雁 自 轉 車 自 シ ヤ ボ ン 玉 終 業 式 敵 は 幾 萬	夏 の 歌 <b>第二學期</b> 漁 船 蟲 の 樂 隊 運 動 會 の 歌 廣 瀨 中 佐 落 村 の 鍛 冶 屋 水 雷 艇 達 近 江 八 磨 景	海 納 涼 <b>第二學期</b> 朝 彌 月 秋 故 漁 業 菅 三 冬 景
<b>第三學期</b> 冬 の 夜 雪 投 げ 港 や す み の 鐘 日 本 陸 軍 烏 雀 と 鳥	<b>第三學期</b> 雪 合 戰 飛 行 機 風 船 中 玉 橋 里 祭 燈 電	<b>第三學期</b> スキー 學生 歌 駈 水 師 營 の 會 見 旅 泊 宮 大 塔 宮 勇 敢 な る 水 兵
<b>尋常科四年</b>		<b>尋常科五年</b>
<b>第一學期</b> 春 の 小 川 ひ な か の 四 季 雲 雀 雀 日 本 海 大 海 戰 つ ば め 摘 茶 來 山 螢 春 日	<b>第一學期</b> 春 農 夫 人 磨 明 形 須 鯉 の ぼ 石 夏 は 來 り 青 空 の つ ば くら	<b>尋常科六年</b>
		<b>第一學期</b> 朧 月 夜 舞 へ や 歌 へ や 朝 雲 雀 兒 島 高 德 朝 露 の 風 玉

いづこへ行く 蓮池 行けども	胡湖上の蝶 青葉の花 (男)汽車の旅 (女)晩野懐古 (男)日本刀友 亡きと豊	夕の鐘 都の夜 鶯告春
<b>第二學期</b>		<b>高等科二年</b>
四季の雨 乃木大將	(女)晩野懐古 (男)日本刀友 亡きと豊	<b>第一學期</b>
秋豊年 故郷の空	盲と豊	樂し我家 樂しき農夫 春の怨
鎌倉 白虎隊	<b>第二學期</b>	(男)春のあした (女)落花似
いくさの跡 雪景色	墳生の宿 寧樂の都 旅愁	(男)我國兵士 (女)ほたる家
<b>第三學期</b>	(男)豊太閤 (女)秋の夜半 (男)月下の陣 (女)他郷の月	故郷の廢家 (男)フーターロー (女)子守唄
ワシントン 夕の鐘 夜の梅	(男)豊太閤 (女)秋の夜半 (男)月下の陣 (女)他郷の月	夏の曙
(男)凱旋將士を迎ふ (女)坊や	風	<b>第二學期</b>
螢の光 仰げば尊し 師の恩	(男)火砲の雷 (女)哀れの少女 冬の夜のひびき	曉景 (男)聖壽無量 (女)秋の聲
<b>高等科一年</b>	冬の野	御寺の鐘の音 山居の美
<b>第一學期</b>	<b>第三學期</b>	菊 紅葉狩 霜の朝
山家春曉 (男)郵便車 (女)鶯のうた	高嶺 咲け花 懐友	(男)飛行隊のうた

(女)雁のさけび 氷滑		
<b>第三學期</b>		
笛の音		
(男)冬 (女)四季の月 (男)神洲男子 (女)琴の音		
花浦のあけくれ		
(女)夢 早春賦		
<b>式歌</b>		
君が代 勅語奉答 一月一日 紀元節 天長節 卒業式(夏) 終業式(冬) 同招魂社 金剛石		

# 目次

## 第一章 總 說

一 唱歌教授の眞生命.....1
1 美育としての唱歌科.....1
2 現今唱歌教授上の欠陥.....3
3 唱歌教授の眞生命.....4
二 改定小學唱歌の特色 及び取扱上の注意.....6
1 特 色.....6
2 取扱上の注意.....8
基本練習の問題.....8
樂譜の問題.....13
鑑賞教授.....14

## 第二章 各 說

### 細 目 の 部

尋常科第一學年.....
同第二學年.....
同第三學年.....
同第四學年.....
同第五學年.....
同第六學年.....
高等科第一學年.....
同第二學年.....

### 歌 曲 の 部

鳩.....1
練 兵.....2

ひよこ.....3
人 形.....4
兎 と 龜.....5
かたつひり.....6
一 年 生.....7
金 太 郎.....8
烏.....9
猿 と 蟹.....10
日本男子.....11
池 の 鯉.....13
牛 若 丸.....14
桃 太 郎.....15
駈 つ こ.....16
菊 の 花.....17
木 の 葉.....18
兎.....19
雀.....20
犬.....21
雪 達 磨.....22
鬼 ぞ つ こ.....23
ポチトタマ.....24
おきやがりこぼし.....25
紙 鳶 の 歌.....26
花 咲 爺.....27
大 江 山.....28

小 さ き 兵 士.....30	青 葉.....58
雲 雀.....32	汽 車.....59
こ う ま.....33	玩具の飛行機.....60
ほたるの子.....34	何だつけ.....61
蛙と蜘蛛.....35	蟲のこゑ.....62
浦島太郎.....36	蟲の樂隊.....63
蟬.....37	秋 の 風.....64
かみなりさま.....38	村 祭.....65
飛行機の夢.....39	雁.....66
案 山 子.....40	自 轉 車.....67
月 見 餅.....41	シヤボン玉.....68
紅 葉.....42	敵は幾萬.....69
富士の山.....43	冬 の 夜.....71
綱 引.....44	雪 投 げ.....72
餅 つ き.....45	港.....74
雪.....46	やすみの鐘.....75
笛と太鼓.....47	日本陸軍.....76
兎の餅つき.....48	雀 と 烏.....78
大 黒 様.....49	春の小川.....79
那須與一.....50	ひなかの四季.....80
ひ な 祭.....51	雲 雀.....82
春が来た.....52	日本海大海戦.....83
雨.....53	つ ば め.....85
森の樂隊.....54	茶 摘.....86
おたまじやくし.....55	螢 來 よ.....87
雲 雀.....56	春 日 山.....88
と ん ぼ.....57	夏 の 歌.....89



漁 船	90	秋 景	118
蟲の樂隊	91	故 郷	119
運動會の歌	92	漁業の歌	120
廣瀬中佐	93	菅 公	121
落 葉	94	三才女	122
村の鍛冶屋	95	冬景色	124
水雷艇	96	スキー學生歌	125
達 磨	98	駢 足	126
近江八景	99	水師營の會見	127
雪合戦	100	旅 泊	129
飛行機	101	大塔宮	130
風船玉	102	勇敢なる水兵	131
橋中佐	103	朧月夜	132
里 祭	104	舞へや歌へや	134
電 燈	105	朝雲雀	135
春	106	兒島高德	136
農 夫	107	朝 風	137
人 形	108	露 の 玉	138
須磨明石	109	いづこへ行く	139
鯉のぼり	110	蓮 池	140
夏は來ぬ	111	行けども	141
青空のつばくら	112	四季の雨	143
海	113	乃木大將	143
納 涼	114	秋	144
朝 の 歌	115	豊 年	145
彌彦山	116	故郷の空	146
月	117	鎌 倉	147

白虎隊	148	荒城の月	180
いくさの跡	150	月下の陣	181
雪景色	151	他郷の月	183
ワシントン	152	風	184
夕の鐘	154	火砲の雷	185
夜の梅	155	哀れの少女	186
凱旋將士を迎ふ	156	冬の夜のひびき	187
坊 や	157	冬 の 野	188
螢の光	158	高 嶺	189
仰げば尊し	159	咲け花	190
師の恩	160	懷 友	191
山家春曉	161	夕の鐘	192
郵便車	162	都の夜	193
鶯のうた	164	鶯告春	195
胡 蝶	165	樂し我家	196
湖上の花	166	樂しき農夫	197
青葉の笛	167	春の怨	198
汽車の旅	168	春のあした	199
晚 江	169	落 花	200
吉野懷古	170	船の眞似	201
日本刀	171	我國兵士	202
盲と聾	172	ほたる	203
埴生の宿	173	故郷の廢家	204
寧樂の都	174	ライターロー	205
旅 愁	176	子守唄	206
豊太閤	177	夏の曙	207
秋の夜半	179	曉 景	208

聖壽無量	210	終業式(冬)	248
秋の聲	212	招魂社	249
御寺の鐘の音	213	金剛石	250
山居の美	214	音階練習表	253
菊	215	音程練習表	254
紅葉狩	216	同 終 り	260
霜の朝	218		
飛行隊のうた	219	目次(終り)	
雁のさけび	221		
氷滑	222		
笛の音	223		
冬	225		
四季の月	227		
神洲男子	228		
琴の音	230		
花	231		
浦のあけくれ	233		
夢	236		
早春賦	238		
君が代	239		
勅語奉答	240		
一月一日	242		
紀元節	243		
天長節	244		
卒業式	245		
師の恩	246		
終業式(夏)	247		

細目式  
本譜入

# 小學唱歌教授書

## 第一章 總 說

### 一 唱歌教授の眞生命

#### 1. 美育としての唱歌科

音樂の價值、生命はここで改めて論ずるまでもない。今日あらゆる藝術中に、最も純粹で而も一般的で、他のものよりも高尚な地位にあると言ふことは一般によく認められて居るところである。古代から現代に亘つて、社會の階級と音樂の種類とを問はず、人の藝術心の覺醒培養と純雅優美なる美意識の涵養に對して音樂の貢獻して來たことはまことに甚大なものである。實に音樂は藝術教育美的教育上缺くべからざるもの、従つて人間生活上絶大な意義と使命とを有するものである。

小學校教育に於ける音樂教育を擔當する學科は唱歌科である。元來音樂には發表の形式方法に幾多の種類がある。今日西洋音樂のみでも、その樂器數は實に多いもので従つて、發表の方法が各樂器によつて異つて居るものである。日本音樂についても同様である。

然しながら萬人共通の音樂として、容易に理解され修得されるものは、聲學であらう。勿論専門的に聲樂を修練するとなると、なかなか容易な問題ではないが、各人の人格趣味の上から、それ相當に理解され發表され易いことは他の器樂より遙かに優れて居る。かかる關係上幼年兒童をしてその藝術的要求を満足させ美的情操の涵養をはかる爲、音樂の力をかりるならば勢ひ最初は唱歌科によ

ると云ふ様になつて來るのである。「唱歌する」と言ふことは、幼年兒童が僅かに言語を發し得る頃から常に彼等の慰安となり感情思想の發表となつて來て居るもので、歌唱は彼等から到底離すべからざる好伴侶なのである。現在小學教育に於て美育に關係ある學科は唱歌一つではない。圖書あり、その他讀方綴方地理體操等は皆それに貢獻するところが甚大なものである。然しながら前述の如く唱歌は最も一般的で、而も兒童とは搖籃時代からの友人である關係上美的陶冶をほどこすにも比較的容易な立場にあるもので、美育上まことに重大な使命を持つて居ると言ふことが出来る。

然して輒近に於て小學教育は次の如き事柄を要求するや寔に切なるものがある。それは現在の本邦小學教育に於て革新向上をはかるべきものは美育である。

近來我が小學校教育界は知育體育に於てまことに長足な進歩發展を見、現在に於てもその研究は日一日と精細を極めて行く様になつて居る。

我々は、極端に藝術教育美的教育を主張して教育の根本を、藝術教育にありとする者ではない、知育德育等と均衡を保つべきものとして美育の向上を主張するもので嘗つて藝術教育上にあらはれた穩健派とその軌を略同じうして居るものである。

かかる立場から、現在に於て唱歌科の研究と向上發展とはまことに現在小學教育渴仰の重大問題であると思ふのである。

本質的に考へて見ても、美育としてまことに重大な使命を有する唱歌科がその上に現在小學教育革新向上の爲に

一大活躍をせねばならぬと云ふ場合になつて居る。唱歌科の使命は實に重大なるものである。

## 2 現今唱歌教授の欠陥

美育としての唱歌科がまことに重大な使命を負つて立つて居ると云ふことは今述べた。

然るにこの重要な唱歌科には果して欠陥がないであらうか。換言すれば唱歌科は現在の有様で十分その使命を盡し得るだらうか。靜かに熟考する時吾人はまことに不安に堪へない。數多くの欠陥を列擧せざるを得ない。

第一 果して教授者自身が唱歌科の使命を理解してそれを達すべく努力して居るだらうか。

此點に於て吾吾は一つの疑團を持つて居る。教授者の中には頭から一種の侮蔑を以つて唱歌科を見てゐる者がなかなか數多いのではあるまいか。唱歌自身の價値を眞面目になつて考へてくれない。従つて眞面目な研究を遂げない。唱歌等を研究する者は一つの遊び事をやつて居る様に考へる者が少くあるまい。殊に學校長と云ふ様な主要な位置に立つ中にさう言ふ考の者が多かつたのではあるまいか。この事は唱歌科不振の根本問題であつて教授上の欠陥と云ふ様なものはこの態度から生れ出て居るのである。

それ故に

第二 唱歌教授上には研究さるべき問題がまことに數多く残つて居るのである。

ここに一々教授上の欠陥を擧げない吾吾はその煩に堪へない。總括して教法がまことに研究されて

居ないと言ふ事が出来ると思ふので、概括的の不満を述べて置く。

### 3. 唱歌教授の眞生命

現在の唱歌教授の多くは、唱歌が死んで居る。つまり唱歌がその生命を本當に發揮しては居ないのである。歌曲はただ一連の音の結合として兒童に唱謠を強ひられるので、兒童の藝術的空想を呼び起し藝術的要求を満足させる力がないのである。従つて兒童には感銘もなく喜悅もない。ただ定められた時間なるが故に唱歌すると言ふ様になつて居る。

これは全く教授者の着眼點が少々外れて居ることと、教授上の色々の取扱が拙い爲に起きて來るものである。一體現在の唱歌教授は、まことに忙しいものである。

元來藝術教育には受納(鑑賞)と發表(創作)との二つがある。而して兩者相俟つて漸く完全なものとなるのであるが先づ第一歩としてはどうしても受納(鑑賞)の態度を養はねばならぬ。鑑賞の態度眼識の出來た後、製作發表の方面に進み、その上兩者相より相助けて進歩せねばならぬ。現在の唱歌教授を見るに、鑑賞よりも發表の方面を非常に急いで居る兒童は唱歌室に臨んで直ちに歌者の位置に立たせられて技能上の細部(?)について小言を貰ふと言ふ状態である。

一體現在の教授者中には

教則中に示されてある「平易なる歌曲を歌ふことを得しめ」と云ふことを非常に重く見て獨立唱謠の能力を是非養はねばならぬと焦心して居る者がまことに多いのではあるまいか。

それが爲に技能上の事に関する知識から實際の唱歌上の細かな注意事項の要求が嚴に過ぎて遂に無味乾燥な唱歌教授となるのではあるまいか。

實技の方面からばかり強い要求をすることなく、兒童をして十分樂想を鑑賞させその中にとけ込んで我を忘れた一時間の唱歌教授とせなければならぬ。唱歌の氣分をうんと興して兒童をしてその藝術的空想を十分ならしめ藝術的要求の満足、美的情操の涵養をはからねばならぬ。まだ現在の唱歌教授は、樂曲上の諸規定を詳しく授けて獨力で唱歌し得る様にするとか澤山の音程練習表等によつて無味乾燥な基本練習をさせる等には進んで居ない。十分な鑑賞と忘我的態度にて唱歌する事が生命である。さてここに一つ大切なことは教壇上に於ける教授者の態度である。唱歌の氣分を作興するにはまことに重大な問題である。

從來の唱歌教授には、どうも「教授せねばならぬ」と云ふ考があまりに硬すぎる様に思はれる。それが爲に兎角兒童に對して一種の威壓と窮屈とを感じさせる様になる。教授者は宜しく「兒童と一緒に愉快に歌ふのだ」と言ふ様な考の下で、教室に臨み、すべて態度は柔かに又教順等も形式ばらないことが大切である。

教授汎論で示す練習の方法と云ふ様なものを、あまりに正直に應用し過ぎて「今度は男子」「今度は女子」「第一列」「次は第二列」「次は第三列」「次は何」と云ふ様に無味乾燥にただ練習を繰り返して行く爲に唱歌の氣分を滅殺し、兒童の倦怠を來すことが幾許か知らない。

極めて樂な態度で十分樂想の中に溶け込み、感激の一時

間を送ると云ふのが唱歌教授の生命であると思ふ。  
此の如くして、児童の藝術的要求も満され藝術教育美的教育も達せらるるものではあるまいか。  
以上はただ唱歌教授の眞生命に對して概論したに過ぎぬ。細かな問題が澤山あるが要するに、唱歌の使命を十分理解して教壇上に立つに十分の確信を持たねばならぬ。小さな問題は此の確信一つで大體解決がつくと思ふのである。

## 二 改定小學唱歌の特色及び取扱上の注意

- 1 特色。大正六年に増補訂正された當校編小學校唱歌も、その後児童心理、教育思潮實際授業等の研究の結果からここに大改定を行つた。  
従來のものに比較して次の様な特色のあることを信ずる。

### 歌曲撰擇上

- (1) 多くの歌曲の中から特に児童の興味に適應した快活純雅なものを多く撰擇したこと。
- (2) 撰擇された歌曲は分量の上に於ても従來のものよりも遙に多くて児童の嗜好に適應した歌曲を教授することが出来る様に教授者に撰擇の自由を與へたこと。唱歌教授に當つて教授者に多くの曲の用意がない事は最も遺憾とするところである。教師自身の豫期した歌曲一つだけを用意して教壇上に立つときは児童の嗜好に投合した歌曲を授けることが出来なく、勢ひその曲の唱謠を強要する事になる。これは児童の音樂性の陶冶から見て最も残念とするところである。
- (3) 児童の興味や發達程度から見て歌曲を撰擇したのであるが、従來のものに比して低學年では一層平易な児童の日常實際生活と關係ある美しい口語詩をもつ

曲を撰擇する様にした。

一體従來の唱歌中には割合に歌詞が六ヶしくて低學年児童には理解され難いものがなかなかあつた。當校編のものは此の點に關しては従來のものも随分苦心して居るもので、他の唱歌集に於てかかる難點のまことに多いのに比べては、遙かに優れて居るが今般は特にこの方面に意を用ひて歌曲を撰擇したのである。

高學年に至つては、重音唱歌の數をうんと増加したそして一般に樂想も高尚になつて來たのである。

- (4) 高學年に至つては教材を男女別にしたこと。
- (5) 本唱歌集を教材とする當校細目には、基本練習に對する細密な配當案がない。この點は従來の當校編細目に比し又現今出版されて居る各地小學校の細目に比し、まことに粗雜の様に見えるのであるが、當校が小學校唱歌科の眞生命と認めた點から基本練習取扱上の考に變更を來し、ここに大膽にも従來の例を破つて基本練習の配當案を作製せず、専ら教師の必要に應じて適宜自由に課する形としたのである。この事は細目の記載形式上に變化を來すばかりでなく小學校唱歌教授の根本問題に觸れた重大事であると確信する。

### 歌曲の排列上

ここに特記すべき事は各學期の實際教授時數よりも遙に多くの歌曲を排列してある事である。高學年に至つては三・四時間のところへ、二・三曲ばかりづつを記してある。これは教授者の任意の選擇に委せる爲

になしたので、ただ矢鱈に多くの歌曲を時間一杯に配當したのではない。

## 2 取扱上の注意

### 基本練習の問題

前述の様に當校新細目には基本練習の細密な配當案がない。如何なる考の下に此の如くなしたか又どれ位の程度にこの練習をなすべきかを以下に述べて取扱上の参考に供したいと思ふ。

基礎的修練の必要なるは萬事に共通である。殊にそれが技能に關係を有するものでは是非とも基本的練習によつて漸次上達熟練をはからねばならぬ。

唱歌法は一つの技能である従つて唱歌教授に於ては技能の修練を助成する爲には是非とも基本的練習が必要である。如何にして基本練習を課すべきかと云ふ問題はこれまで随分研究されて居る問題で、細密な配當案も數多く公にされて居る。

然し、前項の唱歌教授眞生命に於て述べた様に技能の修練にのみ重きを置いた我國唱歌教授の實際から見、今度は如何にすべきか。一週僅僅一、二時間の唱歌教授に於て兒童をして十分樂想中にひたさせるには如何なる程度に基本練習をするか。實に根本的の重大問題である。當校は唱歌教授の眞生命と實際教授時數との關係から、基本練習はなるべく特設しないで進みたい。若し止むを得ず特設するとしても極めて軽くやりたい。

教師が受持兒童の能力を十分考察した結果必要に応じて軽く、自由に課する様にさせたい。歌曲は立派

な音程練習表である。なるべく歌曲そのものについて基本的練習をなす様な効果を擧げて行きたいものである。かかる考の下で基本練習配當案は明示してないのであるが、教授者は兒童の程度を考慮して適宜これ等の練習をやつてほしいのである。

次に基本的諸練習に對する當校の大體の態度を示して置く。

### (1) 呼吸練習

方法……………  
                   { 緩吸緩呼  
                   { 急吸緩呼

#### 實施上の注意

○毎時間二つの方法によつてこの練習をやつて行きたい。

入學當初の尋一等にもやる事は出来るが先づ第二學期頃から漸次課するのが適當であらう。

○鼻腔、口腔共に使用させること。大體に於て發聲しない場合には鼻から吸入して口から呼出し發聲する場合には口から吸呼をなすがよからう。

○吸氣が正確に行はれて居るかどうかを檢べるには呼氣の場合に發聲させるがよろしい成るべく長く音を出す事の出来る様に練習させるがよろしい。

### (2) 發音練習

發音の明瞭透徹で、且つ美しいと言ふ事は唱歌上重要な條件であつて國語科とも連絡をとつて十分練習することが大切である。

#### 方法及び實施上の注意

○母音の練習

アエイオウの順序がよからう。

最初は一音づつ練習し稍熟した後は連続させて一呼氣の中に發音する様にするがよい。

口形圖の活用をやつて、十分その要領を呑込ませねばならぬ。

#### ○子音の練習

子音の練習は鍊聲の上からも大切なものであつてこれによつて、硬い聲を柔かに圓味を持たせる事に出来るのである。

唱歌の時間に限らず讀方等でよく練習して置きたい。

#### 一 例

ナ＝舌の運動を輕快にする。

タ＝スタッカートstaccatoの練習に適して居る。

ミ＝唇の運動の練習に適して居る。

なるべくこの練習の爲に緊張した最初の時間をさきたくない。時間の中か終頃に至つて兒童の休息時間中にやりたい。

#### (3) 發聲練習

○この練習は唱歌教授上最も重要なもので、生來の惡聲にして驚くばかり優良なるものたらしめる事が出来る。

○本練習によつて、聲音の明瞭、優美、自由、充實、共鳴等をはかること。

○發音練習によつて口形と聲音との關係を練習し音階、音程練習によつて音の上下と聲音との關係を練習會得させねばならぬ。

#### (4) 音階練習

○大體に於て時間の初めに練習するがよい。

○1 から4までを正確に練習し移調することによつて用聲の自由と、音階の正確圓滑をはからねばならぬ。

○時時樂器をはなれて譜表について指唱練習をさせるがよろしい。

#### (5) 音程練習

○正確に唱歌するにはこの練習を多くやらねばならぬ。單に技巧を進める上からはこの練習を系統的に毎時數多くやるに限る。

系統音程練習表が經驗ある教授者によつて發表されて居るから、教師は必要と認むる場合適宜に練習して置くがよろしい。

然し一時間中に、獨立音程練習及び豫備音程練習を數多くなすわけには行かぬなるべく實際の歌曲について練習させたいのである。

○譜表について簡単な音程指唱を練習する事は極めて大切な事である。

#### (6) 聽音練習

發聲の修鍊に先つて大切なことは耳の修鍊であつて聽音練習は卓越した鑑賞力を養ひ延いては唱謠上甚大の効果を齎らすものである。

○音の長短、高低、強弱、美醜等の判別から進み。

○尙進んでは當方練習をさせるがよい。

○尋三位から協和不協和について練習し、又複音について、その音の數、協和の良否等を鑑別させ

る様にして聴覺の練磨をはかり複音唱歌教授上の豫備ともするがよい。

○なるべく時間の中及び終等の休息時にさせるがよろしい。

(7) 讀譜練習

○尋常五年或は六年に至つて、本譜視唱法で唱歌させる方針であるがそれが爲には是非讀譜練習をやらねばならぬ。

○尋三 五線上の音名  
尋四 五線上の音名

五線上を任意に指して階名を唱へさせるこの時音の高低をあらはして指唱の練習をやつ、音程練習に役立たせたい。

尋五以上 直ちに本譜視唱を強要してはならぬ。

最初は教師の補導を主として漸次獨立で歌ふ様にさせる。

實際の歌曲について練習するが、時折、五線を用ひて指唱をやらせたい。

(8) 拍子練習

○歌曲について  $\frac{2}{4}$   $\frac{3}{4}$   $\frac{4}{4}$   $\frac{6}{8}$  等の拍子を説明して拍子の觀念を明瞭にすること。

○大體に於て拍節について練習し、打節、呼節等も簡単に説明してやるがよい。

○拍子はなかなか六ヶしいもので、休止符などが

入ると一層不正確になり易い。

實際歌曲について十分練習する事が大切である

○尋六又は高等科に至つては指揮法等も簡単に授けてよからう。

樂譜問題

尋一、二	聽唱法
尋三、四五	複式聽唱法
尋五、六	視唱法(本譜)
高等科	同 (同)

本譜か略譜か又何學年がそれ等を課すかの問題は古くして而も現在尙議論區區としてその解決を見ないところである。

當校では上記の如く尋五の後半頃から本譜視唱法によつて授けたいと思ふ。

本譜視唱について注意すべき事は、決して本譜教授を急いではならぬ事である。本譜は從來人によつて論議されて居る様六ヶしいものではない様に感ぜられる。それ故に尋五位から十分本譜視唱法によつて教授出来ると思ふ。然し樂想を十分に鑑賞させることが主であるから、その教授を急いではならぬ。若し尋常三、四年に於て讀譜の基本練習が出来て居なかつたら尋五で授けずに尋六からはじめてよろしい。

尋三、四年では極めて平易に本譜の効用を話してきかせ、五線について音階名を十分理解させ、指唱法によつて基本練習をして置くこ



とが大切である。  
尋六の終り頃に於ては略譜について大體の説明と練習をさせて卒業させたい。

鑑賞教授

○教授時間中

新授の歌曲は教師の巧妙な範唱を十分鑑賞させねばならぬ。

その他時間の都合で授け得なかつた歌曲はなるべく鑑賞教材として取扱ふこと。

鑑賞教材用とも考へて多くの歌曲を採用してあるから。

鑑賞によつて得た兒童の藝術的空想は記録保存して教授の参考にした。

○教授時間外

音樂會等の場合は精細に批評してやること。

音樂會唱歌會等の音樂的會合をなるべく多くしたい。蓄音器又は他の色々の樂器について鑑賞の機會を多くしたい。

以上直接この細目を使用する上に注意すべき事項について簡単に述べた。當校の根本的態度を十分了解されて細目運用の能率を擧げ唱歌教授の向上をはかつて貰ひたいものである。

第二章 各 說  
尋常科 第一學年

第一學期

月 (旬)	歌	教授上の注意	参考事項
四 (上) (中)	○鳩	(一時間半)	連絡
	1 擬聲を巧に取入れて小綺麗に出来た歌曲而も全曲を流れる親愛な感が大切である		讀本一 教室は行進の出来る様に、椅子の配列して置いて時々行進しながら唱歌させ、倦怠を防ぐ様にしたらよからう。
	2 第一段第三小節の3音は明瞭に5 3 1 は5 3 1 とならぬ様に。		
	3 第二段第三小節も前同様。		
	4 各段終りの二分音符は正確に二拍を保持させること。		
	5 兎角唱歌になれない兒童の常として必要もないのに附點にして歌ふものである。やたらに附點音符とならぬ様、特に注意を要する。		
	6 「ポツポツポツ」の擬聲語は軽く而も明瞭な促音として唱はせること。		聴唱法による
	7 歌詞「ミンナデ」は「ミーンナデ」の如くに歌はせる尙「とんでこい」「そろつて」も同様。		
四 (中)	○練	兵 (一時間半)	
	1 擬聲を巧に用ひたことは前課同様入學當初の兒童には極めて愛好される。第三段及第四段は特に兒童の生活とも關係があるので、愉快なよい歌曲である。		

2 第一段第三小節  $\underline{6.6} \underline{1\ 1}$  の  $\underline{1}$  が  $\underline{6}$  になり易い。

3 第四段第二小節  $\underline{3\ 2}$  が  $\underline{3\ 2\ 2}$  になり易い

4 擬聲語は皆軽く而も稍促音的に歌はせるがよい。

6 吸氣が前教材よりも困難であるから亂れない様によく注意させねばならぬ。

四  
(下)  
五  
(上)

○ひよこ (一時間半)

1 小さな子供が解つたばかりのひよこに向つて極めて無邪氣に物言つて居る様な、やはらかな親しみのあるいい曲である。

2 全體を愛らしく軟かに歌はせねばならぬ

3 速度が遅くならぬ様に特に注意すること

4 第一段第三小節及第三段終の  $\underline{6}$  は共に軽く優しく。

5 休止符はその時價を正しく休むこと。

6 歌詞中キヤウダイ、イツショ=等は流暢に「かはいい」は「かはいー」の様に歌ふこと。

○人形 (一時間半)

五  
(上)  
(中)

1 兒童殊に女子の日常生活に關係して居て優しい、愛らしいいい曲である。

2 第一段第三小節の  $\underline{5\ 3\ 1\ 2}$  の下行音は明瞭に歌はせること。

3 第四段第一小節の  $\underline{1}$  音は明瞭に歌ふこと

4 各段最後の附點二分音符は正確に三拍を數へ又休止符は必ず一拍を保つ様にする

こと。  
5 速度が遅くなつて、だれない様にする

五  
(中)  
(下)

○兎と龜 (一時間半)

1 童話と關係があつて兒童が大へん喜ぶ唱歌である。殊に又歌詞が問答式になつて居るので一層よい。

2 第一段第二小節  $\underline{3.2}$  の  $\underline{2}$  が  $\underline{1}$  に下らぬ様に、又  $\underline{3.2}$  が  $\underline{3.3}$  とならぬ様に。

3 第二段第二小節  $\underline{3.3}$   $\underline{1}$  は正確に。

4 第四段第一小節  $\underline{1.1}$  が  $\underline{1.6}$  とならぬ様に

5 兎と龜との二組に分けて歌はせ對話唱歌的に練習するも面白い。

五  
(下)  
六  
(上)

○かたつむり (一時間半)

1 形の奇怪な動物を歌つたのであるから旋律も又仲仲面白く出来て居る。

軽い勇しい調子の中に滑稽的の面白味が溢れて居る。

2 第二段第一小節は正確に。

3 第三段各小節の第一の音にアクセントをつけて而も重くならぬ様に輕快に歌はせること。

連絡  
修身卷一

連絡  
讀本卷一

- 4 附點音符と然らざるものとをよく區別して歌ふこと。
- 5 各段はなるべく一息で歌ひ、終りてしつかり一拍だけ休む様にすること。

六(中)

○一年生 (一時間半)

- 1 愉快な旋律の中に、力強い希望の光が見える歌である。歌詞は修身的に出来て居るがあまりに教訓的に説明などせぬ様に。
- 2 第一段第二小節の1が5に至る完全四度は正確に。
- 3 第三段及第四段第一小節の休止符は必ず休むこと。
- 4 第三段第三小節は大切な部分であるから正確に。
- 5 附點の工合に特に注意すること。

六(中)  
六(下)

○金太郎 (一時間半)

- 1 童話と関係があつて而も歌詞が面白く出来て居る。第三段で金太郎その人がありありと浮び出る。快活な而も落付のあるよい歌である。
- 2 第二段の第二小節及、第三段第三、四小節の音程を正確に。
- 3 附點の有無及強弱の工合をよくつけて歌はせること。

連絡

童話  
繪畫の利用によつて兒童の興味を一層増すことが出来る

七(上)

○鳥 (一時間) 補充教材としてもよろし

連絡

讀本卷一

- 1 夕暮軒端に立つて居た一人の子供がねぐらに歸る鳥を見て自然に獨語でもする様に歌はれる唱歌である。  
變化がない様ではあるが一心にお宮の森をさしてないて行く鳥の曲としては却つてよいのであらう。
- 2 附點の有無殊に第一段及第四段の第一小節第二小節に注意させねばならぬ。
- 3 極めて軽い淡い調子で歌はせるがよい。

七(中)

○猿と蟹 (一時間半)

連絡

讀本一

- 1 讀本中の童話と、しつかり結びついた、まことによい歌曲である。歌つてゐると蟹に對する同情心が自然にわいて來る。親愛の感のこもつた而も勝利の快味が溢れる様な歌である。
- 2 附點殊に各段第三小節は十分注意して誤らぬ様に。
- 3 第三段第一小節及第四段第一小節の音程は特に正確に。
- 4 吸氣の場所には必ず正確に呼吸すること

七(中)  
七(下)

○日本男子 (一時間半)

- 1 軍歌的色彩を帯びた勇しい歌である。  
遊戯との關係上好適の材料ではあるが少六ヶしいかも知れぬ。

本教材が兒童の程度に合はないならば之を、後に廻すか又は二年生用とするがよい。

- 2 第二段第二三小節の音程を正確に。
- 3 第五六段の第一二小節は六ヶしいが音程を正確に。
- 4 軍歌的のものは兎角強くなり勝ちだから一音又は一音半位下げて歌はせるもよい

### 第二學期

九(上)  
九(中)

#### ○池の鯉 (一時間半)

- 1 池の端に立つて輕快に鯉を呼んで居る子供の有様が目に見える様な有様である。第四段の最後二小節が如何にも輕快な而も可憐な愛情を示して居る。
- 2 第一段第一小節の5は明瞭に、而して第二小節に移る音程は正しく六度となる様に
- 3 第一節第三小節4音は上りすぎて5にならぬ様に軽く歌はせること。
- 4 第二段の終りと、第三段の初のオクターブは正確に。
- 5 第三段は殊に強弱を明瞭に。最後の二小節を弱くするか又は最終一小節だけを特に弱くしてもよろしい。

#### 連絡

讀本卷一  
呼吸練習を極めて輕やかに課してもよからう。  
毎時一二回やればよろしい。

九(中)

#### ○牛若丸 (一時間半)

- 1 讀本、遊戯と關係ある上に、勇壯なよい唱歌である。元氣に満ちみちた歌ひ方はよいが、粗放に流れない様に。

#### 連絡

讀本卷二

- 2 第一段第二小節、及第三段第一小節の完全四度は正確に。
- 3 一小節中附點音符と單純音符の所がある混同しない様に。
- 4 第二、四段第二小節の2.2は2.3となり易い第三段第二小節6.6は6.7になり易い。注意せねばならぬ。

九(下)  
一〇(上)

#### ○桃太郎 (一時間半)

- 1 讀本や遊戯と關係あるのは前課同様に兒童は大へん喜ぶ平易の中に、元氣と喜びの満ちた歌曲である。
- 2 第二段第三小節の3 6の完全四度を正確に。第三段第二小節も同様。
- 3 兎角附點になつてアクセントが殊更に強くなり勝であるから、特別に注意させねばならぬ。
- 4 桃太郎、雉子、猿等と組を明けてやらせるも面白からう。

#### 連絡

讀本卷一  
參考教材  
桃太郎  
(幼年唱歌)  
田村氏

一〇(上)  
一〇(中)

#### ○君が代 (二時間)

- 1 この程度の兒童には六ヶしいが式日の關係上ここで教授して置くがよい。正確を要求することは出來難いから、漸次仕上げる様にしたい。
- 2 儀式唱歌を歌ふときの作法を授け、正し

鑑賞教材  
星(舊細目)

い姿勢で歌はせねばならぬ。

- 3 第一段第四小節の 7 の音程を正しく。
- 4 第二段第二、三小節の 2 から 3 に至るところを正しく。
- 5 第三段第二小節の 2 6 を正しく。
- 6 各段の二分音符は二拍以上になり易い。
- 7 吸氣を正しくすること。
- 8 速度は指示されたものよりも少し早くするのがだれないでよからう。

一〇(中)(下)

○駢つこ (一時間半)

- 1 スタッカットを入れた勇壯な、綺麗な歌曲である。
- 2 スタッカットの歌ひ方について、よく教授を要する。
- 3 第一段第二小節は軽く歌つて、休止符は正確に休むこと。
- 4 第二段、第一小節 6 7 は正確に。
- 5 第二段第三小節の 1 7 5 の音程を正しく
- 6 第三段第二小節の 5 3 2 3 をしつかり。
- 7 少し六ヶしいかも知れぬ、軽く歌はせるがよい。

一一(上)(中)

○菊の花 (一時間半)

- 1 静かな軟かなよい歌曲である。
- 2 第一段第二、三小節にわたつて 5 から

連絡  
讀本卷二

5 への完全八度は正確に。

- 3 第二段第三小節 1. 2 3 4 の 4 は上りすぎない様に、而も優しく。
- 5 第三段第二小節 1 が 2 になり易い。  
1 5 の音程は正確に。
- 5 第三段最後の附點二分音符は正確に三拍引く様に。

一二(中)

○木の葉 (一時間半)

- 1 軽快にまことに美しい歌曲である。  
附點及、十六分音符、それに休止符がまことに輕妙に使はれて居る。
- 2 附點の有無に餘程の注意を要す、第一段第一小節は兎角附點となり易い。
- 3 第四段第一小節の 7 が下り易い。  
第二小節の音程を特に正確に。
- 4 各段最終曲は軽く歌つて休止符を正確に休むこと。
- 5 全體を軽く少し早めに歌はせるがよからう。

一二(下)  
一二(上)

○兎 (一時間半)

- 1 曲、歌共に可愛らしく、上品に出来て居る。
- 2 半音程が、多く出て居る、誤らぬ様に。
- 3 第三段はこの曲の主要部分であるから音程に誤ない様、正確に歌はせねばならぬ。
- 4 愛らしく流暢に歌はねばならぬがあまり

連絡  
讀本卷二

遅くならぬ様に。

一  
二  
(上)  
(中)

○雀 (一時間半)

- 1 少し程度が低い様ではあるが、可愛らしく出来てよい歌曲である。  
問答式に出来て居るので興味も多い。
- 2 第三段第一小節  $\dot{6} \dot{1}$  は正確に。
- 3 附點とならぬ様に歌ふこと。
- 4 動物に関する教材が、三つづくから兒童の状態によつては、これを除いて他のものを教材とするもよろしい。

一月一日の準備に君が代を練習して置くこと。

一  
二  
(中)  
(下)

○犬 (一時間半)

- 1 實によい曲である。小さな兒童がポチとの親密な間柄、面貌動作が目に見える様である。  
第三段が殊によい。
- 2 第二段第二小節の  $\dot{1} \dot{5}$ 、第三小節の  $\dot{6} \dot{5} \dot{3} \dot{1}$  を正確に。
- 3 第三段は、附點をしつかり。
- 4 獨唱曲として好適のものである兒童の藝術的空想に委せて、速度等は少少位遅くなつてもよろしい。

第三學期

一  
(上)  
(中)

○雪 達 磨 (一時間半)

- 1 快活なよい歌曲である。第三段は歌詞曲共に、兒童の興味に適して居る。
- 2 第一段第三小節  $\underline{3 \ 4}$  をしつかり。
- 3 第三段は殊に輕快に。第三小節は附點を正確に歌はなければならぬ。
- 4 第四段第一小節  $\underline{\dot{1} \cdot \dot{6} \dot{5} \dot{6}}$  を正確に歌ふこと。
- 5 速度が早いから、輕く歌はせるがよい。

音階練習極めて簡単なものを行ふてよからう。

一  
(中)

○鬼 ご つ こ (一時間半)

- 1 全體が輕い快活な調子で兒童の興味にも適して居る。第一段は殊によい。
- 2 全體を輕く、歌はせ。附點のあり場所を特に注意させねばならぬ。
- 3 第二段、第三小節四小節の音程は正しく。
- 4 第三段、第三小節、第五小節の音程は正しく。

一  
(下)  
(上)

○ポチとタマ (一時間半)

- 1 全體の旋律はやや一年生に似て居るが一層可愛らしく、優しく出来て居る。
- 2 第三段第二小節、三小節の音程を正しく
- 3 流暢に歌ふのであるが、あまり遅くならぬ様注意が大切である。

君が代を改めて練習して置かればならぬ。

一  
(上)  
(中)

○おきやがりこぼし (二時間)

- 1 快活で、而も滑稽味を帯びたまことによ

い曲である。休止符が巧みに用ひられた爲であらう。児童の日常生活とも結びついて興味多い歌曲である。

- 2 第一段及第二段の最初にある休止符は正確にその時價を保持させなければならぬ
- 3 第二段、第三小節の2 5の音程を正確に
- 4 第三段第三小節が5 6 5 3とならぬ様に
- 5 第一、二、四段は軽く、稍滑稽に、歌はせねばならぬ。

二  
(下)  
三  
(上)

### ○花 咲 爺 (二時間)

- 1 讀本と連絡ある爲、児童には理解され易く、而も興味深い。教材である。殊に第三段は遺憾なく、あの童話の感を描出して居る。
- 2 附點音符の有場所に注意を要する。  
第一段第一小節 3 2 第二段の第一小節 3 2 は共に附點になり勝である。
- 3 第一段第三小節の 2.1 6 1 の音程を正確に。
- 4 第三段第二小節、第七小節は共に、軽く而も齒切りよく、滑かに歌はねばならぬ
- 5 時間も多く配當してあるから、そろそろ正確に、唱歌させる様努力したい。

三  
(上)  
(中)

### ○紙 鳶 の 歌 (一時間半)

連 絡  
讀本卷二

- 1 軽快な、歌曲で、児童の實生活と関係があるから、児童に好かれる。
- 2 第一段及第三段にある 3 4 の4が上り過ぎない様に。
- 3 第二段の第二小節が第三小節に移る所は同一高度を保つ様にする。
- 4 歌詞中呼か呼かけの言葉や感動詞には感をこめて歌ふ様練習せねばならぬ。
- 5 遅くなると、曲が生命を失ふから、早い位になるとも決して遅れない様に歌はせねばならぬ。

三  
(中)  
(下)

### ○卒 業 式 (一時間半)

- 1 儀式唱歌中割合に簡単であるから授けて置くがよい。
- 2 第三段第二小節の4を上げること。
- 3 第四段第三小節の7は正確に。
- 4 随分高いから、一二音下げて練習して置くがよい。勿論完全を期するのてないが年を追つて練習を重ねて行かねばならぬ

第一學期

四  
(上)  
(中)

○大江山 (二時間)

連絡  
讀本卷二

- 1 歌詞は難解なところがあるが、童話と関係して居るので兒童に好まれる。
- 2 第二段及第四段第三小節の音程を正確に6が曖昧にならぬ様に。
- 3 全體を弱く軽い調子で歌ふこと。

四  
(中)  
(下)

○小さき兵士 (二時間)

- 1 兒童日常遊戯の状況を巧みに歌つたよい曲である殊に第五、六段がまことによろしい。
- 2 第五段第一小節、3231を正確に。
- 3 殆んど全部が附點になつて居るなるべく軽く、快活に歌はせるがよい。
- 4 第五段第六段は、前四段に比べて速度を早く歌ふ方がよろしい。

五  
(上)  
(中)

○雲雀 (一時間半)

鑑賞教材  
噴水(大正幼年唱歌集)

- 1 曲歌がびつたりと合つたまことによい歌曲である。  
殊に第三段、四段に至つては雲雀をうつして餘すところがない。この二段はこの曲の生命である。
- 2 第一段第一、二小節の附點音符は正確に
- 3 第三段の音程は正確に歌はねばならぬ。

第一、三小節は強く、第二、四小節は弱く、第三小節第一音が強過ぎない様に。

- 4 第四段第一小節の4は正確に。
- 5 第四段は、漸次細く、丁度消えて行く様に歌はせること。
- 6 速度は、指示してあるものより早くても遅くならぬ様に。

五  
(中)  
(下)

○こうま (二時間)

- 1 快活な、まことに齒切りのよい歌曲である。馬を愛する兒童の心情に好適のもの巧に用ひてある休止符がある爲兒童は實に喜ぶ。
- 2 第一段第一、二小節の1.5.の五度を正確に、又強弱を明瞭に極めて軽く歌はせねばならぬ。
- 3 第一段第三小節の6.及第二四段第一小節i.第三段第三小節のiは軽く正確に。
- 4 各段最後の八分音符が強くなり勝てあるから注意を要する。
- 5 第二段以下所所にある、半音程を正確に歌はせなければこの曲がこわれてしまふ
- 6 「こうま」は「こんま」の様に軽く歌ふ。

五  
(下)  
(六)  
(上)

○ほたるの子 (一時間半)

連絡  
讀本卷二

- 1 旋律も簡單ではあるが、まことに可愛らしい。曲である。



2 第二段第三小節四小節の  $\underline{\underline{6622}} | \underline{\underline{5}}$  を正確に。

3 第三段一二小節及四、五、小節の音程も正しく。

4 第三段第一四小節は軽く歌ふこと。

六(中) ○蛙と蜘蛛 (二時間)

1 歌詞が教訓的に出来て居るから採つたのではない旋律がいかにもよく出来て居て親愛の感がよくあらはれて居るからである徒らに教訓的の説明や敷衍は禁物である。

2 第一段第二小節の1が下らぬ様に。

3 第二段第二小節の2が上つて3になり易い。

4 第三段第四小節の音程を正確に。

5 第四段7は正確明瞭に。

6 各段最後に休止符かない爲最後の音が短く強くなり勝である弱く歌はねばならぬ

7 吸氣について特に注意させねばならぬ。

六(下) 七(上) ○浦島太郎 (一時間半)

1 童話を歌つた上に流暢な歌曲で好適の材料である。

2 各段の前二小節と後二小節の節奏の形式が異つて居るから、附點の工合を誤らない様にさせねばならぬ。

3 第三段第一小節4が5になり易い。

4 全體を輕快に歌はせねばならぬ。

七(上) 七(中) ○蟬 (二時間)

1 スタッカートや、擬聲語を巧に取入れて實に面白く齒切りよく出来て居る。

2 全體を輕快に歌はなければならぬ。殊に第三段、二、三小節第四段二小節は尙更である。

3 スタッカートは輕快明瞭に。

4 附點二分音符 二分音符が短くなり易い

5 第三段第一小節が  $\underline{\underline{22121}}$  となり易いから注意を要する。

6 擬聲を多く用ひてあるから、強弱をしつかりつけて歌はないこと、折角のものが無趣味となり易い。

七(中) 七(下) ○かみなりさま (一時間半)

1 子供にはよくありさうな題材をとらへて而も、滑稽的に作曲したところに生命がある。

2 第二段第一小節4は明瞭に出し、上り過ぎぬこと。

3 第三段第一小節25の音程を正確に。

4 第四段第一、二小節4音を正確鮮明に歌ふこと。

5 附點音符のあり場所に注意すること。

連絡  
讀本卷三

### 第二學期

九  
(上)  
(中)

#### ○飛行機の夢 (一時間半)

- 1 快活なまことによい曲である。歌詞もよく出来て居る。最後に候をつけて、滑稽味をあらはしたことは曲の軽快さとよく合つて居る。
- 2 各段前二小節と後二小節とは附點のあり場所が異つて居るからよく注意させねばならぬ。
- 3 第四段第三小節の  $\underline{5\ 6\ 7}\ 6$  軽く滑らかに歌はなければならぬ。
- 4 候は軽く、消える様に歌ふこと。

九  
(中)

#### ○案山子 (一時間半)

- 1 快活で、而も軽い滑稽味を帯びた歌曲で兒童の非常に喜ぶ良教材である。
- 2 第一段第三小節は無暗に早くすることなく滑らかに軽く歌ふこと。
- 3 第四段第三小節  $3\ 4$  を正しく、又第四小節の完全五度も正しく。
- 4 この様な歌曲では殊更附點のあり場所を注意せねばならぬ。
- 5 各段第四小節はスタッカットの様な歌ひ方にならぬ様、十分の時價を保つて軽く歌ふこと。
- 6 歌詞中かあかあとは滑かに歌ふこと。

九  
(下)  
一  
〇  
(上)

#### ○月見餅 (一時間半)

- 1 歌詞は、よく出来て居る曲は少し單調の様ではあるが却つて静かな、親しみの感を起させるには適當であらう。
- 2 附點になり易いから注意を要する。
- 3 第一段第三小節第三段第三小節の五度音程を正確に。

#### ○天長節 (二時間)

- 1 儀式唱歌として授け、敬虔の念に富んだ曲趣を味ははせたい。本歌曲は儀式唱歌中最も六ヶしいから、本學年では到底完成を期し難い。年を追ふて練習し完結させねばならぬ。  
兒童の程度によつては三年へ廻してもよい。
- 2 第一段第一小節から、第二小節に跨る  $1\ 4$  の完全四度音程は、 $4$  をしつかり上げて歌はせねばならぬ。
- 3 第二段第二小節の  $1\ 4$  も同様。
- 4 第一段第三小節の  $4$  が  $3$  とならぬ様に。
- 5 第三段第三小節の  $6\ 1$  の  $1$  が上り過ぎない様に又あまり強すぎない様に。
- 6 第四段第四小節の  $4$  第五小節  $3\ 5\ 4$ 、 $2$  の音程を正しく、 $3\ 5\ 3$ 、 $2$  となり易い。
- 7 速度に注意して、だれた歌ひ方をしな

一  
〇  
(上)  
(中)

君が代の復習儀式唱歌を歌ふ場合の作法を注意せねばならぬ。

連絡  
讀本卷四

い様にすること。

一  
〇(中)  
(下)

〇紅葉 (一時間半)

- 1 實に優美に出来た曲である。満月紅なる秋景が、眼前に髣髴として浮んで来る。非常に児童の喜ぶ教材である。
- 2 第一段第三小節の7 1を滑かに、25の完全四度を正確に歌ふこと。
- 5 は軽く歌つた方がよい。
- 第二、四段も同様。
- 3 第三段第一小節の3 4も滑かに、正確に
- 4 歌詞中「ユウヒ」とか「モヤウ」等を滑かに歌ふこと。
- 5 連合音符の部分は特になめらかに美しく歌はせること。

二  
(上)  
(中)

〇ふじの山 (二時間)

- 1 美しくよく出来た歌曲である。歌つて居ると、富士山の形がはつきり浮んで来て、一種、嚴肅な崇高な感に打たれる。實によい曲である。
- 2 第一段第三小節の音程を正確に。
- 3 第二段第二小節も同様、滑かに。
- 4 第二段、第三小節及、第三段第二小節の連合音符は、滑かに而も音程を正しく。
- 5 第四段第一、二小節の音程を正確に。
- 6 軽く滑かに歌ふことが本教材の生命であ

連絡  
讀本卷三

るあまり遅くならぬ様に。

二  
(中)  
(下)

〇綱引 (二時間)

- 1 元氣の溢れて居る曲である。輕快に、而もアクセントを明瞭に歌はねばならぬ。
- 2 第二段第三小節の音程を、正しく、而も滑かに。
- 3 第四段は、この曲の最後を結び最も重要部分である音程もなかなか六ヶしいから注意を要する。
- 4 附點を明瞭にあらはして、齒切りよく歌ふこと。

一  
(上)  
(中)

〇一月一日 (二時間)

- 1 明るい感のする曲である。落付いた中に喜びが溢れて居る。
- 2 第一段第三小節の4を明瞭に歌ふこと。
- 3 第三段第一小節の6が下つて、5になり易い。
- 4 第三段第三小節の5 4も4が下らぬこと
- 5 第四段第二、三小節が1.6 5 3 2 5 3 2となり易いから注意を要する。
- 6 「あふぎ」は「あをぎ」と發音する。

君が代の練習

一  
(中)  
(下)

〇餅つき (一時間)

- 1 擬聲を多く使つて、輕快に、面白く出来

- た曲である。
- 2 第一段第一、二小節の旋律は處處に出てくるから音程を正確に。
- 3 第二段第三小節 5 2 3 の2が下り易い
- 4 第三段第三小節の6が下らぬ様に。
- 5 全體を、輕快に、歌はせねばならぬ。

### 第三學期

一  
(上)  
(中)

#### ○雪 (二時間)

- 1 雪や霞の降るのを見て居て自然に歌ひ出す様な調子に出来て居る。  
快活なよい曲である。
- 2 附點音符の所在に注意すること。
- 3 半音階の部分は正確に、綺麗に。
- 4 第四段第一小節の5は軽く歌ふこと。
- 5 二段以下、若し各段を一息で歌ひ切れな  
いときは、二小節目で吸氣すること。  
然しそれが爲、調子が亂れない様に。

一  
(中)  
(下)

#### ○紀元節 (二時間)

- 1 落付いた崇高な感じのする歌曲である。
- 2 第二段末の1が、第三段の6に移るところ  
は滯滞しない様に。
- 3 第三段末の6から第四段の1に移る時1  
が上り過ぎない様に。
- 4 各段絡の附點二分音符は正確に三拍とす

- ること。
- 5 「アフグ」は「アヲグ」と發音すること。
- 6 速度は指示されたものよりも遅くならぬ  
様に。
- 7 四つの歌詞中、1及4だけを歌ふこと。

一  
(下)  
(上)

#### ○笛と太鼓 (一時間半)

- 1 擬聲を面白く取入れて快活に、美しく出  
來てゐる。
- 2 第四段第一、二小節の音程に注意。
- 3 遅くならぬ様に指示された速度に歌ふこ  
と。

二  
(中)

#### ○兎の餅つき (一時間半)

- 1 題材の捉へ方が面白い上に旋律が非常に  
よく出来て居る、兒童の興味にも適合し  
て居るので、大層歡迎される。
- 2 第三段第三小節の4は下らぬ様に。
- 3 第四段第一、二小節の休止符は正確に休  
むこと。
- 4 第三段及第四段にある、十六分音符は輕  
く愉快に歌ふこと。

二  
(中)  
(下)  
三  
(上)

#### ○大黒様 (二時間)

- 1 讀本と連絡があつて、兒童には内容の理  
解が容易な上に、まことに可憐に優しく  
出来て居る歌曲である。

- 2 第二段第一小節64の音程を正しく。
- 3 第三段 第三小節 $\underline{3.5} \underline{1.5}$ とならぬ様に
- 4 第四段第二小節 $\underline{1.7} \underline{6.7}$ が $\underline{1.7} \underline{6.6}$ となり易い。
- 5 短音階であるから半音程のところが多い  
柔かに歌はせねばならぬ。
- 6 第四段第三小節は $\underline{3.6} \underline{1.7}$ となり易い注  
意を要す。

三  
(上)  
(中)

## ○那 須 余 一 (一時間半)

- 1 勇壯な曲趣に富んで居る。
- 2 第二段 第一小節4を正しく。
- 3 第二段第三小節四小節に移る256正しく。
- 4 第三段最後小節と 四段第一小節は軽く歌ふこと。
- 5 附點音符 單純音符の歌分けを正しくすること。
- 6 この種の歌曲は兎角強くなり勝である軽く而もアクセントを明瞭に歌へば勇壯の氣分自らあらはれる。

三  
(中)  
(下)

## ○ひ な 祭 (一時間半)

- 1 兒童の實際生活と連絡があつて興味深い上に快活に 出来て居るので非常に喜ばれる快活の中に 溫和な如何にも優しいところがある。

連 絡  
讀本卷四

- 2 第二段第二小節第三小節の音程を正確に
- 3 第三段第四小節の5は音程正しく柔かに
- 4 第四段第三 四小節の音程を正しく。
- 5 第五段第四段の $\underline{4} \underline{3} \underline{2.2}$ が $\underline{4} \underline{2} \underline{2.2}$ になり易い。
- 6 各段最後は強くならぬ様に。

第一學期

四  
(上)  
(中)

○春が来た (一時間半)

- 1 輕快によく出来てゐる。第二段の最後は殊に快活な感がよくあらはれて来る。
- 2 第一段第二小節の1を下げる様に、且つ軽く、美しく歌はせる第二段のも同様。
- 3 第二段第三、四節の音程を正しく、美しく歌はせねばならぬ。
- 4 速度は随分早いから、軽く極めて滑かに歌はせなければ折角の曲が死んでしまう

○招魂社

- 1 招魂社參拜の際唱謠するならば、ここで授けるがよい 森嚴の曲である。
- 2 第一段第三小節の音程を正確に。
- 3 第三段第三小節36を正確に。
- 4 第四段第三小節も同様。
- 5 半音程が多いから正確に歌はねばならぬ
- 6 速度が遅くなると、哀調を帯びるから指示された時價を正しく守らねばならぬ。

四  
(中)

○雨 (一時間半)

- 1 實に美しい曲である。第四段には休止符が巧に用ひてあつて、一層優しくなつて居る。
- 2 第二段の上行旋律は、音程正しく而も滑

漸次複式  
聽唱法による  
連絡  
讀本卷四

かに、殊に第三小節が6.616とならぬ様に。

- 3 第二段第四小節は231となり易い。
- 4 第四段第三小節の52は正確に。
- 5 第四段の第四小節は、正しく二拍だけ休息すること。31は極めて軽く殊に1は消える様に。
- 6 全體を軽く歌つて後れない様にすること

四  
(下)  
五  
(上)

○森の樂隊 (二時間)

- 1 初め極めて、長閑に出て、色色の擬聲語を歌に取入れ、極めて快活に終る歌曲で兒童も非常に喜ぶ。
- 2 第一段第三小節4は正しく。
- 3 第五段第一、二小節の25は正しく。
- 4 第六段第三小節の附點四分音符は、正確に一拍半を、保たせること。
- 5 擬聲の部分は、軽く、面白く歌はせること。殊に、ホーホケキヨは優しく歌はせねばならぬ。
- 6 歌詞中「のやま」のやは各各八分音符として歌はせる。

兒童の程度に相應しないならば鑑賞教材として課するがよろしい。

五  
(中)

○お玉じゃくし (一時間半)

- 1 題材が面白い上に、曲想が可憐の中に軽い滑稽味を帯びて居るので兒童の興味に適合して居る。

- 2 第二段第一小節 6.1 1 6 となり易い。
- 3 附點音符のあり場所に注意を要する。
- 4 あまり遅くならぬ様指示された速度を守ること。

五  
(中)  
(下)

○雲 雀 (一時間半)

- 1 輕快にまことによく出来て居る。  
二年生にあるものに比べて數段の出来榮えてある。第五段が如何にもよく全體の結びとなつて居る。
- 2 第一段第三小節、第二段第三小節第四段第二小節第五段第三小節の7は共に下らぬ様に注意が大切。
- 3 第三段第二小節1は輕く。
- 4 第三段は輕く、而も強弱を十分につけて歌はせること。
- 5 第五段の最後は速度を少少遅くして聲をしつかり出させねばならぬ。

六  
(上)  
(中)

○と ん ぼ (一時間半)

- 1 平易な旋律の中に、可憐の情の溢れて居る曲である。
- 2 第二段第二小節から第三小節にうつる完全八度音程を正しく。
- 3 第四段第一小節の6が5になり易い。
- 4 全體を優しい調子で歌はせること。

六  
(中)

○青 葉 (一時間半)

- 1 落付のあるよい曲である。新深の景色が自然に目に浮んで來る。  
曲想高尚で爽快味が溢れて居る。
- 2 第二、三、四段にある、36の完全四度は正確に。
- 3 第二段第一小節の4は正確明瞭に歌はせること。
- 4 第三段第二小節の7が下り易い。
- 5 第四段第三小節の附點二分音符は正確に三拍を保持させること。
- 6 各段にある附點二分音符は三拍だけのばすこと。
- 7 兎角遅くなつてだれ易い曲であるから指示された速度を守り爽快に歌はねばならぬ。

六  
(下)  
(上)

○汽 車 (二時間)

- 1 輕快な曲想は汽車を歌ひあらはして十分である。所所に連合十六分音符を入れて滑かに歌はせるので爽快さが一層増す様に思はれる。
- 2 第二段、第二小節の 2 2 5 5 及 5 5 5 2 は正確に歌はせること。
- 3 第二段及第四段の十六分音符は極めて輕く歌はせること。3 5 とならぬ様に。
- 4 附點のあり場所に注意。
- 5 第三の歌詞中「ケシキノ」及「ミトレテ」を附點音符に歌ふ傾向がある。

連 絡  
讀本卷四

七  
(中)

## ○終業式 (一時間半)

- 1 式歌として教授する速度が遅いと哀調を帯びて来る。
- 2 半音階の所が多い注意を要する。
- 3 第一段第二小節6 3 4の音程を正しく。
- 4 第三段、第二、三小節の音程も正しく。
- 5 第四段は狂ひ易いから、特に音程に注意させねばならぬ。
- 6 附点になり易いから注意を要する。

七  
(下)

## ○玩具の飛行機 (一時間半)

- 1 軽快なよい歌曲である。軽く強弱をよくつけて歌はねばならぬ。
- 2 第三段は各小節共、軽く圓滑に歌はせること。
- 3 第四段、第一小節3 6、第三小節2 5を正確に歌はせること。

## 第二學期

九  
(上)  
(中)

## ○何だつけ (一時間半)

- 1 歌詞、曲想、共に滑稽味を帯びて居る旋律の工合も大變よく出来て居る。
- 2 第一段、第二段の第一、二小節の音程が狂ひ易い  $\underline{1\ 5\ 5} \mid \underline{1\ 1\ 5\ 5}$  とならぬ様に。
- 3 第三段、第四段の第三小節にある休止符

はこの曲の生命である。正確にその時間を保持させねばならぬ。

- 4 この様な曲は、一樣の速度で歌つては單調となつて面白くない。發想法に於て大いに考へねばならぬノソノソと云ふ様なときには少少遅くして歌ふ等その一例である。
- 5 あまり早くなると悪い。却つて遅く歌つた方がよい位である。

九  
(中)  
(下)

## ○蟲のこゑ (二時間)

- 1 擬聲語を巧に取入れて、優美に出来て居る。可憐の情が溢れて居る。
- 2 第四段第三小節、第五段第一小節の1 7 6は、正確に且つ滑かに。
- 3 第四段第二、三小節の3 1は正確に。
- 4 第五段第二、三小節の3 6も同様。
- 5 擬聲語は、軽く優美に歌はせること。
- 6 次の歌曲と比較させて兒童の好む方を教授するがよい。

## ○蟲の樂隊 (二時間)

- 1 擬聲語を取入れてあるのは前曲同様であるが旋律が一層面白くなつてゐて、概して前曲よりも六ヶしく、高尚である。
- 2 第一段、四、五小節の旋律を正しく。
- 3 第三段第一小節、7 2を正しく、第三小



節も同様。

- 4 第二段及第四段最終の7音を正しく。
- 5 息の仕方が六ヶしい。苦しい歌方にならぬ様注意が大切。
- 6 全體を軽く、優しく、アクセントを明瞭に。

九(下)  
一〇(上)

○秋の風 (一時間半)

- 1 簡単ではあるが面白い旋律である。殊に後半がまことによい。
- 2 第二段第二小節54の4が下つて3にならぬ様に。
- 3 第三段の旋律は澁滞なく而も正確に。
- 4 第四段第一小節、4を正しく。

一〇(中)

○村祭 (二時間)

- 1 輕快によく出来てゐる。十六分音符を使つて、擬聲を生かしたところはまことによろしい。
- 2 第一段、及第四段第二小節の5 6 4 2は滑かに歌ふこと。
- 3 第二段第三小節の5 6 7 2旋律を正しく
- 4 各段附點音符と、單純音符とを誤唱する傾向がある。
- 5 第三段は、軽く而も強弱を十分につけて歌はせること。
- 6 歌詞第三中「ヲサマル」は四分音符を八分

君が代  
天長節の練習

音符に歌ふ様にすること。

一〇(下)  
一一(上)

○雁 (一時間半)

- 1 歌詞は童謡としてもまことによく出来て居る。問答式になつて居るところは可愛らしいそれに曲が大層優美に出来て居るので、雁に對する親愛の念が自然に湧いて出る感がする。
- 2 第二段第一小節の十六分音符は滑かに。
- 3 第四段第二小節の旋律は圓滑に。第三小節の4は正確に。
- 4 第四段最後の5から第五段にうつるヲクターブは正確に。
- 5 第五、三段は前段より少少早く歌ふか又は極めて輕い調子で、一種の落付を以て歌ふかするがよい。
- 6 附點になり勝だ。あまり附點にすると下品になるから注意を要する。
- 7 全體を輕い調子で歌はせること。

一一(上)  
一二(中)

○自轉車 (一時間半)

- 1 實に輕快な曲趣である。擬聲を巧に用ひて、最後がまことによく結ばれて居る。
- 2 第一段、第二小節のが上り過ぎぬ様に第二段第二小節も同様。
- 3 第四段チリン。チリンは極めて軽く、而

もその中に強弱をつける様にすること。  
4 全體を極めて軽く、附點はあまり力を入れ過ぎない様に歌はせること。

二  
(中)  
(下)

○シヤボン玉 (一時間半)

- 1 子供の實生活から題材を取つて巧に出來て居る。シヤボン玉をこしらへて遊ぶ兄弟の有様がハッキリ浮んで來る。親しさの溢れて居る曲である。
- 2 第二段第一小節は附點をしつかり且つ強く歌ふこと。第二小節へうつる五度音程をしつかり。
- 3 第四段6は軽く優しく。第四小節の2・5は正確に。
- 4 第五段スタッカートは輕快に。
- 5 十六分音符は、軽く滑かに歌はせること
- 6 所所にある附點音符は、正確に歌はせること。

一  
(下)  
二  
(上)

○終業式 (一時間半)

- 1 歌詞は、理解が困難であらう漸次學年を追つて、完全を期すこと。
- 2 第四段第一小節2 2 7 7の音程を正しく
- 3 各段最後の附點二分音符は正確に三拍を保持し、一拍だけ休ませる様にすること

一  
(中)  
(下)

○敵は幾萬 (二時間)

- 1 血湧き、肉躍ると云つた様な、勇壯の氣分の溢れて居る曲である。旋律が兒童の程度より高いかも知れぬが、大體を軽く勇しく歌つて、壯美を味ははせたい。
- 2 第一段第二小節3が下り易い。
- 3 第三段第二、小節にわたるオクターブは正確に。
- 4 第四段第一小節は前段最後の影響を受けて附點になり易い。
- 5 第八段第一小節の1 i に至るオクターブを正確に。第二小節の1 i は正確に。第四小節の7は下り過ぎぬ様にすること。
- 6 軍歌的色彩の歌は兎角力が入り過ぎて暴聲となり易い。軽く而もアクセント附點等に注意しながら勇壯な氣分をあらはして歌はせる様にせねばならぬ。

兒童の程度によつては後に教授する。  
君が代の練習  
一月一日

第三學期

一  
(上)  
(中)

○冬の夜 (二時間)

- 1 讀本中の韻文に曲をつけたものであるが歌詞と曲とがまことによく調和して居て冬の夜の田舎の一家團欒が思ひやられる第四段まで平調で、來る最後の一段で外の模様を描寫し、しつかりと結んだところがこの段の生命と云つてもよからう。
- 2 第一、二、三、四段の第二小節の終りの音が

連絡  
讀本卷六

強くなり勝てある。軽く歌つて。速に吸氣せねばならぬ。

第四小節は互に紛れ易い。

3 第二段第三小節  $2.5 \underline{2} 2$  を正確に。5は軽く歌はせるがよい。第四段も同様。

4 第四段の諸音程を正確に。ト一口は極めて弱く。稍重重しく。

「ソトハフブキ」は強く。元氣よく。

5 強弱を。うまくつけないと。だれ易いから注意を要する。

一  
(中)  
(下)

○雪 投 げ (一時間半)

1 快活に出た第一。二段を。第三四段で落付いた中に。一種の歡喜を見せ。第五段に至つて。壯快に結んだまことによい曲である。

2 第二段第三小節の  $5.1.$  を正確に。

3 第四段第二。三小節の音程を正確に。

4 第五段第三小節の  $5 \underline{5}$  のオクターブは正確に。

5 全體を軽く。歌はせること。

6 歌詞第二中よしよしよし。は最後のよしを「よーし」と歌はせること。

7 第五段第三小節は幾分スタッカートの氣味で歌はせるがよい。

一  
(下)  
二  
(上)

○港 (一時間半)

1 曲想。實に優美高尚である。兒童の興味にもよく適合する。

2 第三段。第二。三段小節の音程を正確に

3 第四段第三小節 4音上り易い。

4 各段各小節の初にある八分音符を歌ふとき。急ぐ傾がある。圓滑に歌はねば全體の曲想を亂すことが甚しい。

5 第一。二。三段は中位の強さで。第三段は強く。

6 各段最後の二分音符が延び易い。正確に二拍歌ひ。一拍だけ休息する様に注意が大切。

二  
(中)

○やすみの鐘 (一時間半)

1 輕快なよい歌曲である。殊に第三には擬聲語を巧に使つて。歌曲 第一致まことに快活に面白く出來て居る。

2 第一段第一小節 5. から第二小節にうつる四度音程は正確に。

3 第一段第二小節 7 は 6 に下り勝てある。

4 第二段第三小節も同様。

5 第二段第四小節 5. 3 の六度音程は正確に

6 第三段は輕快に。強弱を十分にあらはして。

7 附點音符を正確に歌ふ爲に重くなり勝てあるから注意を要する。

二  
(下)  
三  
(上)

○日 本 陸 軍 (二時間)

鑑賞教材  
象 (讀本卷六と  
連絡)  
(大正幼年唱歌  
集)

- 1 歌詞が少少難解ではあるが 勇壯に出来た曲は自然に元気を鼓舞する遠足の時行進遊戯の時等大變よろしい。
- 2 第一段第三小節、第二段第三小節第四段第二小節の音程を正しく。
- 3 第四段第一小節  $\underline{3.2} \underline{1.3}$  となり易い。
- 4 歌詞は4又は5位までとし、強ひて暗誦させる必要はない。
- 5 兎角強く歌ひ過ぎるから、なるべく軽く歌はせるがよい。

三(中)(下) ○雀 と 鳥 (一時間半)

- 1 題材も面白く、曲も、よく出来て居るあまりに教訓的な説話はさけない。
- 2 各所にある、附點八分音符と十六分音符とは合せて、一拍よりのびない様に。
- 3 各段にある二分音符がのび易い正しく二拍を保持すること。
- 4 第一段第一小節1.5は正しく。  
第二小節の6も同じい高さを保つこと。
- 5 第一段、最後の4が3になり易い。
- 6 第三段各小節音符を正確に。
- 7 速度が遅くなり勝である注意を要する。

第一學期

四(上)(中)

○春の小川 (一時間半)

鑑賞教材  
七面鳥  
(大正幼年唱歌)

- 1 歌詞、曲共に上出来である。如何にも滑かに、丁度、春の小川そのものを見る様だ。兒童も非常に喜ぶ。
- 2 第一、二、四段第二小節5 1.の音程を正しく。
- 3 第三段第三小節のが下り易い。
- 4 全體をスラスラと歌はねばならぬ。
- 5 各段第二小節の終りて吸氣するときは吸氣の前の音符が特に強くなり勝である歌ひ初め、終りは弱く、中は強くする様に注意させることが大切。
- 6 第四段第四小節ゴトクは漸次弱くして消える様に歌ふこと。

四(中)(下)

○おなかの四季 (二時間)

- 1 まことに輕快な、優美な曲想である。
- 2 第一段及第五段第三小節の2 6を正しく歌はせること。
- 3 第二段、第三小節を正しく。
- 4 類似の部分が多いから、混同しない様に
- 5 全體を極めて、輕快に歌はせること。  
第一段の最初第五段の最初等は或はスタッカートで歌はせた方が面白くはあるまいか。

6 第三段第四段の中央吸氣の場所は、切迫した歌ひ方にならぬ様に。

五  
(上)  
(中)

○雲雀 (一時間半)

- 1 何気なく歌つて居ると自分ながら雲雀になつて空高く舞ひ上つた様な心持になるその軽快さ。實に形容し難い。三年中の教材に比して數段の上出来てあらう。實によい曲である。
- 2 第二段第一小節7 5 6 を正確に。
- 3 第二小節第四小節5.1 は滑かに。軽く而も音程を正確に。
- 4 第三段第三小節7 を正確に。
- 5 連合音符の部分は。極めて滑かに軽く歌はせること。
- 6 強弱を十分につけて。その曲想を發揮するに力めねばならぬ。

五  
(中)  
(下)

○日本海大海戦 (二時間)

- 1 勇壯な曲趣で。國民的教材として尊いものである。歌詞は少少難解であらう。然し。一句づつの説明など勿論完成を望むべきではない。
- 2 第一段第二小節6 1 2 を正確に。
- 3 第二段第二小節の旋律を正しく。
- 4 第三段。第三小節の音符を正しく。
- 5 第四段第二小節の音程中6.1 が6.6 とな

連絡  
海軍記念日

り易い。

- 6 一音半か二音位下げて歌はせても曲想を害することは多くあるまい。
- 7 全體を亂暴に歌はぬ様。特に注意が大切

五  
(下)  
(上)

○つばめ (一時間半)

- 1 可愛らしくよく出来た曲である。落付た中に。又つばめの軽快さがよくあらはれて居る。
- 2 第一。二段第二小節の7 は下り易い。
- 3 第三段第一小節7 を正確に。
- 4 第四段。第一小節4 は3 に下り易い。
- 5 連合音符は。圓滑に歌ひ全體を輕快に可愛らしく。歌はせねばならぬ。

連絡  
讀本卷五

六  
(中)

○茶摘 (一時間半)

- 1 休止符を巧に使用してまことに優美に出来た曲である。
- 2 各段最初音は。休止符がある關係上弱聲となつて居る。最初の休止符は各段最後のと結びついて二拍の休みとなる。
- 3 拍子を特に注意させねばならぬ。

六  
(中)  
(下)

○螢來よ (一時間半)

- 1 流暢に。又可憐によく出来て居る。
- 2 第一段 第一二小節の旋律が 5 1 2 3. 2 になり易い。

- 3 第二段第二小節5 1 は正確に下らねばならぬ。第三小節 $\frac{1.5}{-}$ も同様。
- 4 軽く歌はせること。強弱がなければ単調になるから。適當に強弱をつけて歌はせねばならぬ。
- 5 各段は二小節毎に息を吸つてよいがその場合第二小節最後の音符が強くなつて軽くなり過ぎぬ様注意すること。

七  
(中)  
(中)

○春日山 (二時間)

- 1 勇壯活潑な曲である。初め壯大に出て第二段に至つて高潮に達し漸次、威重を以て終る曲想は大英雄を描寫した曲として佳作である。
- 2 第三段第三小節の諸音符を正しく。
- 3 所所が附點音符となり易い。
- 4 第三段は、少し早く輕快に歌はせ。第四段以下は又重しい調子に反ること。

七  
(中)  
(下)

○夏の歌 (一時間半)

- 1 柔い中に、優美な、曲趣を藏して居る曲である。
- 2 第一段第二小節 $\frac{6.6}{-}5$ となり易い。
- 3 第二段第三小節 $\frac{3.5}{-}$ となり易い。
- 4 第三段第三小節 $\frac{3.5}{-}3$ となり勝だから注意を要する。

連絡  
郷上科

- 5 第四段第三小節 $\frac{2.5}{-}$ は極めて圓滑に歌はせること。
- 6 速度は中等でよろしい。強弱をつけて歌ふことに注意せよ。

第二學期

九  
(上)  
(中)

○漁船 (一時間半)

鑑賞教材  
とんび (大正幼  
年唱歌集)

- 1 波をけつて、漕ぎ出し、揺られながら奮闘をつづけて居る漁船の有様が髣髴として居る。まことに勇壯快活に出來た曲である。
- 2 第一、二段第一、二小節に跨る旋律中、 $5\ 3\ 5\ 1$ の第二番目の5を確實に。
- 3 各段に散在して居る、7及4を正確に。
- 4 各段の最後は、輕快に歌ふこと、而も類似して居るから混同しない様に。強弱を明瞭にあらはすはよろしいがアクセントが強過ぎるときき苦しくなるから輕い中に、強弱をつけること。

九  
(中)  
(下)

○蟲の樂隊 (二時間)

- 1 擬聲語を、巧に取入れて、輕快に面白く出來た曲である。三年中の森の樂隊にやや類似の曲想を持つて居る。
- 2 第二段第三小節、第五段第三小節 $\frac{2.5}{-}$ の音程を正しく。

3 第三段、第三四小節十六分連合音符は特に、軽く可愛らしく。

4 第四段擬聲の部分はあまり強くなると重くきたなくなるから、弱い中に、アクセントを附して歌はせねばならぬ。

5 全體を極めて輕快に 歌はせねばならぬ  
6 休止符が少いから、所所に吸氣をせねばならぬ。休息する爲に、その前後の符音が特に強くなつたり、切迫した歌ひ方とならぬ様に、練習させねばならぬ。發想記號に注意して十分發想を練習したい。

九  
(下)  
一〇  
(上)

○運動會の歌 (一時間半)

連絡  
運動會

- 1 勇壯活潑、所謂血湧き肉躍るの概がある
- 2 第一段第二、三小節に跨る七度は正確に
- 3 第二段、第四段2が1に下り易い。
- 4 第三段第二、三、四小節の音程を正確に。
- 5 アクセントをしつかり歌ひ、勇壯な氣分を出すことに努めねばならぬ。
- 6 第四段までは輕快に歌つて、第五段は勇壯に一種の威嚴を以て歌はせること。

一〇  
(中)

○廣瀬中佐 (一時間半)

連絡  
修身卷二

- 1 勇壯な歌曲である、歴史や修身等と關係があるので、兒童にも理解し易く非常に好まれる。
- 2 第二段第三段4音正確に。

3 第三段の音律が六ヶしいから、餘程注意させねばならぬ。

4 各段中央息つぎの前にある音符が短く強くなり過ぎぬ様に。

5 各段最後の二分音符は正しく二拍、休止符は一拍の時價を保持する様に。

6 各段第一小節は正しく一拍となり弱くなる様に歌ふこと。

一〇  
(中)  
(下)

○落葉 (一時間半)

- 1 輕快によく出来て居る、殊に第三段には巧にスタッカートを入れて、落葉そのものの様に軽く出来て居る。
- 2 第一段第四小節の音程を正確に。
- 3 第二段第一小節3 2 3 となり易い。
- 4 第三段、スタッカートの有無を十分注意させねばならぬ。
- 5 各段、息つぎの前の音符が特に強くなり勝てある軽く弱く歌はせること。
- 6 速度は指示されてあるものより遅れぬ様に。

二  
(上)  
(中)

○村の鍛冶屋 (二時間)

連絡  
讀本卷七

- 1 無理に教訓的に出るのはないが讀本中にもあるのだから、兒童もその内容を解し易い。鍛冶屋の勤勉克己をも味ひ得やう。本曲はまことに快活に出来て居る

- 2 第一段第三小節 $2\ 5$ の五度音程は正確に
- 3 第三段第一小節の $7$ が下り易い。
- 4 所所にある連合十六分音符は、滑かに軽く歌ふこと。
- 5 各段の終りは強くなり勝であるから注意せねばならぬ。
- 6 歌詞第三中「ランダ」は「ラーンダ」と歌ふ方がよろしい。
- 7 速度は、指示されたものより少少早くてもよろしいが遅いのは悪い。

一  
(中)  
(下)

○水 雷 艇 (二時間)

- 1 軍歌として、勇壯活潑な曲である。
- 2 第三段第一小節4音が下らぬ様に。
- 3 第四段の旋律が六ヶしい。
- 4 軽く而もアクセントに注意して歌はせねばならぬ。

一  
(上)  
(中)

○達 磨 (一時間半)

- 1 休止符を巧に使用して、やや滑稽味を帯ばせた面白い曲である。
- 2 第一段第一小節が第二小節に跨る $5\ 1$ の音程を正確に。  
第二段節は $1.\underline{2}\ 3\ 1$ となり易い。
- 3 第三段第二小節 $1\ 6$ の $6$ が下らぬ様に。
- 4 第四段の休止符はこの曲の生命と云つてもよいのであるから、正確に二拍を保持

させねばならぬ。

- 5 第一、二、三段中央息つぎの前の音符が特に強くならぬ様に。

一  
(中)  
(下)

○近 江 八 景 (二時間)

- 1 落付いた優美な曲想を持つて居る。
- 2 第二段第四小節 $2\ 4$ が $2\ 5$ となり易い。
- 3 第三段第三小節 $4$ が $3$ になり易い。
- 4 第四段第二、三、四小節の $7$ 及 $4$ が狂ひ易い。
- 5 割合に平易な曲である兎もすると単調になるかも知れぬ、それ故、強弱をつけて優美に歌はねばならぬ。

第 三 學 期

一  
(上)  
(中)

○雪 合 戦 (二時間)

- 1 一種の落付を見せて、居ながら壯快の氣が溢れて居る、然し三年中の教材よりは兒童には解し難いかも知れぬ、指示されたよりも速度を早めてやつたら幾分曲想の理解を助け得やう。
- 2 第一、二段第三小節の拍子が間違ひ易い而も第二段第三小節の $5\ 2$ の音程も狂ひ易い十分注意させねばならぬ。
- 3 第三段第一、二小節4音を正確に。
- 4 第四段第二小節4音が上り過ぎぬ様に。



5 連合十六分音符は、極めて圓滑に歌ふこと。

一  
(中)  
(下)

○飛行機 (一時間半)

- 1 勇壯、輕快、まことによく出来て居る。
- 2 第一段第四小節 $2\ 7$ の音程を正しく。  
第二段、第四小節も同様。
- 3 第三段、第二小節 $4\ 2$ を正しく又第四小節 $2\ 7$ の音程も正確に。
- 4 第四段第一小節 $7$ 及 $4$ が下り易い。
- 5 全體を、極めて輕快に、アクセントを明瞭に歌はせること。

二  
(上)  
(中)

○風船玉 (一時間半)

- 1 兒童の實生活から面白い題材を扱へてまことに、可愛らしく面白く作曲されて居る。兒童も非常に歡迎する。
- 2 第一段第二小節 $2\ 5$ の五度音程を正確に
- 3 第二段第三、四小節に跨るオクターブを正確に。
- 4 第三段第三小節の $7$ 音正しく。  
第四小節から、第五小節に至る音程が狂はぬ様に。
- 5 第三段第五小節スタッカートは、可愛らしく正確に。
- 6 全體を可愛らしく歌ふのであるから強弱の工合はよほど考へねばならぬ。

二  
(中)  
(下)

○橋中佐 (二時間)

連絡  
歴史

- 1 壯絶極に、中佐の武勇を描出し得て餘すところがない。威嚴を持つた、しんみりした曲である。
- 2 第二段第三小節 $7$ から $2$ に至る短三度音程は仲仲むづかしい。
- 3 第三段第三小節が $3.6\ 7\ i$ となり易い。
- 4 第四段、 $3$ から $6$ に至る五度音程は思ひ切つて下行すること。第二小節も同じ。
- 5 各段最後の附點二分音符が短くなり勝てある。
- 6 速度は指示されたものよりも早くならぬ様に強弱を十分附して發想に注意せねばならぬ。

三  
(上)  
(中)

○里祭 (一時間半)

- 1 旋律が非常に快活に出来て居る。歌詞が稍六ヶしいが、然し、音がよい爲に兒童は興味を以てこれを迎へる。
- 2 第一、二段第四小節の上行旋律は、輕快に而も正確に。
- 3 第三段第三、五小節の $7$ 音が下り易い。
- 4 第四段第四小節の $7$ 音正確に。
- 5 全體を、輕快に、アクセントを正しくして、面白く歌はせねばならぬ。

三  
(中)  
(下)

○電燈 (一時間半)

- 1 卑近な題材を扱へて、而も兒童の興味に適應する様まことに面白く出来て居る。
- 2 第一段第三小節及第二段第三小節の休止符を明瞭に。
- 3 第二段第一小節7を正確鮮明に又第二小節15の音程を正確に。  
第三小節64をも正確に。
- 4 第三段第三小節4音及第四段第三小節7音正確鮮明に。

## 第一學期

四  
(上)  
(中)

## ○春

(三時間)

- 1 上二段はまことに輕快に、下二段は流暢に、何れも遺憾なく春の氣分を描出して居る。優美な歌曲である。
- 2 第一段第三小節25を正しく又第三小節と四小節に跨る54の七度音程を正確に
- 3 第二段第三小節27の7が下らぬ様に。
- 4 第三段、第三小節2-7iの7を正確に
- 5 第四段の音律が狂ひ易い、殊に第一、二小節は餘程六ヶしい。
- 6 第一、二段、中央の息つぎは切迫した様に歌はぬこと。
- 7 全體は極めて、輕快に、優美に歌はなければならぬ。

## ○農

夫 (三時間)

- 1 流暢に、出来て居る、旋律がまことに優美に出来て居る。
- 2 第二段第三小節53の六度音程を正確に第四段第三小節も同様。
- 3 第三段から、第四段に至るオクターブは思ひ切つて下げて歌はせること。
- 4 全體を流暢に歌ふのであるが殊に連合八分音符は、極めて圓滑に歌ふ様にするこ

と、速度が早いから軽く歌はねばならぬ

四  
(下)  
五  
(上)  
(中)

○人 形 (三時間)

- 1 優しくまことに可愛らしく出来た曲で女子用としては好適のものである。
- 2 第三段八分音符は滑かに。  
第三段の旋律は、急がずに、音程正しく
- 3 第四段、第一、二小節の4及2を正確に
- 4 各段最後の附點二分音符は正確に三拍を保持すること。
- 5 あまり速度が遅くなるとだれるから指示された速度よりも遅くならぬこと。

○須磨明石 (三時間)

- 1 落付いた美しい歌曲である。歌つて居る中に知らず知らず風光明媚な境地に遊んで居る様な氣持になる。
- 2 第一段第二、三小節に跨るオクターブを正確に。
- 3 第二段第一小節の4が5に上り易い。
- 4 第二、及第三段にある八分連合音符はこの曲を流麗ならしめる最大要素であるから力めて圓滑に、歌はせねばならぬ。
- 5 第三段第三小節6音を正しく上げて。
- 6 各段最後の附點二分音符が短くなり易い

五  
(中)  
(下)  
六  
(上)

○鯉のぼり (三時間)

連絡  
地理

- 1 快活で、而もまことに優美な曲である。附點音符が數多くまことに巧妙に用ひられて居る爲であらう。
- 2 各段に散在して居る 3.4 2.4 の音程はなだらかに。
- 3 第三段第二小節の音程を正確に。
- 4 連合附點音符は、活潑に、一種の弾力を以て歌ふこと。  
附點音符と單純音符とを混同しない様に注意を要する。
- 5 各段最後の附點二分音符は正確に三拍を保持すること。
- 6 速度は指示せられたものより早くても決して後れぬ様にせねばならぬ。

○夏は来ぬ (三時間)

- 1 曲想、實に優美高尚、初夏のすがすがしい氣分が溢れて居る。
- 2 第一段第二小節 6 1 5 の5が6になり易い。5から2に上る音程は正確に。
- 3 第三段第一小節 6 2 の音程を正しく。
- 4 第三段第一小節 2 2 が附點となり易い。
- 5 第一、二段の各所にある息つぎの爲、その前後が切迫した歌ひ方にならぬ様に。
- 6 第三段最後の二分休止符は正しく二拍を休むこと。

六  
(中)  
(下)

○青空のつばくら (三時間)

- 1 優美高尚. 實によく出来て居る. 親愛の情が溢れて居る. うんと讚美したいがこれ以上の形容詞がないのを遺憾とするのみである。
- 2 第一段第三段の第三小節 6 1̇ 7 6 の7が1に上り過ぎる傾がある。
- 3 第四段第二小節 6 2̇ 1̇ の音程を正しく第三小節の7が下り易いから注意を要する
- 4 全體を. 輕快に. 又圓滑に. 美しく歌はねばならぬ. 強弱を十分につけて發想を遺憾なくやらねばならぬ。

○海 (三時間)

- 1 ゆつたりと落付いて居て. 丁度松原に立つて晝夜の海を眺めて居る感じがする美しい. 曲である。
- 2 第二段第三小節7が下り易い. その外にも. 所所に7或は4があるから正確に半音を保たせねばならぬ。
- 3 休止符及息つぎの位置及長さをよく注意して. のび過ぎたり又は切迫した歌ひ方をしない様に. 注意させねばならぬ。
- 4 強弱を十分つけて. 發想に力めねばならぬ。

○納 涼 (三時間)

七  
(上)  
(中)  
(下)

- 1 美しく出来た曲である. 田園生活の快味を歌つたもので. まことに適當な歌曲である。
- 2 第一段第四. 五小節に跨る1-4の完全四度音程を正確に. 下り易いから。
- 3 第一段第四小節4は上り易い。
- 4 第四段第四小節の2.5の5は思ひ切つて下げること. 第五段第二小節の5も同様である。
- 5 第三段の旋律はこの曲中の主要部分であるから. 圓滑優美に。
- 6 第四段最後の附點二分音符は短くなり勝であるから. 正しく三拍を保持すること
- 7 第五段第三小節は少し緩かにして最後の音は約三倍位延ばしてよからう。

連 絡  
實生活

第 二 學 期

九  
(上)  
(中)

○朝 の 歌 (三時間)

- 1 壯快の曲趣に富んで居る. 速度は指示されたものよりもあまり早くならぬ様に歌ひ. 清澄の氣の溢れて居るところをあらはす様に力むること。
- 2 第一段第三四小節に跨る5-3の六度音程は正確に. 第四小節の音程も正しく。
- 3 第二段第三. 四小節の音程を正確に。
- 4 第三段第三小節の2が下り易い。

- 5 各段、第一小節はのび易い。強く歌はぬ様に。
- 6 各段最後の四分音符はのび過ぎぬ様に注意が大切。

○彌彦山 (三時間)

連絡  
郷土科

- 1 壮大な、一種崇高の念に打たれる曲である。旋律は大層よく出来て居て歌つて居ると山容や靈氣が身に迫る様に感ぜられる。尋二ふじの山と相並んで名曲である
- 2 第一段第三小節の音程殊に6 2 を正確に
- 3 第三段第一小節の3 が2 に下り易い。第二小節は3 5 2 2 となり易い。
- 4 連合音符は圓滑に歌ふこと。
- 5 各段最後の附點二分音符は正確に三拍だけ保持すること。

九  
(中)  
(下)  
一〇  
(上)

○月 (三時間)

- 1 着想も面白く、落付いたよい曲である。速度は指示された通り歌つたらよいであらう。
- 2 各段に散在する7 及4 音は明瞭正確に歌ふこと。

○秋 景 (三時間)

- 1 まことに流暢、優美高尚な曲想である清澄なる秋の景色を描出し得て十分である

- 2 第二段第三小節4.2 が4.1 となり易い。
- 3 第三段第二小節3 4 が3 3 となり易い。
- 4 各段中央息つぎの爲、切迫した歌ひ方とならぬ様に注意が大切。
- 5 各段最後の二分音符がのび易いが注意せねばならぬ。

○故郷 (三時間)

一〇  
(中)  
(下)

- 1 落付いた中に、望郷の念禁じ難いものがある。殊に第三段の旋律はまことによろしい。
- 2 第一、四段第三小節4 音を正確明瞭に。
- 3 第二段第一、二小節の4 音も同様。
- 4 第三段、連合音符は圓滑に。
- 5 強弱を十分につけて歌ふ様注意が大切。

○漁業の歌 (三時間)

- 1 軽く面白く出来て居る。第三、四、の様に八分音符を澤山取入れて單調を破つた爲もあらう。
- 2 第二段第一小節4 が下つて3 になり易い
- 3 第四段第一小節中6 7 が6 6 になり易い第三小節の音程を正しく。
- 4 各所に散在する、7 及4 音は正確明瞭に歌はせること。
- 5 第五段第一小節八分休止符及3.3 が長くなり勝だから注意を要する。

一  
(上)  
(中)  
(下)

○菅 公 (四時間)

連 絡  
歴 史

- 1 悲哀沈痛な曲想である。菅公配流の當時を思ひ出て、悲憤同情の涙が先に立つ
- 2 第二段第二小節 6-3 の音程を正しく。
- 3 第二段第三小節が第四小節に跨る 6 3 の音程も同様。
- 4 第三段第二小節 7 が 6 に下り易い。
- 5 第四段第一小節、第三小節の 4 及 5 音を正しく歌ふこと。終りは少しく rit に。
- 6 連合音符は滑かに。全體を、重々しく歌はせること。

○三 才 女 (四時間)

連 絡  
讀本卷九

- 1 中途に至つて、變調し巧に和歌を歌ひこんだところ、而も全體はまことに落付いた優美高雅な曲想である。
- 2 第三段、第三小節 5 は下り過ぎぬ様に第四小節は動き易いから注意を要する。
- 3 第四段、第三小節 1 6 が曖昧にならぬ様に。
- 4 第六段第三、四小節の 6 4 は正確に長音階から短音階にうつる時は階名の呼稱も違ふが調子が破壊され易い。

○冬 景 色 (三時間)

連 絡  
讀本卷十

- 1 引しまつた快活な曲想である。

一  
(上)  
(中)  
(下)

- 2 第一、四段第三小節 7 音正確に。
- 3 第三段第一小節 5 7 2 の音程を正確に。
- 4 第三段第二、三小節 4 音を明瞭正確に。
- 5 各段、最後二分音符がのび易い正確に二拍だけ歌ひ一拍休息させねばならぬ。

第 三 學 期

一  
(上)  
(中)  
(下)

○ス キ ー 學 生 歌 (三時間)

- 1 壯絶、到底言語に筆にあらはし得ないスキーの快味を描出し得て十分である。第五段に至つては、勇壯その極に達し全體の強い結尾となつて居る。
- 2 第一段第三段第三小節 6.4 の音程に於て 6 が 5 に、4 が 3 に下り易い。
- 3 第二段第三段小節本位記號のついて居る音符は明瞭正確に歌ふこと。
- 4 第四段のラは、軽く、短くスキイは勇しく、のばす様に歌ふこと。
- 5 軽い中に、アクセント、強弱をつけて歌はねばならぬ。
- 6 第一、二、三、四、段中央息つぎの爲その前の 5 が短くなり過ぎ又は強くならぬ様に歌はねばならぬ。
- 7 歌詞中「カッコン」は「滑跟」「ハクリョウ」は「白龍」で、「ラ、スキー」のラは、呼掛の

言葉で別に意味はない。

○駢 足 (三時間)

- 1 勇壯. 快活の曲趣にとんで居る。
- 2 第一段第四小節7が5に下り易い。
- 3 第二段第四小節4 2が5 2になり易い。
- 4 第一段第一小節は弱聲にする。  
全體を輕快に. として. アクセント正しくつけて歌ふこと。  
附點を明瞭に歌ひあらはす爲. 重くなり易いから注意を要する。
- 5 第二段第二小節4 3は4・3となり易い。

二(上)  
(中)

○水師營の會見 (三時間)

- 1 稍悲壯の感をふくんだ曲趣であつて. 一種の威嚴に打たれる氣がする。  
短音階の爲であらう。
- 2 第二段第三段7.1が7・7となり易い。
- 3 各段に既在する7.及4音を正確に。
- 4 附點音符の所在に注意すること。
- 5 速度が遅くなり勝であるが指示された時價を守ること。

○旅 泊 (三時間)

- 1 優美高尚な曲想である。
- 2 第一.二. 四段第一小節から第二小節にわたる5 3の音程は澁滯することなく。

連絡  
讀本卷十

- 3 第二段第三小節7を正確に. 第四段も同様。
- 4 第三段第三小節4は音程正しく優しく。
- 5 六拍子を正確に歌ふこと. 休止符がない爲に吸氣が六ヶしいところへ兎角休止符の前の音符がのび勝であるから遂に拍子に變調を來すのである十分の注意を要する。
- 6 全體を軽く. 優美に歌はせること。  
第三段は弱く。

二(下)  
三(上)  
(中)  
(下)

○大 塔 宮 (四時間)

- 1 沈痛. 悲壯. 大塔宮を歌ひ奉れる歌としてまことによく出来て居る。
- 2 第二段. 第二. 三小節に跨る3.6の音程を正しく。
- 3 第三段第三小節3 3の音程を澁滯なく明瞭正確に。
- 4 7及4音が澤山あるから. 下らぬ様に注意すること。
- 5 拍子に注意すること. 各段中央息つぎの前と終りとがのび易い。
- 6 第三段. atempoの部分のがのび過ぎては前の rit が効果がなくなるから心持ち早く歌つてだれない様にする。
- 7 この曲は. 一體に遅くなり勝であるあま

連絡  
歴史

り遅くなるとだれ易いから指示された速度を守る様に。

### ○勇敢なる水兵 (三時間)

- 1 勇壯活潑な曲で、二拍子である関係とよく歩調にも合ふ。
- 2 第四段第一節は 1.1 2.1 となり易い。  
又第三小節は 3.3 5.5 となり易い。
- 3 兎角力が入りすぎて聲が粗暴になり易い軽く、而もアクセントを明瞭に。  
一般軍歌的の歌曲は軽く歌はないと折角音楽的の發聲も皆乱されてくる注意せねばならぬ。

### 第一學期

四  
(上)  
(中)

### ○朧月夜 (三時間)

- 1 朧月夜のその如きうるほひの中にまことに優美高尚な曲想が溢れて居る。  
兒童も非常に好んで歌ふ。
- 2 第二段第二小節4が上り易い、第四小節6 3は滯せぬ様に。
- 3 第四段節二小節 3.1 2 3 となり易い 3 4 を正確明瞭に出すこと。
- 4 各段不備小節は一拍よりも延び易い。
- 5 示された發想記號を十分に歌ひあらはす様練習が大切である。三拍子の強弱に注意すること。
- 6 各段中央の吸氣は切迫した様にならぬ事
- 7 各段の最後が附點二分音符にのび易い。

### ○舞へや歌へや (三時間)

- 1 輕快な巧妙な作であつて、歌詞と曲とがよく合つて居る。出來得るならば指示された速度よりも少々早くして、一層その輕快さを増してやりたい。
- 2 第一段最後が、第二段に移るオクターブは正確に、その他の同一場所も同様。
- 3 第三段第一小節7が6に下り易い。
- 4 拍子が困難である。休止符及其の次の八分音符が延び易い。

連絡

讀本卷九



5 全體は軽く、軽く歌はせアクセントに注意して強弱をあらはさねばならぬ。

6 第五段の最後がのび易い。澄滞することなしにすぐ初に戻るやう。

四  
(下)  
五  
(上)  
(中)

### ○朝 雲 雀 (三時間)

1 快活で、すがすがしい氣分のする曲である。尋四までに出た雲雀とは一種變つた快活さを示して居る。よい曲である。

2 第一、二段第四小節の音程を正確に。

3 第二三段第一小節の連合十六分音符は軽く圓滑に歌ふこと。

4 第四段第三小節 7 が下り易い。

5 第一段及第二段は特に軽く、而も二小節はスタッカートの氣味で歌ふこと。

6 吸氣が六ヶしい。それが爲他の調子を亂さぬ様特に注意が大切。

### ○兒 島 高 徳 (三時間)

1 落付いた、優美高雅な曲想である。最後に有名な句を取入れた爲、一層感慨が深い。

2 第二段第三小節本位記號は、その音程正しく。

3 第三段第一小節 6 3 の音程正しく。  
又第二段 4—3 1 が 4—3 2 になり易いから注意を要する。

連 絡

讀本卷十一

4 第四段第一小節 7 1 が 7 7 になり易い。

5 第五段第二、三小節に跨る 3 i を正確に 3 は、鮮明に歌ふこと。

6 第六段第三小節の切分音は拍子が狂ひ易い。第一の八分音は短く、四分音は思ひ切つて長く、又 1.6 の二音が短くなり勝てである。

7 強弱の記號に注意し、發想に力ひること。最後は少々 rit にしたならば一層感深いものがあらう。

8 速度が遅くなり過ぎて、だれない様に。

五  
(中)  
(下)  
六  
(上)

### ○朝 風 (三時間)

1 爽快の氣があふれて居る歌曲である。

2 第一、二段第二小節の拍子が狂ひ易い。

3 第二段第二小節 4 が 5 になり易い。

第二段第一小節 6 1 6 が 5 1 6 となり易い。

4 第四段最後は僅かに rit にして歌つた方がよからう。強弱に注意して軽く歌はせること。

### ○露 の 玉 (三時間)

1 優美に、且爽快によく出来た歌曲である

2 第三段第四小節 4 音は音程が移動しない様に。

3 第二、四段にある 7 は、下り易いから注

鑑賞教材  
我が海の子

意を要す。殊に第四段第三小節 $\frac{7.6}{\underline{\quad}} \frac{\quad}{\underline{\quad}}$ は軽く可愛らしく歌はねばならぬ。

- 4 附點の有無が亂れ易い。
- 5 二分音符が附點二分音符となり勝てそれが爲休止符ものびる傾がある。

六  
(中)  
(下)

### ○いづこへ行く (三時間)

- 1 曲は樂聖ベートオフェンの名曲で曲想まことに高雅なものである問答式になつて居る。而も速度にも相違があるので一層曲がまとまつて居ると感ずる。
- 2 第一段第三小節は正確に。又その下行旋律は澁滞しない様に。
- 3 第二段第三四小節の音程が六ヶしい。
- 4 が3となり勝てある。ここはこの曲の重要部分であるから。この旋律は十分正確に練習せねばならぬ。
- 4 第二段の第三。四小節及第三段第一二小節は少し早く歌はせること第四段第四小節の連合八分音符の中最初のは強く。次のは弱く。短く歌はせること。そして正確に一拍だけ休ませること。

### ○蓮池 (三時間)

- 1 優美爽快な曲で。夏季蓮池の氣分が溢れて居る。

- 2 第一段第二小節1 5 の完全五度。  
第二段第三小節2 7 5 の三度。  
第五段第一。二小節に跨る完全八度の諸音程に注意せねばならぬ。
- 3 各段最後の附點四分音符及八分音符が短くなり易い。正確に五拍を保持すること
- 4 第五段第二小節の延長記號の附された連合音符は約七拍に歌ふこと。
- 5 吸氣が六ヶしい。切迫した様な歌ひ方をしないこと。又休止符の前の四分音符は少し短くして十分に吸氣すること。
- 6 全體を。軽く。指示された速度に歌ひだれない様に注意すること。

七  
(上)  
(中)  
(下)

### ○行けども (三時間)

- 1 古い曲ではあるが。勇壯活潑なよい歌曲である。一種の威力を持つて人に迫る様な感じのする歌である。
- 2 各段最初の不備小節は弱く歌はせること
- 3 軽く。アクセントを明瞭に歌はせること

## 第二學期

九  
(上)  
(中)

### ○四季の雨 (三時間)

- 1 流暢て優美な歌曲である。
- 2 第二段第二。四小節音正確に。
- 3 附點になり易いから注意が大切である。

- 4 各段最初の不備小節は長くなり過ぎぬこと。そして極めて軽く歌ふこと。
- 5 各段第三小節の第二音は、軽く歌つて一拍よりも短くしその次の吸氣を十分にせねばならぬ。
- 6 速度は指示されたものよりも少し早い位に歌つた方がよいであらう。

○乃木大將 (三時間)

連絡  
乃木榮

- 1 武士道の典型と仰ぐ故乃木將軍を歌つたものとして悲壯の中に、又一種の威嚴を以て身に迫るかの感じのする曲想である
- 2 短音階であるから7 4等の音が多くあるよく音程に注意して正確に歌はせねばならぬ。
- 3 附點音符を正確に歌はせない。重い悲壯の感が出ない。
- 4 速度が遅くなつてだれる氣味があるあまり遅くならぬこと。

九  
(下)  
一〇  
(上)  
(中)

○秋 (三時間)

- 1 曲想快活で清澄爽快な秋の氣分を描出し得て十分である。
- 2 第一段第三小節の4音は正確鮮明に第二段第一小節の4音も同様である。
- 3 第二段第三小節の音程は、正確圓滑に。
- 4 第三第四小節2から5に至る完全五度は

正確に下げること。

- 5 拍子が六ヶしい。各段中央吸氣の爲兎角拍子が亂れ勝である。

○豊年 (三時間)

- 1 快活な歌で、豊年の喜びに満ち充ちて居る。輕快に歌ふことが大切である。
- 2 各段に散在して居る7が上下し過ぎる傾がある。この音は特に軽く綺麗に歌はねばならぬ。
- 3 第二段第三小節の $\overset{3}{1\ 2\ 3}$ は正しく一拍に歌ふこと。短くなり易い切迫した歌方にならぬ様注意が大切である。
- 4 第三段第一小節上行旋律は、軽く正確に
- 5 第四段一小節7 6を正しく、又第二小節 $\overset{2}{5\ 6\ 7}$ もよく注意して急がない様に歌はねばならぬ。
- 6 全體は極めて軽く歌つて、附點をよくあらはさねばならぬ。

一〇  
(中)  
(下)  
一一  
(上)

○故郷の空 (三時間)

- 1 流れて、まことに優雅高尚な曲である歌つて居ると懐郷の情そぞろに高まつて種々の感慨に涙ぐまれる。
- 2 第一段第一小節 $\overset{5}{3}$ の音程を正しく又第一段第二三段小節及第四段第二三小節の下行3 5も音程を正しく歌ふこと。

- 3 第二段第一小節5 5 のオクターブを正確に。
- 4 第四段第一小節4.2 を正しく。
- 5 第三段第は強く、發想に注意してすべて感慨をこめて歌ふこと。

○鎌倉 (三時間)

- 1 流暢の中に、何事かを強く物語る様に人に迫る力のある曲である。  
旋律もまことに美しく出来て居る。
- 2 第一段第二小節7 3 を正確鮮明に歌はせること。第三小節の1 は上りぎ過ぬ事。
- 3 第三段第三段にある3 及び3 3 の上下は澁滞しない様に正確に歌はせること。
- 4 各段末の附點音符が短くなり易い必ず三拍を保持すること。
- 5 附點音符の所在に特別注意するがよい。
- 6 速度が遅くなり易い。

二  
(中)  
(下)

○白虎隊 (三時間)

- 1 勇壯極る白虎隊の最後を歌つたものとして曲想は誠に好適。
- 2 第一段第二小節4 が5 になり易い。
- 3 第二段第二小節6.1 5 の音程を正確に。
- 4 第六段第二小節4 音を正確鮮明に歌はせること。
- 5 第六段第三小節3 5 の音程を正しく。

連絡  
讀本卷十二

連絡  
歴史

- 又5.5 と附點になり勝だから注意を要する。
- 6 附點を十分にあらはして、亂暴な聲を出さぬ様に歌ふこと。

○いくさの跡 (三時間)

- 1 凄然たる戦場の夜景を歌つてまことに沈痛凄寥の感をひき起させる。
- 2 第二段第三小節3 3 のオクターブを正確に。
- 3 第三段第二小節の音程を正確に歌ふこと
- 4 同段第四小節連合音符は、圓滑に歌はせること。
- 5 第四段第四小節5 は下らぬ様に。
- 6 各段に散在する7.4 を正確鮮明に歌ふこと。

一  
三  
(上)  
(中)  
(下)

○雪景色 (三時間)

- 1 スタッカートを巧に使つてまことに快活に出来てる曲である。
- 2 各段にある7 音及4 音は明瞭正確に歌ふこと。
- 3 連合音符は圓滑に歌ふこと。
- 4 スタッカートは明瞭にあらはして元氣よく軽く歌ふこと。
- 5 第一段末から、第二段に移るオクターブは正確に。

6 歌詞中「トメクラシ」は「訪めくらし」「く  
にのはなをか」は「地上の花をか」「チリシ  
クヲ」は「ちり類くを」である。

7 粉々たる飛雪の様に全體を元氣よく輕快  
に歌ふこと。

### 第三學期

一  
(上)  
(中)  
(下)

#### ○ワ シ ン ト ン (三時間)

1 勇壯快活な曲趣は、所謂儒夫をして立た  
しむるの概がある。

2 第二、六、十段第三、四小節に跨る2 5  
の音程を正確に。

3 第三段と第七段とは第四五小節が一寸似  
て居るから混同しない様に。

4 長い歌曲であるから、強弱を十分につけ  
て單調なるのを防がねばならぬ。

5 附點の有無によく注意して歌ふこと。

#### ○夕 の 鐘 (三時間)

1 流暢で、優美高尚な歌曲である。

これと同曲で、雪中の梅、その他二三の  
歌詞があるが、夕の鐘の歌が最もよいと  
思はれる。

2 第一、二、四段第一二小節に跨る1 i の  
オクターブは正確に。

3 第三段第一小節7は正確鮮明に歌ふこと

4 各段末附點二分音符は兎角短くなり易い  
正確に二拍を保持させねばならぬ。

5 第三段は強く、全體は極めて流暢に一種  
の落付を見せて歌はねばならぬ。

6 歌詞中「おとなひくる」は「訪ひ來る」「ま  
きのこが」は「牧の子が」である。

二  
(上)  
(中)

#### ○夜 の 梅 (三時間)

1 優美高雅な曲想である歌詞は少々難解か  
も知れぬが曲がよい爲六ヶしい歌詞を考  
へずに直ぐその美を鑑賞することが出來  
る。

2 第二、四段第一、二小節4  $\overbrace{4\ 3}$  は明瞭  
正確に歌ふこと。

3 7音及4音が多くある、その音程を正確  
に歌ふこと。

4 各段中央吸氣符號の前の四分音符は長く  
なり過ぎ、又最後の小節は正確に四拍を  
歌はない傾がある注意せねばならぬ。

5 拍子が全體に遅くなり勝てある指示され  
た速度を守ること。

全體は、流暢に歌ひ靜かな感を出さねば  
ならぬ。

(男)

#### ○凱旋將士を迎ふ (三時間)

1 勇壯活潑な歌曲である。

2 第二段第一、二小節及び

第三段、第五小節、第四段第一小節の音程正確に。

- 3 連合十六分音符の部分は、圓滑に歌ふこと。
- 4 歌詞中「じふいのすがた」は「戎衣の姿」である。
- 5 最後は、壯大に歌ふ爲、僅に rit するがよからう。

(女)

○坊 や (三時間)

- 1 落付いた、まことに可愛らしい曲である
- 2 第一、二段第三小節の音程正しく。
- 3 短音階の爲に、7.及4音がまことに多いよく注意せねばならぬ。
- 4 速度はあまり遅くならぬ様に歌ふこと可愛らしく弱く。

○螢 の 光 (三時間)

- 1 實に優美高尚な歌曲である。
- 2 第三段第三小節2 6 は正確に。  
高音の6は何れも綺麗に
- 3 各段最後の二分音符はのび過ぎぬ様に。
- 4 各音は軽く、而もその中に、強味をあらはして勇しく歌ふこと。

○仰げば尊し (四時間)

- 1 落付いた中に感慨に充ちみちた氣持の曲

てある一種の嚴肅な感が溢れて居る。

- 2 第二段第四小節の音程が狂ひ易い。
- 3 第三段第一、二小節1. 6 の音程正確に。
- 4 第四段第三小節4音は弱く歌ふこと。  
第五小節3が下り易い
- 5 各段第三小節第三番目の四分音符は延び過ぎないように注意すること。

二  
(下)  
三  
(上)  
(中)  
(下)

○師 の 恩 (四時間)

- 1 落付きの中に、感激の念のみちみちて居る歌曲であつて式日の際卒業生の歌ふものとしては好適である。
- 2 第一段第三、四小節の八分音符は兎角附點となり勝である。
- 3 第三段第一、二小節の休止符は正確に休むこと。
- 4 延長記號は、約二倍でよからう。
- 5 急ぐ様になり易い、感慨を以て、正しい速度で歌はないと森嚴の氣が薄らぐ。

## 第一學期

四  
(上)  
(中)

## ○山家春曉 (三時間)

- 1 優美高雅な曲想である。
- 2 第一段第四小節4音は明瞭正確に。
- 3 第三段第三小節の音程を正しく、殊に交4はしつかり上げて歌ふこと。
- 4 第四段第二三小節の4音が下らぬ様に。
- 5 拍子が六ヶしい、各段中央及最後の五乃至四拍をのばすところを間違はぬ様に。
- 6 吸氣がなかなか六ヶしい、殊に各段中央はそれが爲兎角拍子が亂れ勝である。

(男)

## ○郵便車 (三時間)

- 1 快活な曲で、特に春の季節に適して居る軽快に歌はねばならぬ。
- 2 第一、二段第二、三小節5 4は兎角5 3になり易い、4は軽く十分上げて歌はせねばならぬ。  
第二段第三小節2 7は2 5となり易い。
- 3 第三段第四小節5 5のオクターブは正確に澁滞なく歌ふこと。
- 4 第四、五段第三小節4 5の音程狂ひ易い
- 5 全體は音程の六ヶしいところが多いが軽く歌つて十分音程を正さねばならぬ。
- 6 「センボ」は「千畝」のこと。
- 7 休止符とて特別に設けられたものが少い

よく注意して早く吸氣しないと切迫した歌ひ方となり易い。

(女)

## ○鶯のうた (三時間)

- 1 西洋で出来た曲で巧に擬聲を取入れ巧妙に優美に出来て居る。
- 2 第一、二、六段第二小節4音がうに上り易い。
- 3 第四、五段第一小節7.がうとならぬ様に
- 4 第五段第三小節4 2が3 2になり易い。
- 5 擬聲部は、軽快に強弱をつけて。

四  
(下)  
(五)  
(上)  
(中)

## ○胡蝶 (三時間)

- 1 軽快、巧妙、なで曲、さながら蝶になつて飛廻つて居る感じになる。
- 2 第一、二段第一二小節の5 3の音程は正しく。
- 3 第一段第四小節は5 2 3になり易い注意を要する。
- 4 第三、四段5 5のオクターブは正確に。
- 5 全體を極めて軽く歌ふこと、吸氣が困難である。
- 6 第三段は殊に軽く1 6は圓滑に、強弱を十分に附して發想に力めること。
- 7 類似部分が多いから、混同しない様に。
- 8 最後は、漸次軽く、ゆるく歌ふこと。

○湖上の花 (三時間)

- 1 旋律が非常に優美に出来て居て高尚な曲想である。
- 2 第一段第一、二小節に跨る1 i のオクターブは正確に。
- 3 第四段第二小節2 音は正確鮮明に。
- 4 各段は中央で吸氣をなすこと。吸氣の前にある音符は軽く弱く發聲すること。
- 5 速度は指示されたものよりも少々早めに歌つた方がよからう。

五  
(中)  
(下)  
六  
(上)

○青葉の笛 (三時間)

- 1 悲壯な、曲で平家の最後を語るべくまことに好適のものである。
- 2 第二段第三小節3 1 は正確に而して3 は重々しく歌ふこと。
- 3 同段第四小節井5 は十分上げて歌ふこと
- 4 第三段第三小節3 7 の音程を正確に。
- 5 7 音及4 音が多い、音程を正確に。
- 6 強弱に特に注意して、發想について十分練習せねばならぬ。

(男)

○汽車の旅 (三時間)

- 1 スタッカートを巧に利用した、實に輕快なである。

連絡  
歴史

- 2 第二段第三小節5 5 の音程は正確に。
- 3 第三段第二小節7 音確實に。
- 4 所々に7 及4 音がある、正確に歌はせねばならぬ。
- 5 スタッカートがこの曲の生命であるか輕快に歌はねばならぬ。
- 6 連合十六分音符が多い、軽く圓滑に歌はねばならぬ。

(女)

○晚江 (三時間)

- 1 流暢で快活優美な曲。
- 2 第一、二、四段第三小節4 音が狂ひ易い殊に第一段は3 に下り易い。
- 3 第二段最後は2 がら正確に5 に下ること。
- 4 第三段第二小節7 音を正確。
- 5 吸氣が六ヶしい、拍子を亂さない様に早くやること。
- 6 各段最後は拍數は少くなり易い正確に五拍だけ保持すること。
- 7 第四段第四小節井1 は正確に歌はせること。

六  
(中)  
(下)

○吉野懷古 (三時間)

- 1 稍快活の中に、幾分沈痛悲哀の情の漂へる曲趣はよく、暗黒なりし當時をうつして居る。
- 2 第一、二段第四小節4 <sup>3</sup>3 2 及5 <sup>3</sup>4 2 は音

連絡  
歴史



程を正確に、而もなだらかに。  
又第五段第二小節も同様。

- 3 各段附點四分音符は短くなり過ぎ様ぬに
- 4 速度が遅くなり易い。だれない様に注意が大切である。

(男)

○日本刀 (三時間)

- 1 落付いた、中に威力のこもつた曲である。凜たる或何物かが迫つて來る様に感ぜられる。
- 2 第二段第四小節6 4 は正確に4 は特に鮮明に。
- 3 第四段第四小節も、正確に、急ぐことなく歌ふこと。

○亡き友 (三時間)

- 1 哀調を帯びた歌で、歌つて居ると、亡友の事々が思ひ出されて、自然に涙ぐまれるかう言ふ経験のある兒童には最も好かれる歌曲であらう。
- 2 第一段第二、三小節に跨るオクタ1ブは正確に。
- 3 第三段第三小節6 音が下り易い。
- 4 第三段は強く歌ふ方がよからう。全體に感じをこめて歌ふこと。

○盲と聾 (三時間)

七  
(上)  
(中)  
(下)

- 1 滑稽な題材を提へて稍禪味を帯びてゐると云つてもよい位旋律がうまく出来て居る。
- 2 第三段第二三小節に跨る完全五度音程は正確に、1 はしつかり發聲しなければならぬ。
- 3 各段末の八分音符がのび易い短いところに味があるのだから注意して休止符を正確に休むこと。
- 4 歌詞中「えんにゐて」は「縁に居て」のこと

第二學期

九  
(上)  
(中)

○埴生の宿 (三時間)

- 1 落付いた中に、強い自信を持つて居ると言つた様なまことによい曲である歌つて居ると自分の家が戀しくなつて、さては父母までが慕しくなつて來る。
- 2 各段にある4.3 4 2 は音程を特に正しく
- 3 第五段、二分音符は、漸次強くなること
- 4 強弱に注意して發想に力めねばならぬ。

九  
(下)  
一  
〇  
(上)  
(中)

○寧樂の都 (三時間)

- 1 流暢、溫雅な曲想で、みやびやかな奈良の昔が思ひやられる。
- 2 第五段、第一、二小節に跨る1 i のオクタ1ブは正確に上行すること。

連絡  
歴史

第四小節4は下らぬ様に。

第五小節、延長記號は、約二倍だけのばすこと。

- 3 類似部分が多い混同しない様に。
- 4 附點四分音符或は、附點四分音符と四分音符との結合されてるもの時價が短くなり易い、十分注意を要する。
- 5 拍子が困難である、よく注意せねばならぬ。

○旅 愁 (三時間)

- 1 題目歌詞曲想がひつたり合つてゐて懐郷の、情まことに切なるものがある、獨唱曲として實に好適のものである。
- 2 第二段第四段第六段第三小節の5 2 及び4 7の音程を正確に。
- 3 第四段第一小節の1  $\dot{1}$  のオクターブは正確に、又第一、二、五、六段等の第一小節と混同しない様にすること。
- 5 強弱をつけて發想を十分にすること。
- 6 なるべく伴奏を附して歌はせたい。

(男)  
○豊 太 閣 (三時間)

- 1 壯絶な曲趣、豊太閣を歌つたものの中最もよく出来てゐると思はれる。
- 2 第一、五段第二小節7.1の音程を正確に
- 3 第七段第八段は、勇壯に、力強く。

- 4 第二、六段最後の休止符に注意すること
- 5 第五六段は少し早く歌ふこと。

(女)

○秋 の 夜 半 (三時間)

- 1 落付いた、優美な曲である、この曲はウエーベルの歌劇「フライシュツ」の序曲の一部であると云ふ、外の歌詞をつけたものもあるがこれが最も、曲に合ふと思ふ。
- 2 第一、三段第二小節、連合十六分音符は圓滑優美に、4が上り易い。
- 3 第二段第三小節5 4 2の4が、不明瞭にならぬ様に。
- 4 第三段第四小節、 $\times$  5は下らぬ様に。
- 5 各段休止符の前にある四分音符が長くなり易い。
- 6 連合十六分音符は圓滑に歌ふこと。

荒 城 の 月 (三時間)

- 1 落付いた中にやゝ哀調を帯びてまことに感慨に堪へないと云ふ様な情が溢れて居る他にも色々歌詞をつけて春風、助船、菊などと、命名してゐるが、荒城の月の歌詞が一番曲と合ふ様である。
- 2 第一段第二小節 $\times$ 2は正確鮮明に。
- 3 第二、四段第二小節4 2の音程を正しく又3から6に下るところは、正確に。

- 4 第三段第一小節6音が4音に至る六度は澁滞しない様に、又4音は明に歌ふこと  
5 7及4等、短二度の音程を正確に。  
6 遅くなり過ぎぬ様に、又強弱を十分につけて發想に注意せねばならぬ。

(男)

## ○月下の陣 (三時間)

- 1 軍歌として随分古く出来たものであるが落付のある中に、意氣が溢れてゐる軍歌を歌ふ時の暴聲の弊に陥らないでよく唱謠する事が出来る歌曲であらう。  
2 所々にある2 4の音程を正しく。  
3 第三段第二小節2 1 6 6となり易い。第五段第五小節も同様。  
4 第四段末の2から2に移るオクターブは正確に。

(女)

## ○他郷の月 (三時間)

- 1 實に優美高尚な曲想である或は高一女にとつては少々六ヶしいかも知れぬ。音樂會等の獨唱曲として好適なものである。  
2 第二段第三小節7が1に上り易い。又7 3の音程が狂ひ易い。  
3 第三段第二小節5 3がのび過ぎる。正確に二拍だけ休息する様歌はねばならぬ。  
4 旋律は六ヶしい。軽く流暢に歌つて發想について十分注意せねばならぬ。

二  
(中)  
(下)

## ○風

(三時間)

連絡

高讀卷一

- 1 高一讀本中の韻文に曲をつけたもので輕快に、面白く出来て居る。  
2 第二段第二小節 $\overset{3}{\text{—}}\overset{5}{\text{—}}$ は圓滑に、その他スラーのついてゐるところは、力めて滑かに歌ふこと。  
3 附點の有無に注意して間違はぬ様に歌はねばならぬ。  
4 輕快に歌ふのであるが、あまり早くならぬ様に注意が大切。

(男)

## ○火砲の雷 (三時間)

- 1 曲は獨逸國歌であつて實に力強い歌曲である。音程はなかなか六ヶしい。  
2 第一段第四小節4が上り過ぎぬ様に。  
3 第二段第一小節 $\overset{1}{\text{—}}\overset{1}{\text{—}}$ は下らぬ様に。  
4 第三段第一小節及第三小節の音程を正確に。  
5 一、二音下げて歌はせるがよからう。強弱は十分注意して、威力を以て歌はねばならぬ。

(女)

## ○哀れの少女 (三時間)

- 1 曲は流暢に出来て居て、きことに上品である。この曲には「北國の雪」「亡女の寫眞」その他二三の歌曲がついてゐる。

2 第一、二、四段第二小節1 i のオクターブは澁滞せぬ様に。

3 第三段第一小節7. i は正確明瞭に歌ふこと。

4 第二、四段第三小節2 2 は附點になり易い。

5 第三段を強く、他は中強に歌はせて發想法に十分注意させねばならぬ。

○冬の夜のひびき (三時間)

1 落付いた曲で、寒い冬の夜の町がまことによく歌ひ出されてゐる。獨唱曲としてまことによい歌曲である。

2 第一段から第二段に移るところは澁滞せぬ様に兎角第三段第一小節が動搖し易い

3 第二、三段第三小節は音程を正確に而も混同しない様に。

4 第三段にある4音は正確鮮明に歌ふこと

5 高音は細く綺麗に歌ふ様、よく練習せねばならぬ。

○冬の野 (二重唱)(四時間)

1 簡単な重音唱歌で、而も和聲や旋律の工合がなかなか美しく出来てゐる。

大部分は三度であるから、左程困難でもあるまい。

2 第一、二段に於て高音低音の何れか一方

一  
(上)  
(中)  
(下)

が歌つて一方が休む場合は正確に休止符を休息せねばならぬ。

3 策二段第二、三小節、高音部の二分音符及四分音符は正確に發聲し、短くならぬ様にすること。

4 第二段第三小節4 4 は正確に上げて歌ふこと。

5 第三、四段第二、四小節は正確に五拍だけのばして一拍を休むこと。

第三學期

○高嶺 (二重唱)(三時間)

1 落付いた力のある歌曲である。

2 高音には、7音及び4音が多い、音程を正確に、又四分音符は急がずに落付と威力とを以て歌ふこと。

3 低音部では、第一段第五小節が第二段に移る1—6— | 4—の音程を正確に、力強く。

4 第三、四段にある4は、明瞭に歌ふこと。

5 速度の関係上二小節毎に呼吸をしたらよからう。

○咲け花 (二重唱)(三時間)

1 柔かく、優美に出来てゐる。

一  
(上)  
(中)  
(下)

二  
(上)  
(中)

2 高音部。

○第一段第四小節2:4は音程、附點は正確に。

○第二段第一、二小節7音及び2音は正確鮮明に歌ふこと。

3 最後の八分音符がのびて休止符までがのび拍子が亂れ易い。各々半拍の時價を保持する様に力めねばならぬ。

二(上)  
二(中)

○懷友 (二重唱)(三時間)

1 和聲も簡単に綺麗に出来て居て、親しみが溢れてゐる。愉快な氣分に充ちた歌である。

2 高音部。

○第一、二段第四小節4を正確明瞭に。

○第三段、第三小節及第五小節の4も同様。

3 低音部。

○第三段、7音は軽く正確に發聲すること

○第四段、第一小節7音も同様。

4 休止符についてよく注意すること。

殊に第三段は、吸氣の爲に、その前の音が強く短くなり勝である。

第三段は、弱く歌ふこと。

○夕の鐘 (二重唱)(三時間)

1 優美に出来た曲で、和聲も非常によい第

三段に、十六分休止符を取入れた爲一層その美しさを増したのだらう。

2 高音部。

○第二、四段の上行及下行旋律は音程を正しく、滑かに歌ふこと。

○第三段第二、四小節4音は正確明瞭に歌ふこと。

3 低音部。

○第一段第一、二小節5及7の音程を正確に。

○第二、四段第二小節の4は正確に且力強く歌ふこと。

4 第三段は弱く歌つて、休止符は正確明瞭に休むこと。

5 各段第二、四小節にある附點四分音符の長さが短くなり易い、十分のばすこと。各段中央に吸氣する爲、次の調子が亂れ易い。

二(F)  
三(L)  
二(中)  
二(F)

○都の夜 (二重唱)(四時間)

1 和聲は大部分が三度の爲に、珍らしいところもないが、全體の旋律が面白い上に歌曲がよいので興味が多い。

2 高音部。

○4の音が所々にある、音程を正しく歌ふこと。

3 低音部。

○第一段第二小節と三小節とに跨る 3 3 のオクターブを正確に、同一部分が多い注意を要する。

○7音が多い、音程を正確に。

○第八段第二三小節 5 3 の音程は正確に  
4 第三段、第三小節 4音が下らない様に

### ○鶯告春 (三時間)

1 落付きのある曲である。これはもと寺院の祈禱の歌である敬虔の念が充ちみちてゐる。

2 第一段第三小節 5 1 1 3 となり易い。

3 第二、四段第三小節 7 2 の音程を正確に

4 調子が六ヶしい、附點四分音符は正確にその時價を保たせる様に。

5 切迫した歌ひ方とならぬ様注意が大切。

## 第一學期

四  
(上)  
(中)

### ○樂し我屋 (三時間)

1 流暢な、優美な歌曲であつて、歌詞ともしつくり調和してゐる。

2 第一、二、四段第二小節 4音は正確明瞭に發聲すること。

3 第四段、第一、二小節の i 1 に至るオクターブは正確に。

4 連合音符は、圓滑、優美に歌ふこと

5 附點音符と單純音符とが随分混じてゐる間違はない様に歌ふこと。

6 吸氣が六ヶしい、拍子を亂さない様に早く吸息し終ること。

7 第三段、第一小節及第二小節の第三番目の音符が延び易い、それが爲に拍子がこはれるのであるから、十分注意せねばならぬ。

### ○樂しき農夫 (三時間)

1 曲は獨逸作曲家シューマン作で、愉快な氣分に充ちた歌曲である、兒童も非常に喜んで歌ふ。

2 第一段第三、五小節の旋律はよく注意して美しく歌はねばならぬ。

第二段第六小節第三段第二小節も同様。

3 休止符及拍子がなかなか困難である。

4 發想記號について、よく注意すること。

5 第四段第一、二小節5 4の七度は正確に第三、四小節も同様。

四  
五  
(下)  
(上)  
(中)

○春の怨 (二重唱)(三時間)

1 落付いた曲で、如何にも感憾に堪へないと云ふありさまがあらはれてゐる。

2 高音部。

○第一、二段第四小節6が二分音符となり易い。

○第三段最後の月2は正確明瞭に歌ふこと。

○第四段は拍子が六ヶしい、第二、四小節は殊に誤り易い。

3 低音部。

○1 5の音程が多い、誤らぬ様に。

○第二段、第三小節の5 4は音程を正確に又5 5のオクターブも正しく。

○第四段第二、四小節切分音は、拍子を亂さぬ様に正確に歌ふこと。

4 附點二分音符の時價に注意すること又休止符が少いから吸氣に注意して拍子を亂すことなく歌ふこと。

(男)

○春のあした (三時間)

1 實に輕快によく出来て居る。

休止符やスタッカートが巧に用ひられて

居る上に旋律が巧妙に出来て居るので一層快活な感を與へる。

2 第一第二、四小節の音程に注意すること。

3 第二、四段第二、四小節も同様。

4 第三段第一、三小節の1 iのオクターブは溢滞しない様に。

第二、四小節4は明瞭に歌ふこと。

5 拍子が六ヶしい、八分音符を一拍と數へた方が歌ひ易からう。

6 連合十六分音符は軽く圓滑に歌はせること。

7 スタッカート及發想記號には十分に注意すること。

(女)

○落花 (三時間)

1 山中に獨り咲く櫻花の孤獨な寂寥感を歌つたものにして、まことによい曲である。兒童は非常に喜ぶ哀調になり過ぎぬ様注意を要する。

2 第一、二段第二小節の旋律に注意すること。

3 第二四段第三小節中6 3の五度は正確鮮明に歌ふこと。

4 餘計なところに附點がつき易い、附點の有無によつて上品にも下品にもなるからこの曲は特に注意を要する。

5 速度が遅くなつてだれ勝だから注意が大切。

五  
(中)  
(下)  
六  
(上)

○船の真似 (三時間)

- 1 日常實際生活に於ける出来事を巧に捉へて滑稽的によく歌つた歌曲である。
- 2 第一段第四小節1 6の音程は正確。
- 3 第三段第四小節最初の7が前の小節からの餘勢で下り易い。音程を正確に。
- 4 第一、二段第一小節の休止符は正確に休むこと。  
各段最後の八分休止符は正確にその時價を保持すること。

(男)

○我國兵士 (三時間)

- 1 勇壯活潑な曲想である。  
アクセント及び強弱のつけ方を練習するによい曲である。
- 2 第一段第六小節4が下つて3になり易い第八小節と、混同し易いから注意が大切
- 3 第二段第一小節3 5 i は3 6 i の様になる傾がある又第五小節最初の2が下り易い6 2の音程は正確に。  
第七小節の音程を正しく、同一高度にならぬ様に。
- 4 第三段第六小節5 2の音程を正しく、又第四段第二小節と混同しない様に歌ふこ

と。

- 5 第五段四小節の二分音符及第五小節の八分音符は、正確にその時價を保持して短くならぬ様に歌ふこと。  
第五段はこの曲の重要部分である上行及下行の旋律は正確に、力強い自信を持つて歌ふ様にせねばならぬ。
- 6 八分音符が連続して居るところは附點がつかない様に。
- 7 本歌曲は、一音一音に力を入れて、齒切よく歌はねばならぬ。發想記號によく注意すること。

(女)

○ほたる (三時間)

- 1 箏曲の一部を改作して、出したもので流暢な旋律は優美な感じを與へずには置かない。
- 2 第三段第二小節7は動遙しない様に。  
第四小節7.6附點は正確に。
- 3 第五段第四小節3 7の音程を正確に。
- 4 高い音が多いが優美に歌はねばならぬ。

六  
(中)  
(下)

○故郷の廢家 (三時間)

- 1 獨唱曲として、まことにふさはしいものである。  
落付のある中に、物思はしげな感と呼起させる歌曲で、歌詞と曲想とが實によく



- 合つてゐる。伴奏をつけて歌はせたい。
- 2 第三段※1 及 井2 の音程は下り過ぎぬやうに。
  - 3 第四段第三小節の調子に注意すること。第六段第二小節も同様。
  - 4 第四、五段第一小節井2 は思ひ切つて上げて、柔かに、而も鮮明に歌ふこと。
  - 5 第五段第二小節2 7 の音程を正確に。
  - 6 第六段第二小節1 3 も同様。
  - 7 強弱に注意して、發想に力めること。
  - 8 伴奏をつける際は第五、六段第一小節と第二小節の間に、休息する小節が一つ入るのである。

(男)

## ○フーターロー (三時間)

- 1 英傑奈翁の歴史に於て、將世界史上に於て忘れ難いフーターローの敗戦を歌つたものとしては歌曲共に好適のものである。悲壯の感に充ちた曲想である。
- 2 第一段第一、二小節に跨る3 7 及び、第四小節の3 6 の五度音程は後方の音を正確明瞭に出すこと。
- 3 第二段第二小節井5 は下り過ぎぬ様に第三小節7 3 の音程に注意すること。
- 4 第三段第二小節から第三小節にうつる3 3 のオクターブは正確に。
- 5 第三段第五小節3 7 の音程を正確に。

連絡

高讀卷三

6 *meno mosso* のところは ♩ = 80 位に歌つた方がよからう。

第三段第二小節の延長記號は約三倍。

7 歌詞中「セウエン」は「硝照」「バンベイ」は「萬兵」「ケンクワウ」は「劍光」である。

8 全體に齒切れよく歌つて、速度に注意し發想を十分にせねばならぬ。

(女)

## ○子守唄 (三時間)

1 柔かに、而も優美高尚な曲である和樂の特長が十分あらはれてゐる。前出「ほたる」と合せて他の曲との差異を鑑賞させたい。

2 第一段第一小節から第二小節に至る六度及び第三小節3 から第二小節7 に至る四度音程を正確に。

3 第二段第一小節3 6 を正確に、第三段第四小節も同様。

4 第三段第二小節4 6 の音程を正確に。

5 連合八分音符は、圓滑に歌ふこと。

6 第四段の最後二小節は、最も弱く歌つて消え終る様にすること。

發想に注意して優美に、而も可憐に。

## ○夏の曙 (三時間)

1 静かな中に、曙の力強さがあらはれてゐる。殊に女兒には好適の曲である。原曲

セ  
(上)  
(中)  
(下)

は西洋で出来たもので「楽しき我世」「花と樂」等の歌詞もついてゐるが、夏の曙が最も恰適である。

- 2 第二。四段第一小節の7が下り易い。
- 第一。二小節の7 2の音程を正確に。
- 3 短二度音程が多い正確に歌ふこと。
- 4 單調に流れない様に強弱をつけて發想に力むること。

### 第二學期

九(上)  
(中)

#### ○曉 景 (二重唱)(三時間)

1 低音部が高音を追つて、進む様に出来て旋律、和聲共に面白い。  
爽快味の漲つて居る歌曲である。

高音部。

- 第二段第二小節の音程を正確に。
- 第二段第三小節#4は正しく上げて歌ふこと。
- 第四段第一小節2 6の音程を正確に。

3 低音部 高音部に似てゐるから高音の注意を参照すること。

(男)

#### ○聖壽無量 (三時間)

- 1 快活で、實に力強い歌曲である。原曲は四重唱に出来て居る。
- 2 第二段第一。二小節と第二。三小節との

旋律が混同し易い。

- 3 附點音符が多い正確に歌はねばならぬ。
- 4 第七段は、最も威力を以て歌ふこと。
- 5 強弱に注意して發想に力めること。
- 6 歌詞中「ヤシマノウチト」は「八洲の内外」である。

(女)

#### ○秋 の 聲 (三時間)

- 1 流暢に出来た歌曲で、如何にも清澄な秋らしい感がする。
- 2 第二段第一小節5 3の音程を正確に。
- 3 第三段末が第四段にうつる5 5のオクターブは正確に下ること。
- 4 第四段第三小節7は十分上げて歌ふこと。
- 5 第一。二段第二小節。正確にその時價を保つて、決して短くならぬ様にすること  
各段最後は正しく五拍を歌ひ一拍だけ休む様にすること。  
各段第二小節の吸氣がのびない様に。
- 6 發想記號に注意すること。

九(下)  
一〇(上)  
(中)

#### ○御寺の鐘の音 (輪唱)(三時間)

- 1 鐘聲を巧に取入れて、和聲も面白く出来てゐる。
- 2 7及4は正確鮮明に歌ふこと。
- 3 第一。二段第三小節休止符は正しく一拍

だけ休むこと。

4 第三段は割合に弱く歌ふこと。

5 歌詞中「イサリビ」は「漁火」「コソジャウ  
グワイ」は「姑蘇城外」である。

### ○山居の美 (二重唱)(三時間)

1 落付いた感じのする。よい曲である。

2 高音部。

○第二段末から、第三段第一小節の旋律  
音程は正確に。

第三段第二小節の音程は正確に。

3 低音部。

○第二段第二小節  $\underline{2\ 1\ 5\ 3}$  の音程は正  
確に。

○第二段末から第三段に跨る  $7\ 4$  を正確に

4 歌詞中「ヲノヘノヒカゲ」は「尾上の日影」  
「タニミヅサビテ」は「溪水寂びて」「ムカ  
フヲカスメ」は「向峰かすめ」「ヤノトメ  
グル」は「家の外めぐる」である。

### ○菊 (二重唱)(四時間)

1 原曲は、アイルランドの民謡であつて、  
殆んど世界的に歌はれてゐる。旋律はま  
ことに優美高尚に出来てゐて兒童も非常  
に喜ぶ他に「薔薇の花」「夏はゆく」等の歌  
詞がある。

2 高音部。

一(上)  
一(中)  
一(下)

○第三段第二、四小節  $7$  正確に又第四小  
節  $\times 5$  は十分上げて歌ふこと。

3 低音部。

○第一、二、四段第一、二小節  $\underline{5.7}$  |  $1$   
の音程を正確に、第四小節  $7$  は正確明  
瞭に。

4 この曲は、音程よりも拍子が六ヶしいよ  
ほど注意しないと、聞くに堪へないもの  
となる吸氣の爲に拍子が亂れない様に注  
意すること。

### ○紅葉狩 (二重唱)(四時間)

1 低音が丁度高音の間を縫つて行く様に出  
来てゐて、優美高尚な曲である。

2 高音部。

○第一段第三小節  $5\ 1$  の  $1$  が上つて  $2$  に  
なり易い。又第三小節と第四小節に跨  
る  $1\ 6$  の音程を正確に。

○第二段第三小節  $\times 4\ 3$  を正確に。又第  
三小節  $2\ 7$  は正確に、 $\times 4$  が下り易  
い。

第四小節  $5\ 5$  のオクターブは正確に下  
行すること。

○第三段第三小節  $4$  は正確に上げて。  
第四段第三小節  $3\ 1$  も正しく。

3 低音部。

○第一段第四小節は第三小節から正確に

下ること又※4は明瞭に上げて歌ふこと。

○第一段第五小節2 7 5の音程を正しく

○第二段第二小節1 1のオクターブは正確に下行し、又第三小節の2は明瞭に移動しない様に發聲すること。

第五小節休止符は正確に一拍半だけ休息すること。

○第四段第一小節下行旋律は、明瞭正確に。

○第三小節1 4の4は鮮明に。

○低音部だけにある細かな旋律の部はすべて軽く綺麗に歌ふこと。

4 強弱に注意して、派手に歌ふこと。吸気がなかなか六ヶしい。殊に低音部に於ては切迫し易い。

### ○霜の朝 (三時間)

1 落付中に、凜としてしまりのあるよい曲である。

2 連合八分音符を急いで歌ふ傾がある柔かにゆつくり歌ふこと。

3 第三段第二、三小節に跨る3 5は正確に下り5は明瞭に、力強く發聲すること。

4 休止符等の爲に、拍子が亂れない様に注意すること。

一  
一(中)  
一(下)  
一  
一(上)

(男)

### ○飛行隊のうた (三時間)

1 勇壯な歌曲であつて、行進にも合ふから遠足の時など歌はせるに好適な教材である。

2 第一段第二小節6 7が6 6になり易い。

3 第二段第三小節3 5の音程を正確に。

4 第三段第二小節1 - 1のオクターブは正確に下ること。

第三小節 1 6 1 2 が 1 5 1 2 になり易い。

5 發想記號に注意して、勇壯活潑に歌ふこと。

(女)

### ○雁のさけび (二重唱)(三時間)

1 原曲は、露西亞民謠で、實に優美高尚に出来てゐる。初め弱く出て、中に至つて強くなり、最後に又再び、消える様に納る全體の調子は實に美しいものである。

2 高音部。

○第一段第一、二小節にある 1 6 2 6 の音程を正確に、又第三小節 3.4 3 は圓滑に可愛らしく歌ふこと。

3 低音部。

○第四段第四小節3 2 6は◇6音をしつかり上げて、歌ひ5にならぬ様に。

4 發想記號として PPP がついて居る力め

二  
(中)  
(下)

て弱く歌ふこと、強弱はこの曲に最も大切なものであるから十分練習發想に力めねばならぬ。

○氷 滑 (三時間)

- 1 スタッカートを巧みに取入れて、まことに快活によく出来てゐる。
- 2 各段を通じて4 6 及 4 2 の音程が多い。  
4 音は正確鮮明に出して、音程を正確に歌ふこと。
- 3 スタッカートは輕快に歌ふこと。

第三學期

一  
(上)  
(中)  
(下)

○笛 の 音 (輪唱)(三時間)

- 1 快活に、よく出来てゐる。
- 2 第一段第四小節 4 5 4 の音程を正確鮮明に。
- 3 第二段第四小節 2 7 を正確に。
- 4 第三段第二小節 1 4 及び第四小節 7 音を正確に。
- 5 第六段、第一、二小節の旋律は、音程を正確鮮明に。
- 6 休止符が少い爲、吸氣が切直し易いその爲拍子が亂れぬ様に。

(男)  
○冬 (三時間)

- 1 勇壯活潑な曲である、輕い中に威力をつ

けて歌ふべきである。

- 2 第一段及び第七段にある休止符は正確に休むこと。
- 3 第一段第二小節の後の 3 が 2 になり易い第七段も同様。
- 4 第一段第三小節 4 音は正確鮮明に。  
第七段又同様。
- 5 第二段、第三小節 7 2 を正確に。
- 6 第三段第二小節 7 音鮮明に。
- 7 第四段第三小節 i は下らぬ様に十分上げて歌ふこと。
- 8 第六段第一、二小節音程狂ひ易い。

(女)  
○四季の月 (三時間)

- 1 落付いたよい曲である、歌詞は和歌であるから先づその大意を説明してその後教授に入るがよからう。
- 2 第一段第二小節は正確に下行すること。  
第四小節 2 7 の音程を正しく。
- 3 吸氣に氣をつけて切迫した歌ひ方とならぬ様にせねばならぬ。

(男)  
○神洲男子 (四時間)

二  
(上)  
(中)  
(下)

- 1 勇壯快活な第一部と落付の中に一種の威力を持つた第二部とを合して、一つの歌曲をつくつたもので全體を通じて力味のあるよい歌曲である。

- 2 第二段の音程に注意すること。
- 3 第五段第一小節  $3 \dot{3}$  のオクターブは正確に。
- 4 第六段第二小節  $7 \underline{4}$  の音程を正確に。
- 5 第八段第二三小節に跨る  $6 \dot{2}$  の音程を正確に。
- 6 第一部及第二部の速度發想に注意が大切

(女)

## ○琴 の 音 (二重唱)(四時間)

- 1 原曲は、獨逸の有名な作曲家メンデルスゾーンの作の一節で快活、優美なよい曲である。該曲の全部には「ひばり」の歌詞がついて居て四重唱の派手なものである
- 2 高音部。
  - 第一段第三小節  $5 \dot{1} \underline{3 \underline{4} 5}$  の音程を正しく、 $\dot{1}$  は軽く歌ふこと。
  - 第三段第一小節  $4$  の音を正確に。
  - 第二小節  $\dot{1} \underline{1}$  のオクターブは正しく上げること。
- 3 低音部。
  - 第一段第四小節  $4$  音を正確鮮明に。
  - 第二段第一小節  $5$  は正しく下げて歌ふこと。
  - 第三段第一小節  $4 \underline{2}$  は正しく。
  - 第二小節  $7$  音正確に。
- 4 休止符に注意して、軽く歌ふこと。

## ○花

(二重唱)(五時間)

- 1 實に優美高尚な曲想である。成るべくば伴奏を入れて歌はせたい。  
本曲を完成するには五時間では六ヶしいから若しあまりに時間をとる様になるとか又は兒童の程度によつては高音部だけの單音唱歌としても曲想には大いなる障はあるまい。
- 2 高音部。
  - 第一段第二小節  $2 \underline{1} \underline{6 \underline{6}}$  となつて  $7$  が  $6$  に下り易い。その外にも同一部分があるがよく注意して  $7$  音を鮮明に出させること。
  - 各段第一、二小節中に散在する十六分休止符は正確にその時價だけ休むこと
  - 第四、八段第三小節  $2 \underline{3}$  は附點に注意して、明瞭に歌はせること。
  - 第十一段第一、二小節は、第三、七段とは異つて居るから、間違なく歌ふこと。
  - 第十二段第一小節  $\diamond 1$  は正確に上げて明瞭に歌ふこと。
- 3 低音部。
  - 第一段第三小節の音程六ヶしい  $1$  を正確に上げて歌ひ次の  $7$  が下り過ぎぬこと。

- 第一段第二小節2 7の音程を正しく又7から3に至る下行旋律は滑かに。
- 第五六段第二小節の旋律に注意すること。
- 第九段第三小節は第一段第三小節と似て居る3 5の5を正確明瞭に歌ふこと
- 第十二段第二小節の音程狂ひ易い2 3 4が下らぬこと。
- 4 強弱を十分につけて發想に力めること。

三  
(上)  
(中)  
(下)

○浦のあけくれ (三重唱)(五時間)

- 1 優美高尚な曲想であるこの外、春興、ほととぎす等の歌詞があるが、浦のあけくれが最もよいと思ふ。
- 2 甲の部。
  - 第一段第四小節4音上り過ぎぬ様に。
  - 第二、三、四段にある4 2 1 7の音程を正確に7は明瞭に歌ふこと。
- 3 合唱の部。
  - 低音部、第二、三段の下行旋律は音程を正確に、軽く、滯滞せぬ様に歌ふこと。
- 4 乙の部。
  - 第一段から第二段に移る5 5のオクターブを正確に。
  - 第三段第一小節4音を正確に。
- 5 丙の部。

○第三段第三小節正確に、力強く歌ふこと。

(女)  
○夢

(三時間)

- 1 落付いた高尚な曲で、女子には好適の材料である。
- 2 第一、二、五段第二小節の2 4は音程を正確に。
- 3 第三段第二小節1.3が延び易い、一拍を保持すること。
- 4 随分高い音が多い、軽く、音程を正確に歌ふ様にすること。
- 5 強弱をつけて、發想に力めないと單調になり易い。

○早春賦 (三時間)

- 1 高一山家春曉に似て而も一層優美に出來た品のよい曲である、音域も擴がつて居る爲、旋律が非常に優れて居る。
- 2 第一、二段第四小節は滑かに、音程を正確に。
- 3 第三段、第二小節2及び3は明瞭に歌ふこと。
- 4 第四段第三四小節の下行旋律は軽く、滯滞なく歌ふこと。  
ritのために、だれ過ぎぬ様注意を要する。

- 5 第一、二、三段第三小節、及び各段最後の時價を正確に保持すること。
- 6 休止符がない吸氣の爲に拍子が狂ひ易いから注意を要す。
- 7 強弱、特に第四段は、發想に力めねばならぬ。

歌  
曲  
之  
部



(1)

調  
♩=96

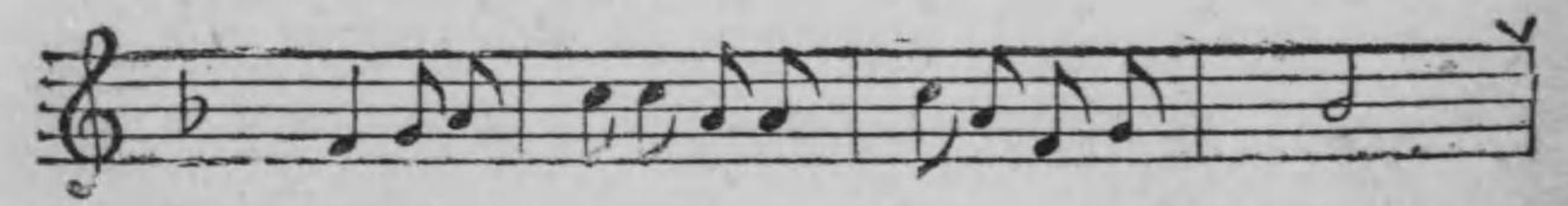
# 鳩

(第一)



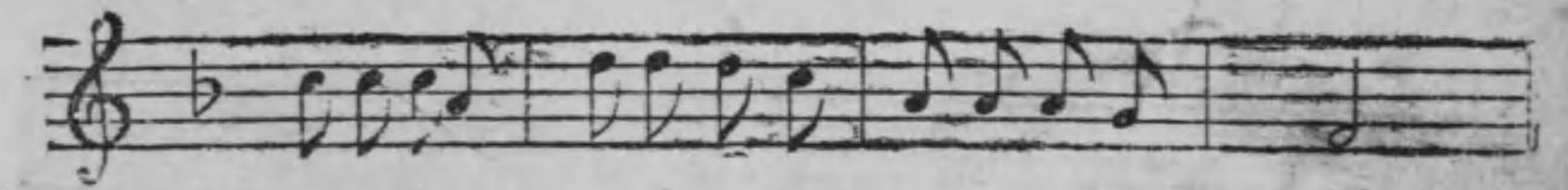
1 2 | 3 - | 5 3 1 | 2 -

- 1. ポッポッ    ポ    ハト    ポ    ポ
- 2. ぽっぽっ    ぽ    はと    ぽ    ぽ



1 2 3 | 5 5 3 3 | 5 3 1 2 | 3

- マメガ    ホシイカ    ソラヤル    ゴ
- まめは    うまいか    たべたな    ら



5 5 5 3 | 6 6 6 5 | 3 3 3 2 | 1 -

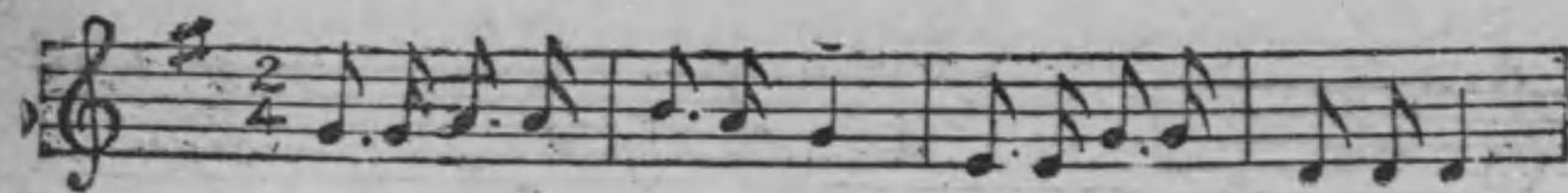
- ミンナデ    ナカヨク    タベニコ    イ
- いちどに    そろつて    とんてい    け

(2)

ト調  
♩=84

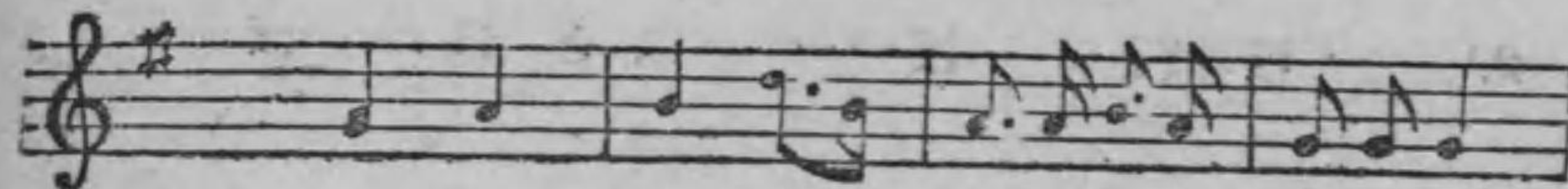
# 練 兵

(尋一)



1. 1 2. 2 | 3. 2 1 | 6. 6 1. 1 | 5 5 5

キノフモ ケフモ アソコノ ハラデ



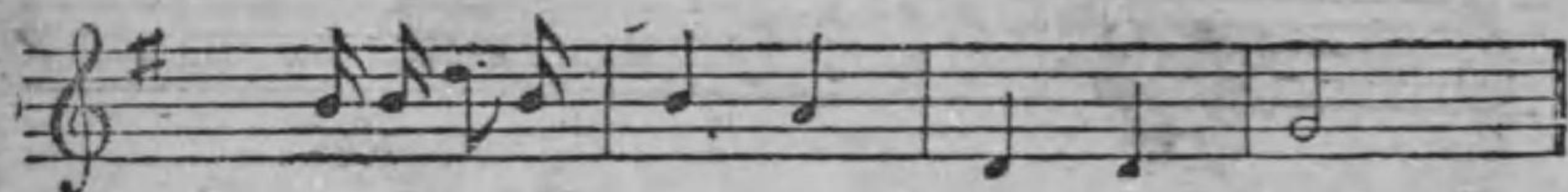
1 2 | 3 5. 3 | 2. 2 3. 2 | 1 1 1

兵 隊 サン ガー イクサノ ケイコ



6. 6 1. 6 | 6 5 | 1 5 1 3 | 5 -

ラツバノ コ エ ブブブブ



3. 3 5. 3 | 3 2 | 5 5 | 1 -

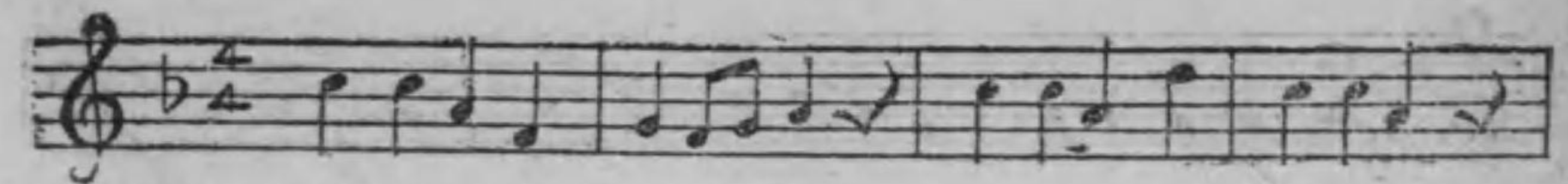
テツポーノ オ ト ドン ドン ドン

(3)

♩調  
♩=112

# ひ よ こ

(尋一)



5 5 3 1 | 2 1 2 3 0 | 5 5 3 6 | 5 5 3 0

1. ヒヨヒヨ ヒョーコ テヒサナ ヒョコ

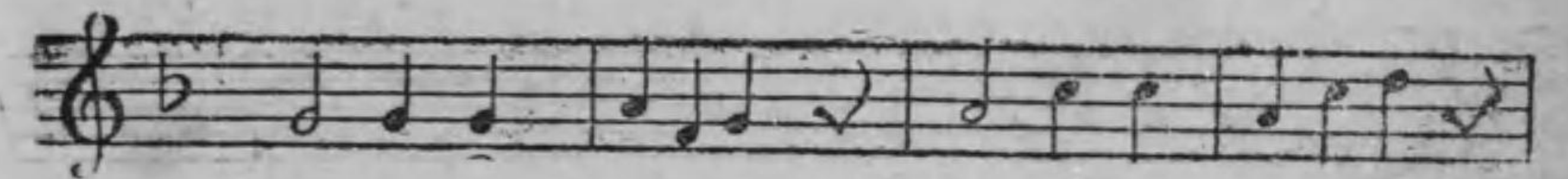
2. ひよひよ ひよーこ かはいい ひよこ



5 5 3 1 | 2 1 2 3 3 | 5 5 3 1 | 2 2 3 1 0

キヤウダイ ナカーヨク イツショニ アルーケ

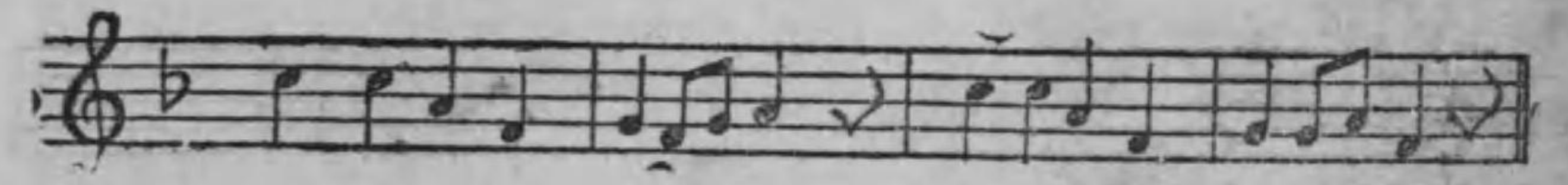
いつても おやーにー だかれて ねじーれ



2-2 2 | 3 1 2 0 | 3-5 5 | 3 5 6 0

アシノ ツヨク ナラヌ ウチニ

はねの ながく ならぬ うちに



5 5 3 1 | 2 1 2 3 0 | 5 5 3 1 | 2 2 3 1 0

トホクヘ イクーナ ヒトリデ イクーナ

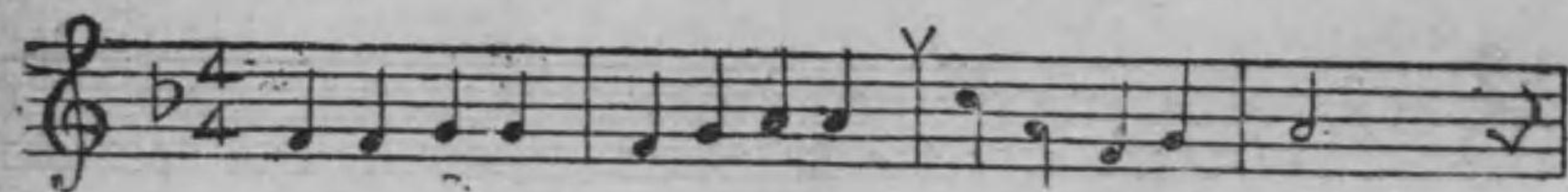
はなれて ねるーな ひとりて ねるーな

(4)

調  
♩=104

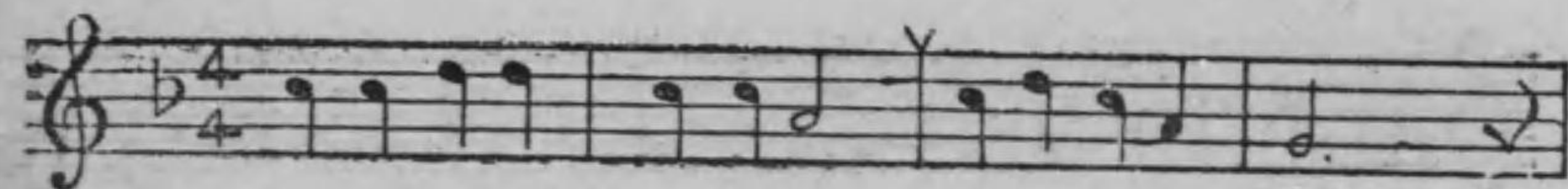
# 人形

(尋一)



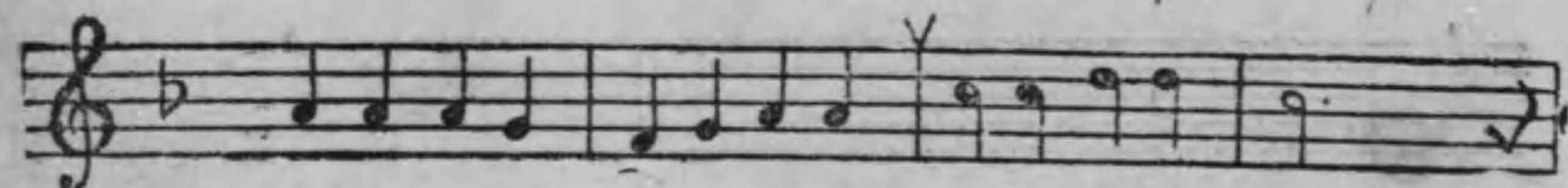
1 1 2 2 | 1 2 3 3 | 5 3 1 2 | 3. - 0

1. ワタシノ ニンギヤウハ ヨイニン ギヤウ  
2. -----



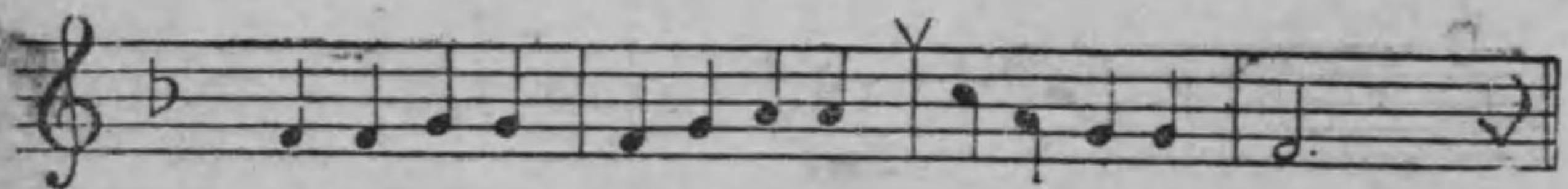
5 5 6 6 | 5 5 3 - | 5 6 5 3 | 2. - 0

メハバツ テリト イロジロ デ  
うたを うたへば ねんねし て



3 3 3 2 | 1 2 3 3 | 5 5 6 5 | 5. - 0

チヒサイ クチモト アイラシ イ  
ひとりて おいても なきませ ん



1 1 2 2 | 1 2 3 3 | 5 3 2 2 | 1. - 0

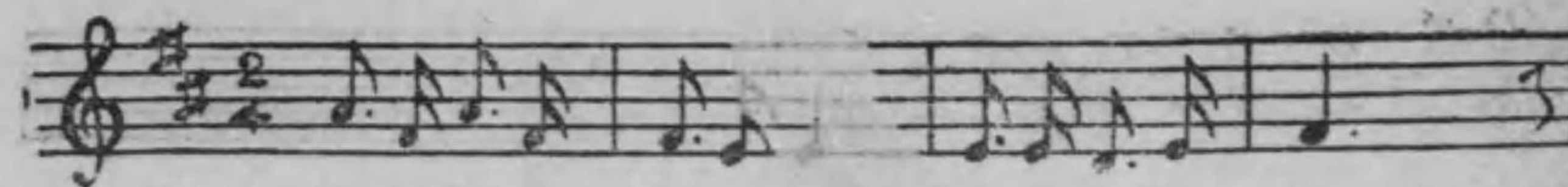
ワタシノ ニンギヤウハ ヨイニン ギヤウ  
-----

(5)

調  
♩=100

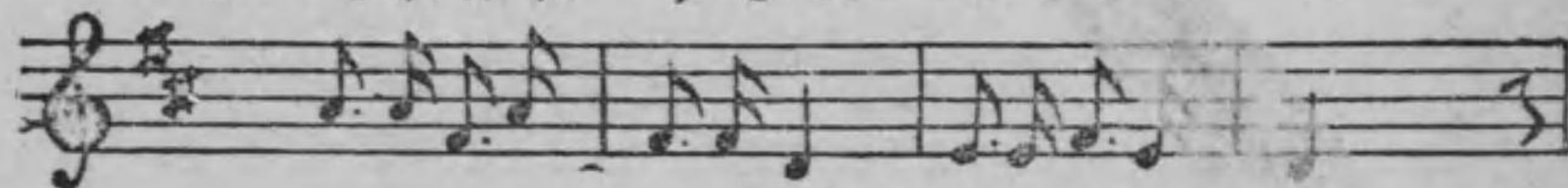
# 兎と龜

(尋一)



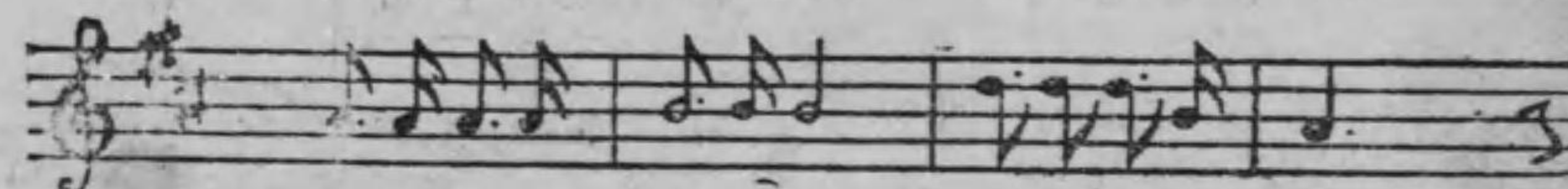
5. 3 5. 3 | 3. 2 2 | 2. 2 1. 2 | 3. 0

1. モシモシ カメ ヨ カノサン ヨ  
2. ナントオッ シャール ウサギサ ン  
3. どんなに かめが いそいで も  
4. これはね すぎた しつ 72



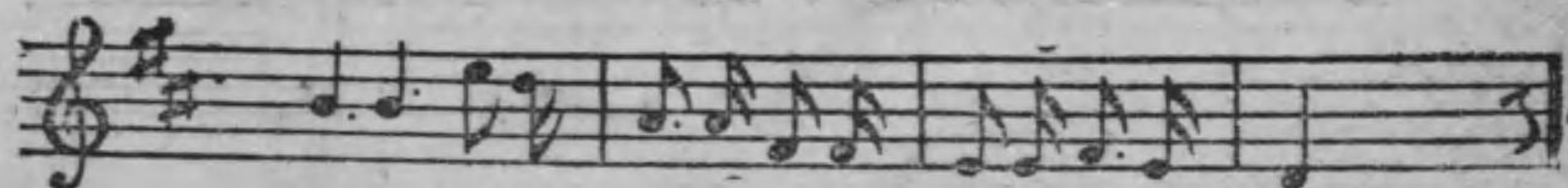
5. 5 3. 5 | 3. 3 1 | 2. 2 3. 2 | 1. 0

セカイノ ウチニ オマイホ ド  
ソナナラ オマヘト カケクラ ベ  
どうせー ばんまで かかるだ ろ  
ビヨンビヨン ビヨンビヨン ビヨンビヨン ビヨン



5. 5 5. 5 | 6. 6 6 | .i i. 6 | 5. 0

アユミノ ノロイ モノハナ イ  
ムカフノ コヤマノ フモトマ デ  
ここらで ちよいと ひとぬじ り  
あんまり おそい うさぎさ ん



6. 6 i. i | 5. 5 3. 3 | 2. 2 3. 2 | 1. 0

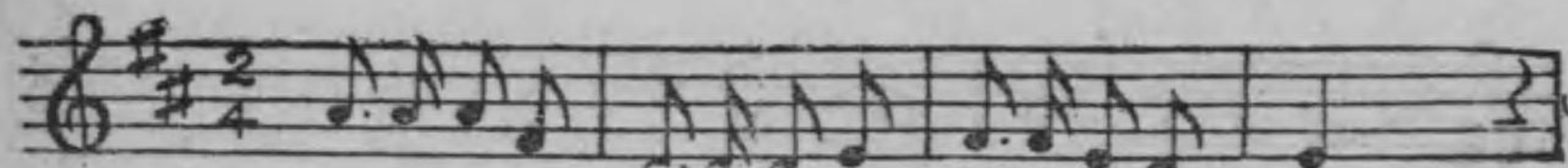
ドウシテ ソンナニ ノロイノ カ  
ドチラガ サキニ カケツク カ  
ぐーぐー ぐーぐー ぐーぐー ぐー  
さつきの じまんは どうしたの

(6)

ニ調  
♩=92

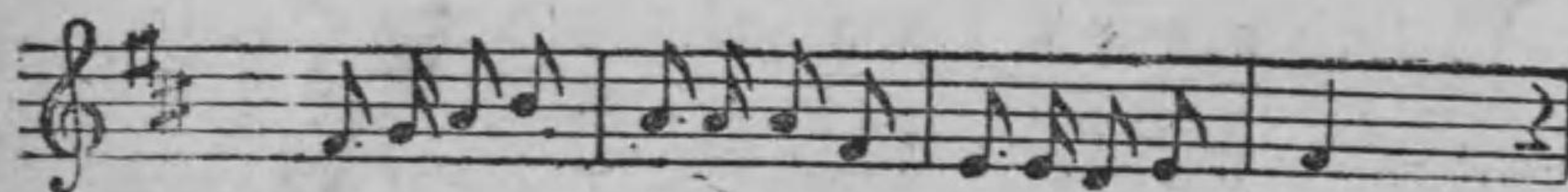
# かたつむり

(尋一)



5.5 5 3 | 1. 1 1 2 | 3. 3 2 1 | 2 0

1. デンデン ムシムシ カタツム リ
2. てんてん むしむし かたつむ り



3. 4 5 6 | 5. 5 5 3 | 2. 2 1 2 | 3 0

- オマヘノ アタマハ ドコニア ル  
おまへの めだまは どこにあ る



5 i i 5 | 3 5 5 3 | 1 3 3 2 | 1 0

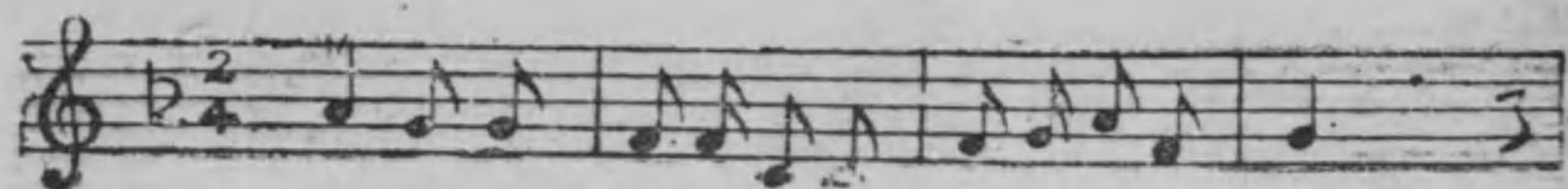
- ツノダセ ヤリダセ アタマダ セ  
つのだせ やりだせ めだまだ セ

(7)

ハ調  
快活ニ

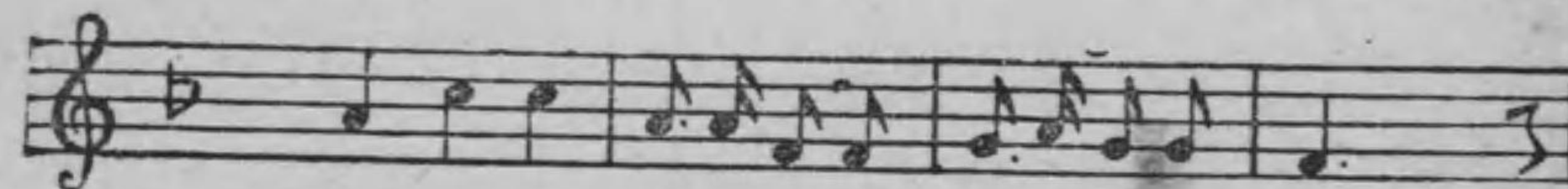
# 一年生

(尋一)



3 2 2 | 1. 1 5 5 | 1. 2 3 1 | 2. 0

1. ボクハ ジンジョウー イチネン セイ
2. きのふ いたたよ がくから へ



3 5 5 | 3. 3 1 1 | 2. 3 2 2 | 1. 0

- コトシ ハイッター イチネンセイ  
あすも いかふよ かくから へ



5. 5 5 0 | 6. 6 5 5 | 4. 3 2. 5 | 5. 0

- アメガ フツテモ ボクハユ ク  
ゆきが ふつても ぼくはゆ く



3. 3 3 0 | 5. 5 3 3 | 4 3 2. 2 | 1. 〇

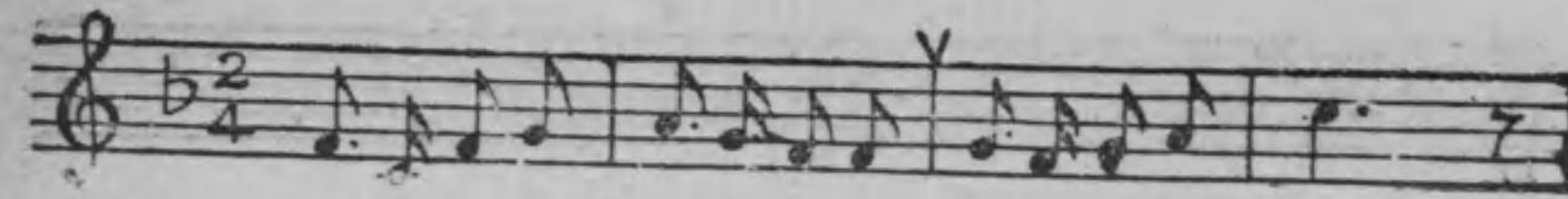
- カゼガ フイテモ ボクハユ ク  
ぼくは ちいさいが げんきぞ や

(8)

調  
♩=112

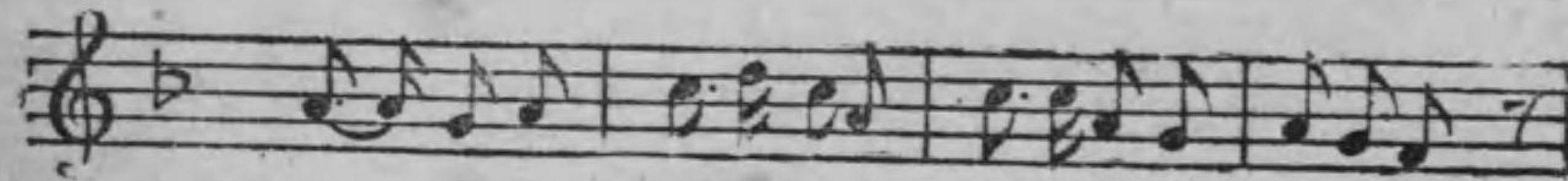
# 金太郎

(第一)



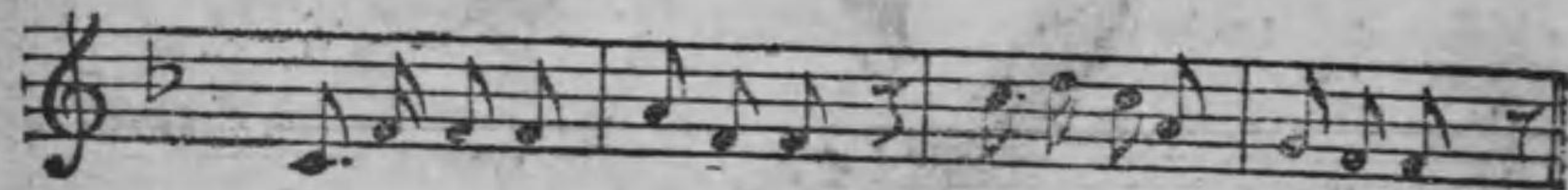
1. 5 1 2 | 3. 2 1 1 | 2. 1 2 3 | 5. 0

1. マサカリ カツイデ キンタラ ウ
2. あしがら やまのー やまおく て



3. 3 2 3 | 5. 6 5 3 | 5. 5 3 2 | 3 2 1 0

- クーマニ マタガリ オウマノ ケイコ  
けだもの あつめて すまふの けいこ



5. 1 1 1 | 3 1 1 0 | 5. 6 5 3 | 2 1 1 0

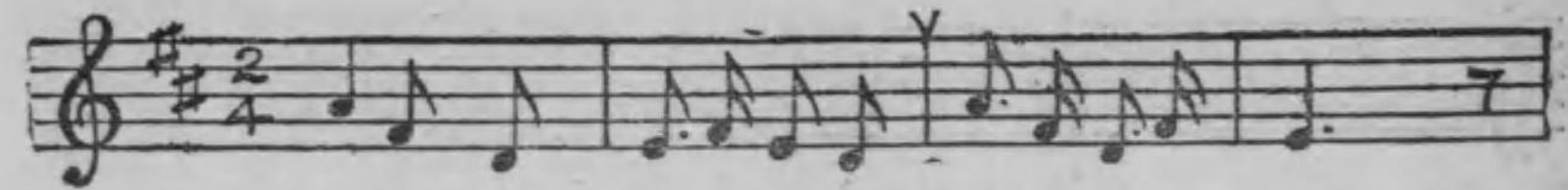
- ハイシドゥドゥ ハイドゥドゥ ハイシドゥドゥ ハイドゥドゥ  
はっけよよい の こった はっけよよい の こった

(9)

調  
♩=96

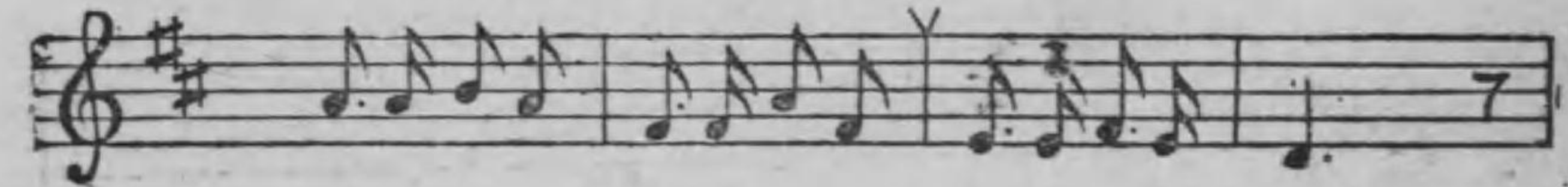
# 猿蟹

(第一)



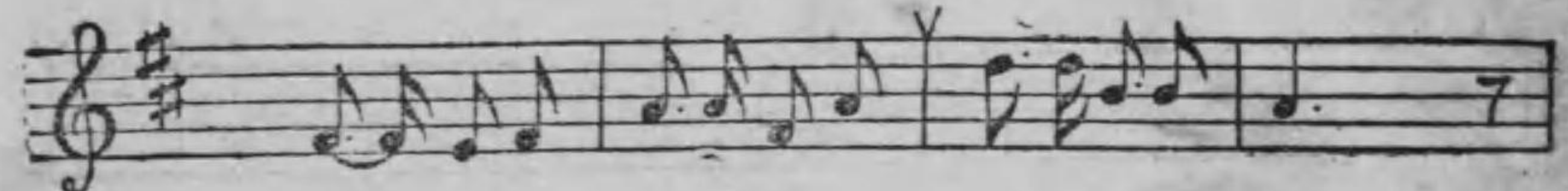
5 3 1 | 2. 3 2 1 | 5. 3 1 3 | 2. 0

1. ハヤク メヲダセ カキノタ ネ
2. はちや たまごや たちうす が



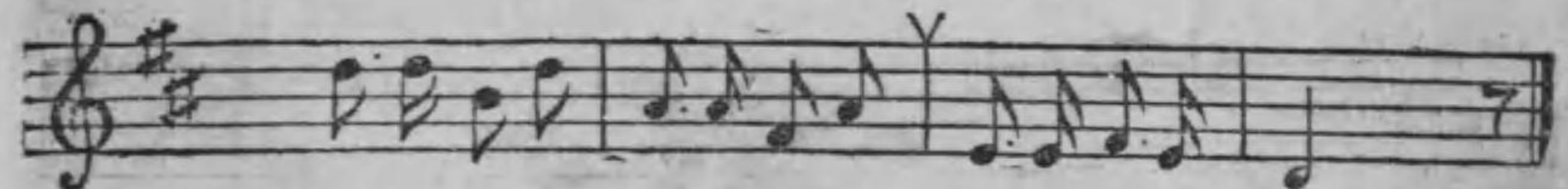
5. 5 6 5 | 3. 3 5 3 | 2. 3 2 | 1. 0

- ダサヌト ハサミデ チョンギル ゴ  
かーにを たすけて かたきう ち



3. 3 2 3 | 5. 5 3 5 | 1. 1 6. 6 | 5. 0

- ハヤク ナラヌカ カキノミ ヨ  
たまごの じらいく。 はちのや り



1. 1 6 1 | 5. 5 3 5 | 2. 2 3. 2 | 1. 0

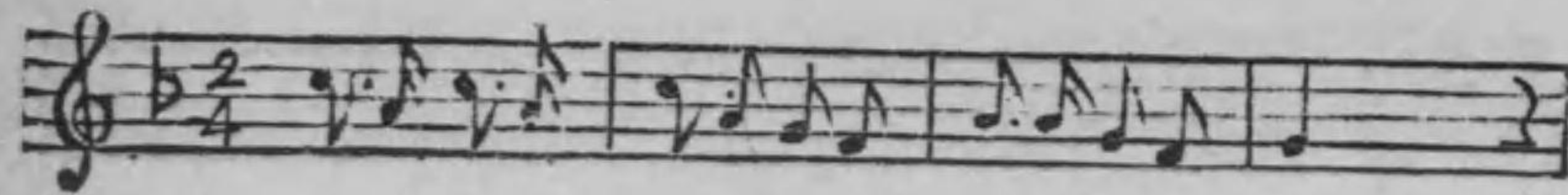
- ナラヌト ハサミデ チョンギル ゴ  
とうとう さるめは つぶされ た

(10)

調  
♩=84

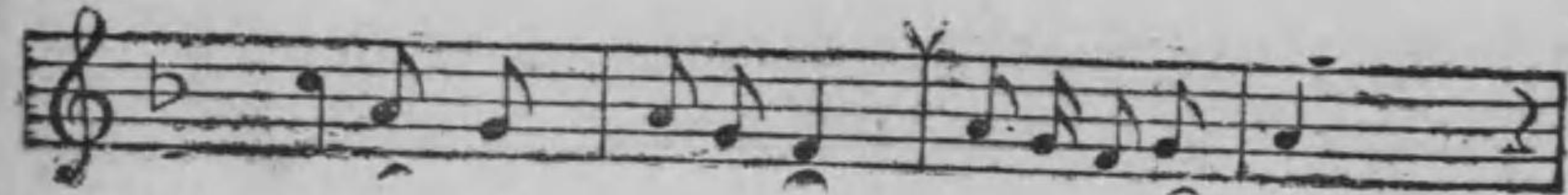
# 鳥

(尋一)



5.3 5.3 | 5 3 2 1 | 3.3 2 1 | 2 0

カアカア カラスガ ナイタイク



5 3 2 | 3 2 1 | 3.2 1 2 | 3

カラス カラス ドコヘイク



5 5 6 6 | 5 5 3 | 5 5 6 6 | 5 5 3

オミヤノ モリヘ オテラノ ヤネヘ



5.3 5.3 | 5 3 2 1 | 3.3 2 2 | 1 0

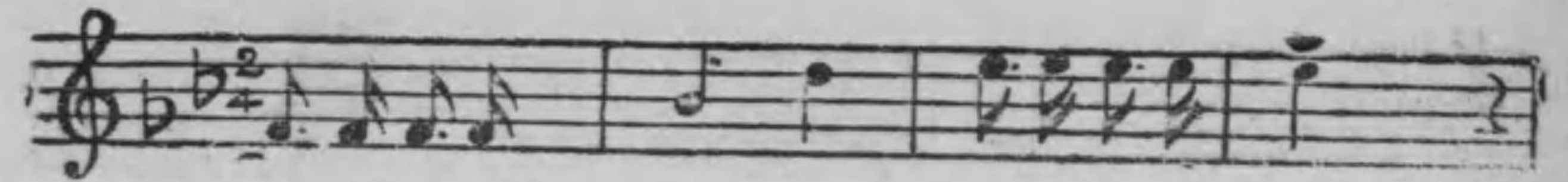
カアカア カラスガ ナイタイク

(11)

變口調  
♩=132

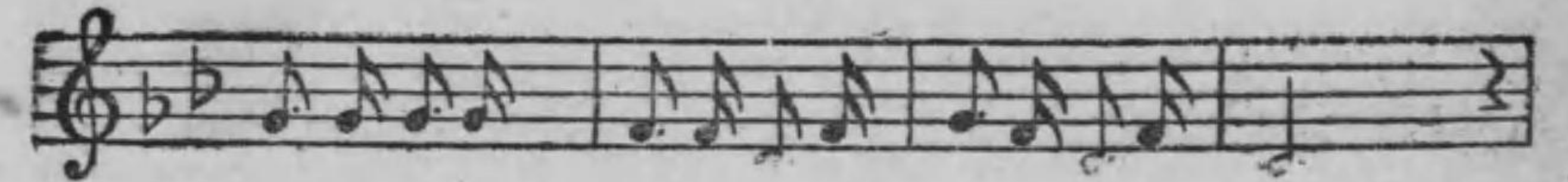
# 日本男兒

(尋一)



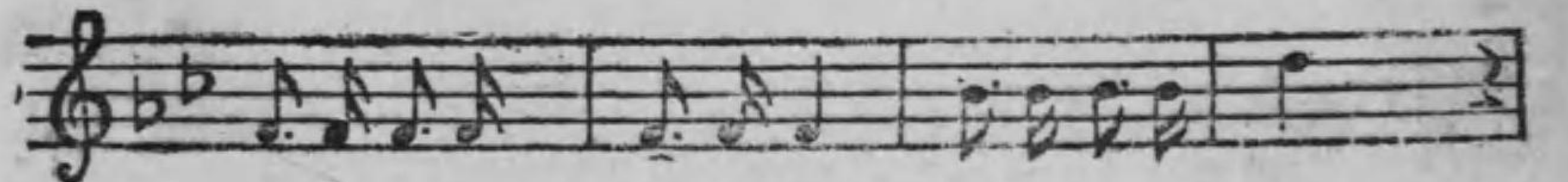
5.5 5.5 | i 3 | 2.2 2.2 | 2 0

ワレラハ 日本 ダンジナリ



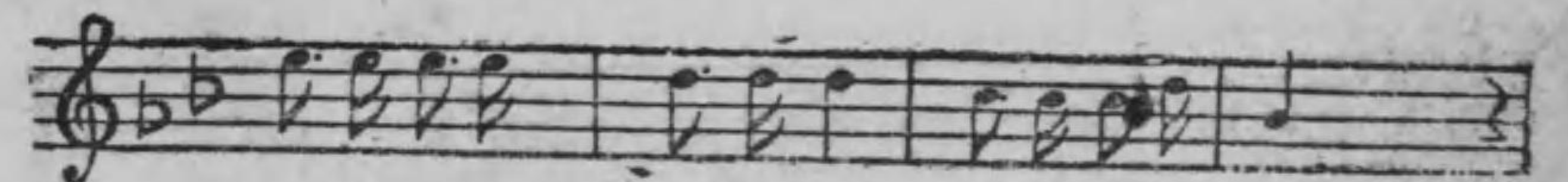
6 6 6.6 | 5.5 3 5 | 6.5 3.5 | 2 0

セカイデ ツヨイハ ワレラナリ



5.5 5.5 | 5.5 5 | i.i i.2 | 3 0

イクセン ソウノ グンカンモ



3.3 3.3 | 2.2 i | 2.2 2.3 | i 0

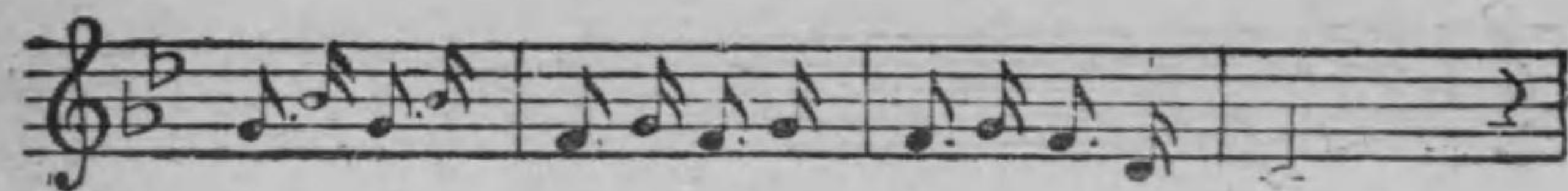
イクヒヤク マンノ タイグンモ

(12)

變口調  
♩=132

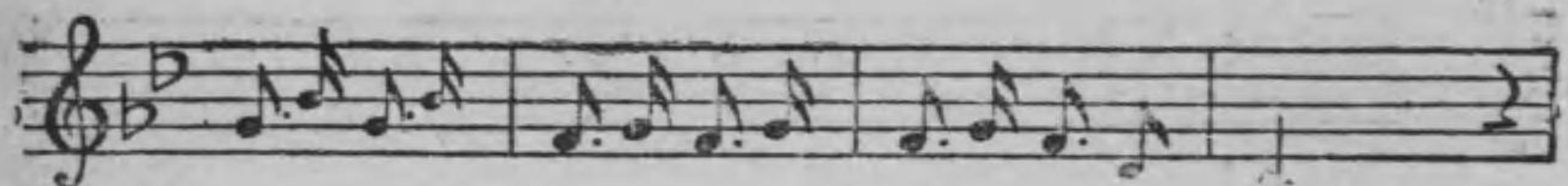
# 日本男兒

(尋一)



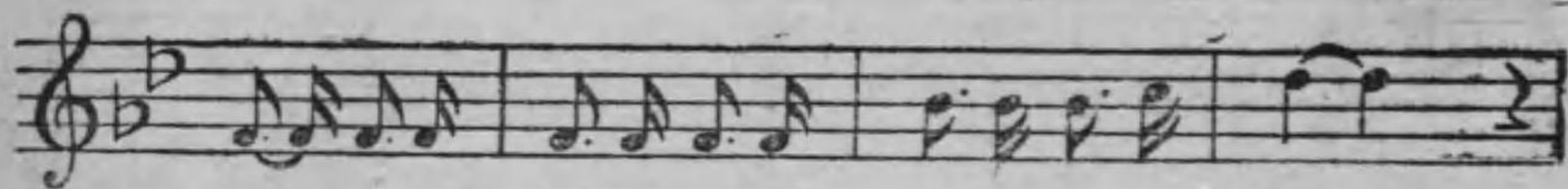
6. i 6. i | 5. 6 5. 6 | 5. 6 5. 3 | 2 0

スコシモ オソルル コトハナ イ



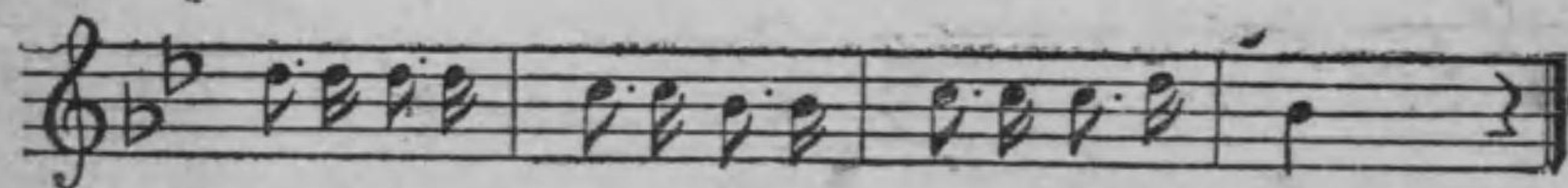
6. i 6. i | 5. 6 5. 6 | 5. 6 5. 3 | 2 0

ワレラノ テニモツ テツボウ ニ



5. 5 5. 5 | 5. 5 5. 5 | 1. 1 1. 2 | 3 3 0

ヤーマト ダマシノ タマヲコ メー



3. 3 3. 3 | 2. 2 1. 1 | 2. 2 2. 3 | i 0

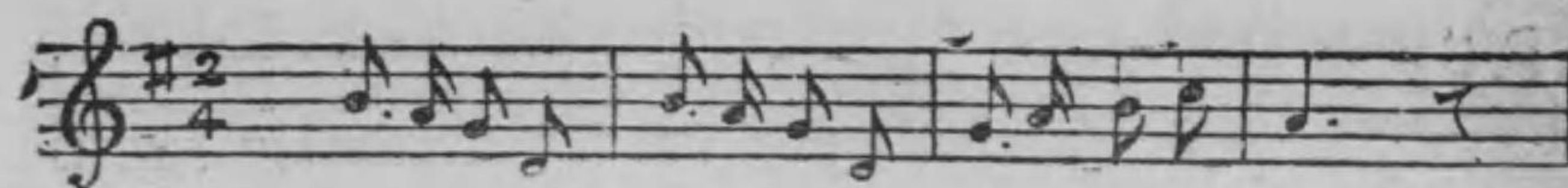
イチドニ ズドント ウツテヤ ロ

(13)

ト調  
♩=96

# 池の鯉

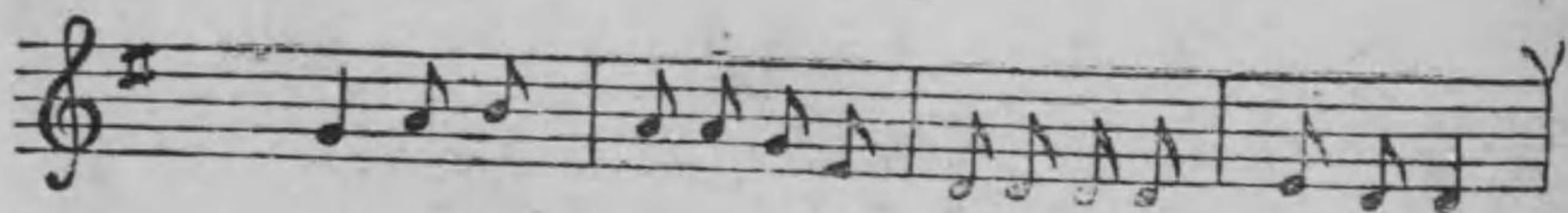
(尋一)



3. 2 1 5 | 3. 2 1 5 | 1. 2 3 4 | 2. 0

1. デテコイ デテコイ イケノコ ヒ

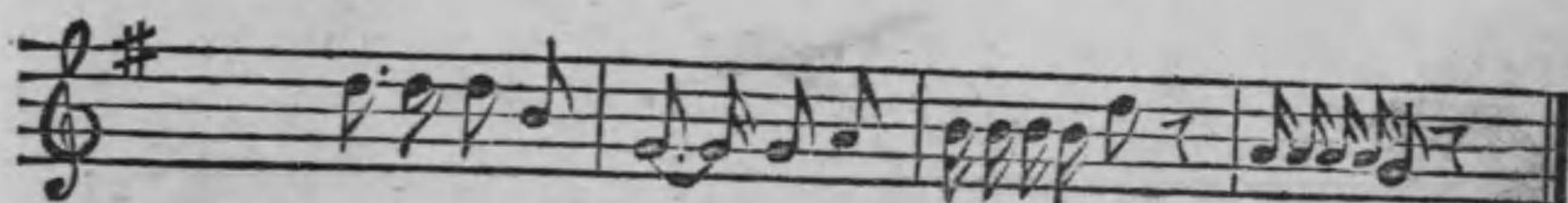
2. ててこい ててこい いけのこ ひ



1 2 3 | 2 2 1 6 | 5 5 5 5 | 6 5 5

ソコノ マツモノ シゲツタ ナカデ

さしの やなぎの しだれた かけへ



5. 5 5 3 | 1. 1 1 2 | 3 3 3 5 0 | 2 2 2 2 1 0

テノナル オートヲ キイタラコイ キイタラコイ

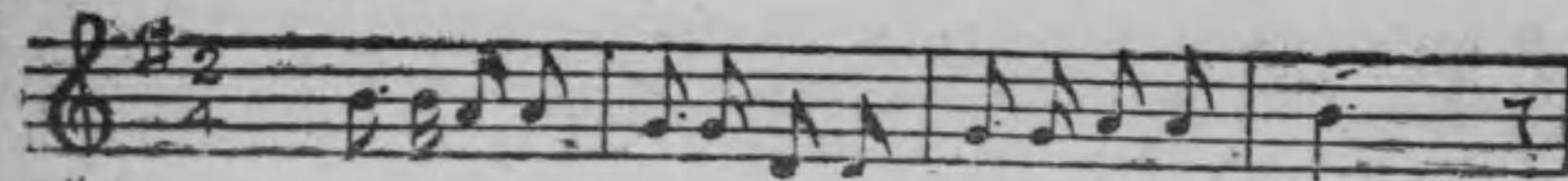
な一けた やきふが みえたらこい みえたらこい

(14)

ト調  
♩=92

# 牛若丸

(尋一)



3. 3 2 2 | 1. 1 5 5 | 1. 1 2 2 | 3 0

1. キヤフノ ゴデウノ ハシノウ ヘ  
 2. うしわか まるはー とびのい て  
 3. マーヘヤ ウシロヤ ミギヒダ リ



5 5 3 | 2. 2 2 1 | 3. 3 2 1 | 2. 0

ダイノ オトコノ ベンケイ ハ  
 もつた あふぎを なげつけ て  
 ココト オモヘバ マタアチ ラ



1 1 1 5 | 6. 6 6 5 | 1. 1 2 2 | 3. 0

ナーガイ ナギナタ フリアゲ テ  
 こいこい こーいと らんかんの  
 ツバメノ ヤウーナ ハヤワザ ニ



5. 5 5 3 | 2. 2 2 1 | 3. 3 2 2 | 1 0

ウシワカ メガケテ キリカカ ル  
 うーへに あがつて てをたた く  
 オーニノ ベンケイ アヤマツ タ

(15)

ニ調  
♩=112

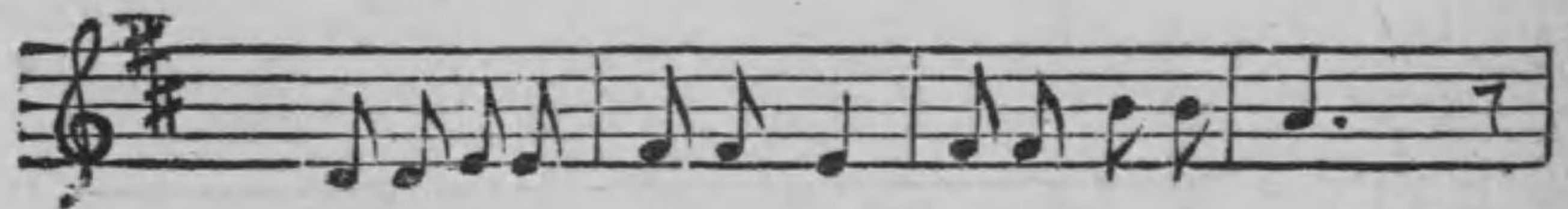
# 桃太郎

(尋一)



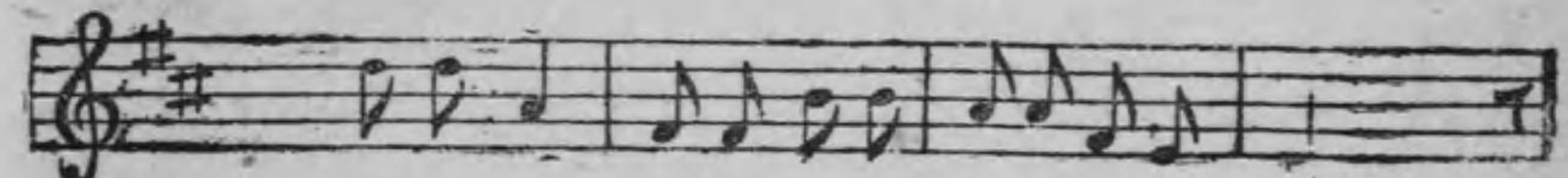
5. 6 | 5 5 3 | 5 5 3 1 | 2. 0

1. モ モ タラウサン モモタラウ サン  
 2. や り ませ う やりませ う  
 3. イ キ マセ ウ イキマセ ウ



1 1 2 2 | 3 3 2 | 3 3 6 6 | 5. 0

オコシニ ツケ タ キビダン ゴ  
 これから おに の せいばつ に  
 アナタニ ツイ テ ドコ マデ モ



i i 5 | 3 3 6 6 | 5 5 3 2 | 1. 0

ヒト ツ ワタシニ クダサイ ナ  
 ついて ゆくなら やりませ う  
 ケライニ ナツテー イキマセ ウ

四 そりや進め々々 一度に攻めて攻め破り  
 つぶしてしまへ鬼が鳥  
 五 おもしろいおもしろい 残らず鬼を攻めふせて  
 分捕物をえんやらや  
 六 萬々歳萬々歳 お伴の犬や猿雉子は  
 勇んで車をえんやらや

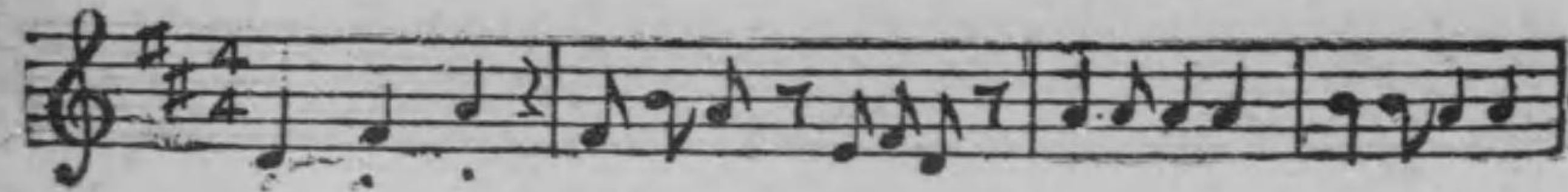


(16)

ニ 調

# 駈 つ こ

(尋 一)



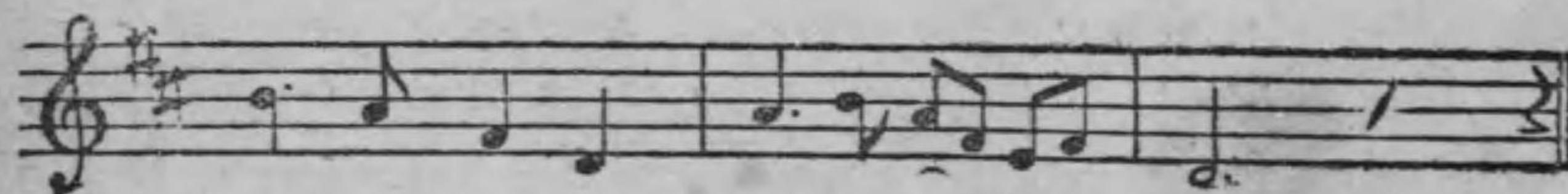
1̇ 3̇ 5̇ 0 | 3̇ 6̇ 5̇ 0 2̇ 3̇ 1̇ 0 | 5̇. 5̇. 5̇. 5̇. | 6̇. 6̇. 5̇. 5̇.

- 1. 一 二 三 ハシレ ハシレ ドチラモ マケズニ
- 2. 一 二 三 はしれ はしれ ちうとて おちては



6. 5. 6. 5. 6. 7. | 1̇. 2̇. 1̇. 7 5 - | 1. 2. 1. 6

- ゲンキ一ヲ一 フ一ル一へ ゲンキノ
- いくち一が一 な一い一ぞ いくちの



6. 5. 3. 1. | 5. 6. 5 3 2 3 | 1. - . 0

- ヨイノハ イチノ一カ一チ
- ないのは げのげ一の一げ

(17)

ト 調

# 菊 の 花

(尋 一)



3. 3. 2. 1. | 5. 5. 6. 5. 0 | 5. 5. 3. 1. | 2. 2. 3. 2. 0

- 1. ミゴトニ サイ一タ カキネノ コギ一ク
- 2. みごととに さい一た かきねの こぎ一く



1- 2 2 | 3. 3. 2. 1. | 2. 2. 3. 4. | 5. 5. 3. 0

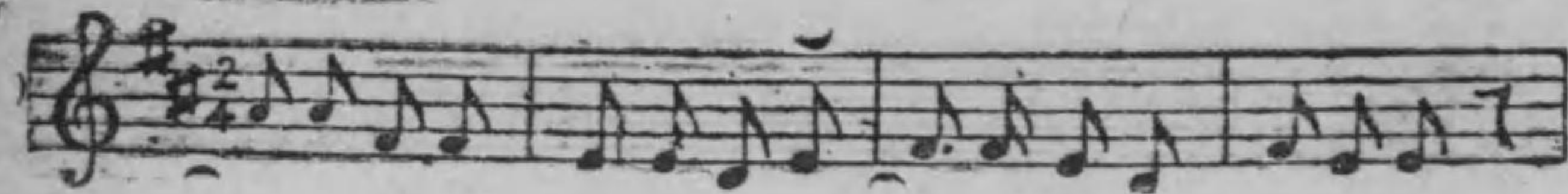
- ヒ ト ツ トリタイ キイロノ ハナヲ
- ひ と つ とりたい ましろの はなを



5. 5. 3. 1. | 2. 2. 3. 1. 5. | 1. 2. 3. 2. | 1. - . 0

- ヘイタイ アソ一ピノ クンシ一ウ ニ
- ままごと あそ一びの ごちそう に

# 木の葉 (第一)



5 5 3 3 | 2 2 1 2 | 3 3 2 1 | 3 2 2 0

- 1. ドコカラ キタノカ ドンデキタ キノハ
- 2. どこから きたのか どんてきた きのは



5 6 5 3 | 2 2 2 1 | 2 2 2 1 2 | 3 3 1 0

- クルクル マハツテ クモノスニ カカリ
- ひらひら まつてきて いけのうへに おちて



3 5 5 | 6 6 5 5 | 1 1 5 5 | 6 6 5 0

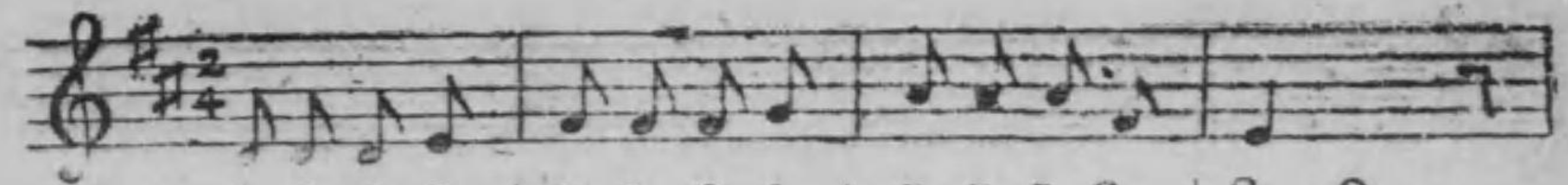
- カゼニ フカレテ ヒラヒラ スレバ
- なみに ゆられて ゆらゆら すれば



1 7 6 | 5 5 3 1 | 2 2 2 3 | 1 0

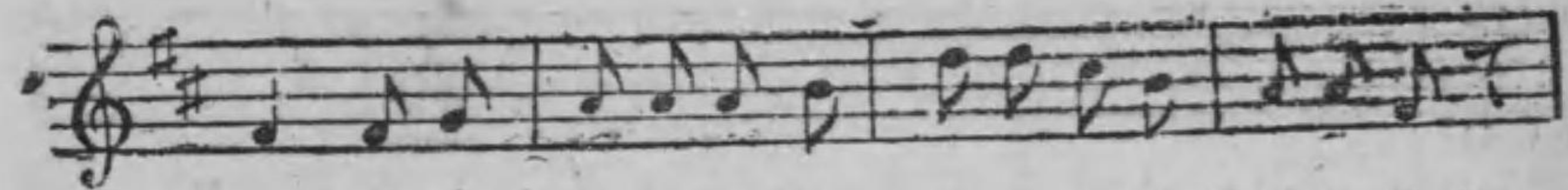
- クモハ ムシカト ヨツテク ル
- こひは 糸さかと ういてく る

# 兎 (第一)



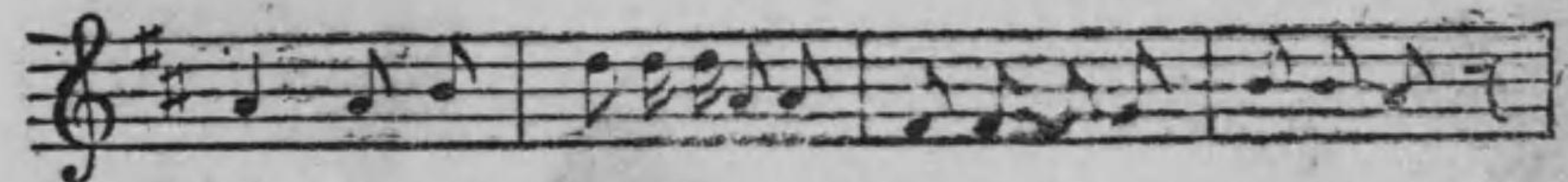
1 1 1 2 | 3 3 3 4 | 5 5 5 3 | 2. 0

- 1. ワタシハ ウサギト モウスモ ノ
- 2. げーいは これとて ないけれど



3 3 4 | 5 5 5 6 | 1 1 7 6 | 5 5 3 0

- カホヤ カラダノ チイナイ ワリニ
- まいあし みじかく あとあしながく



5 5 6 | 1 1 1 5 | 3 3 3 4 | 6 6 5 0

- ミミノ ナガイノガ ナニヨリ ジマン
- とんて はねるのが なにより じまん



1 1 5 5 | 6 6 5 3 | 2 3 3 2 | 1 0

- ミナサン ヨクミテ クダサイ ナ
- みなさん はやして ください な

(20)

ハ 調

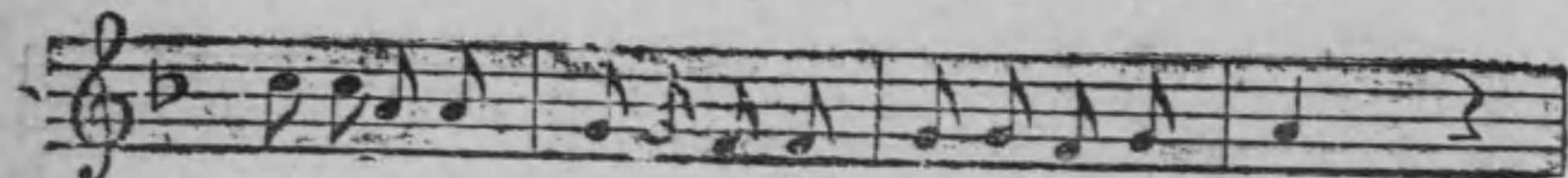
# 雀

(尋 一)



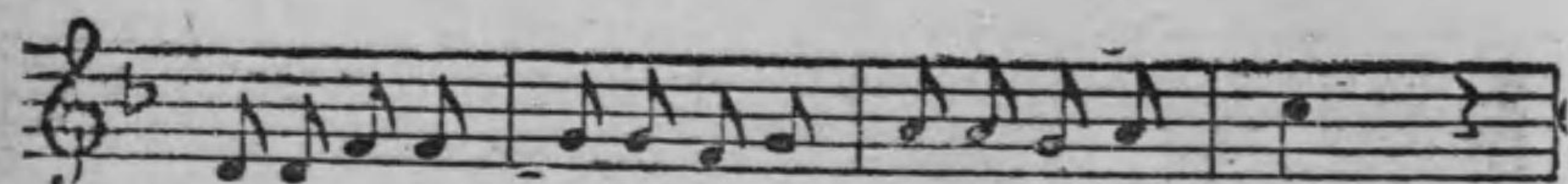
1 2 3 | 1 2 3 | 5 3 5 | 6 0

1. スズメ スズメ ケ、モ マ タ  
 2. いいえ みなさん あそこには



5 5 3 3 | 2 2 1 1 | 2 2 1 2 | 3 0

- クライー ミチヲー タバヒト リ  
 とうさま かあさま まつてゐ て



6 6 1 1 | 2 2 1 2 | 3 3 2 3 | 5 0

- ハマシノ オークノ タケヤブ ノ  
 たのしい おうちが あります る



6 6 6 5 | 6 6 5 1 | 3 3 2 2 | 1 0

- サビシイ オウチへ カヘルノ カ  
 さよなら みなさん ちゆうちゆう ちゆう

(21)

ニ 調  
♩=120

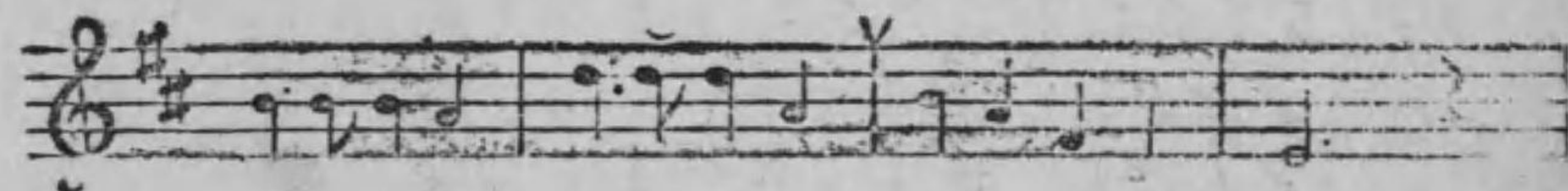
# 犬

(尋 一)



5- 5 3 | 2. 2 1 1 | 2. 2 3 3 | 5.- 0

1. ソ トヘ デルトキ トンデキ ラ  
 2. う ちへ かへると ををふつ て



6. 6 6 5 | i. i i 5 | 6 5 3 1 | 2.- 0

- オツテモ オツテモ ツイテク ル  
 たもとに すがつて られしが る



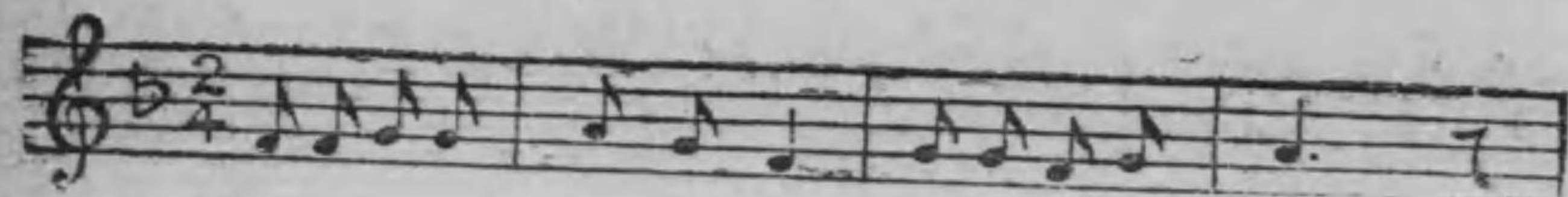
3. 2 1 0 | i. i 6 0 | 5 5 3 2 | 1.- 0

- ボチハ ホントニ カハイイ ナ  
 -----

へ 調  
愛ラシク

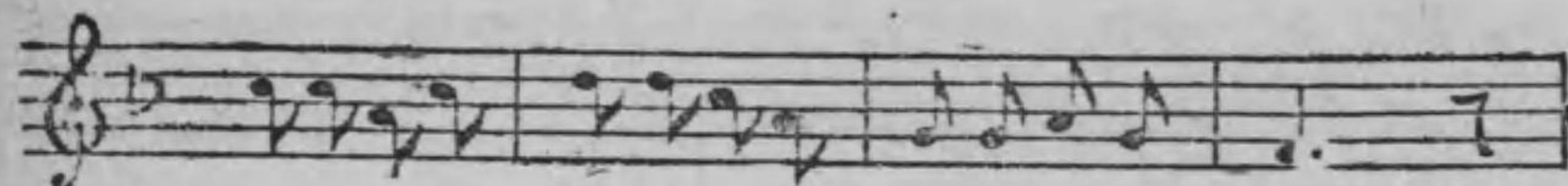
# ほちとたま

(尋 一)



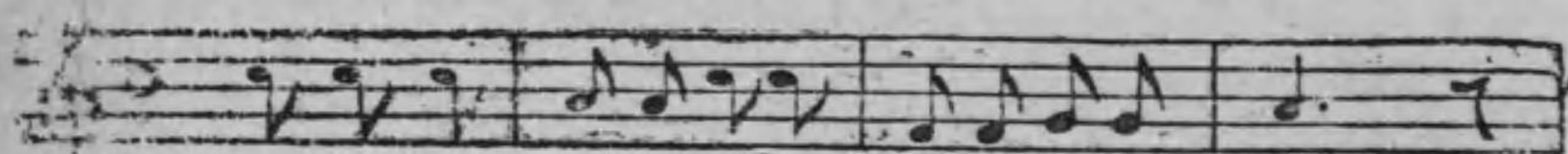
1 1 2 4 | 3 2 1 | 2 2 1 2 | 3. 0

- 1. コノコハ ポチト マウシマ ス
- 2. このこは たまと まうしま す



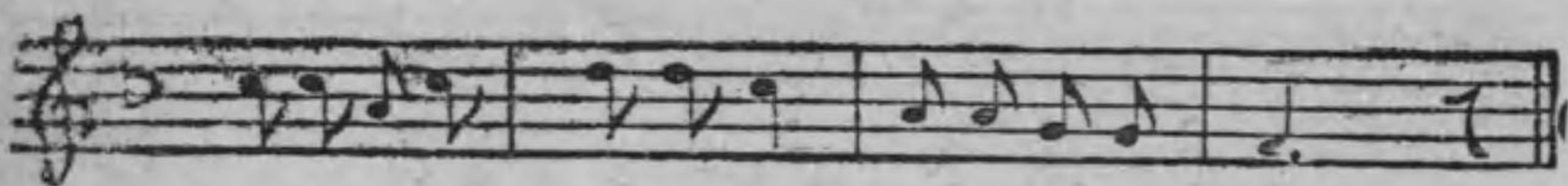
5 5 3 5 | 6 6 5 3 | 2 2 3 2 | 1. 0

- チンチン オアヅケ ミナジウ ズ
- まいにち げんきに あそびま す



5 5 5 | 3 3 5 5 | 1 1 2 2 | 3. 0

- イ マ ニ オ ト ナ ニ ナ ツ タ ナ ラ
- — — — — — — — — —



5 5 3 5 | 6 6 5 | 3 3 2 2 | 1. 0

- ゴモンノ バンヲ ヨクシマ セウ
- ねずみの ばんを よくしま せう

ト 調 快活ニ  
♩=120

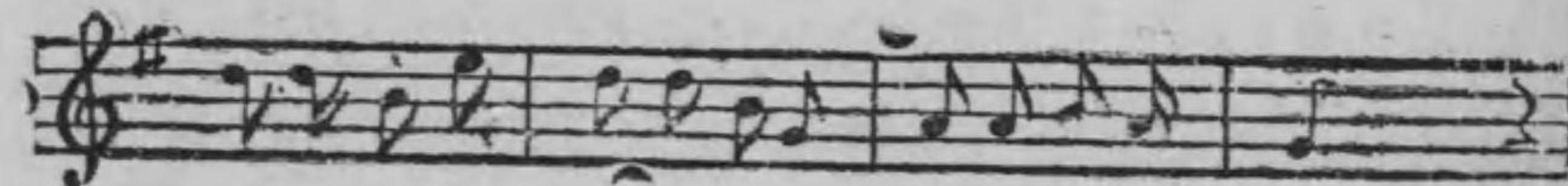
# 雪 達 磨

(尋 一)



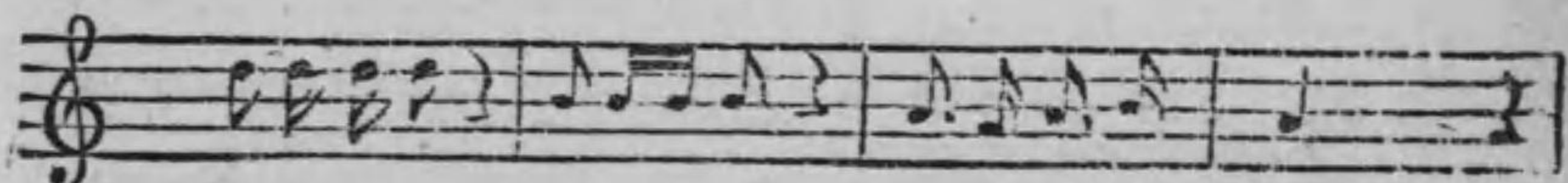
5. 5 1 1 | 3. 2 1 2 | 3. 2 3 4 | 5 0

- 1. ヲヲフリ ウゴカシ コイヌマ デ
- 2. たどんの まなこは まんまろ く



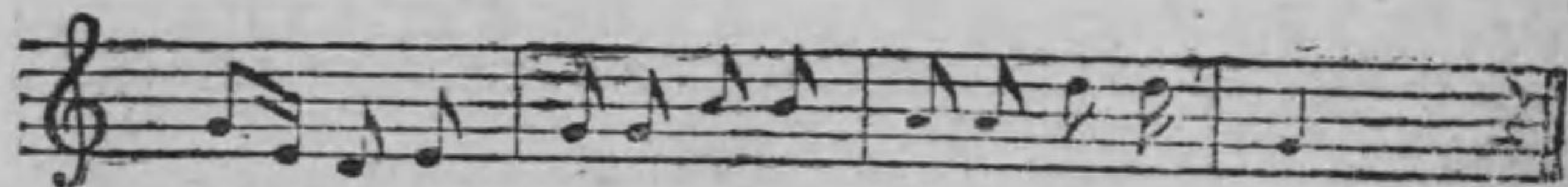
5. 5 3 6 | 5 5 3 1 | 3 2 3. 2 | 1 0

- ヨロコビ イサメル ケサノユ キ
- たきぎの くちびる へのじな り



5 5 5 5 0 | 3 3 3 3 0 | 2. 1 2. 3 | 2 0

- コヨコヨ イザコヨ ミナトモ ニ
- みよみよ あれみよ いざとも に



1. 6 5 6 | 1 1 3 3 | 2 2 5. 5 | 1 0

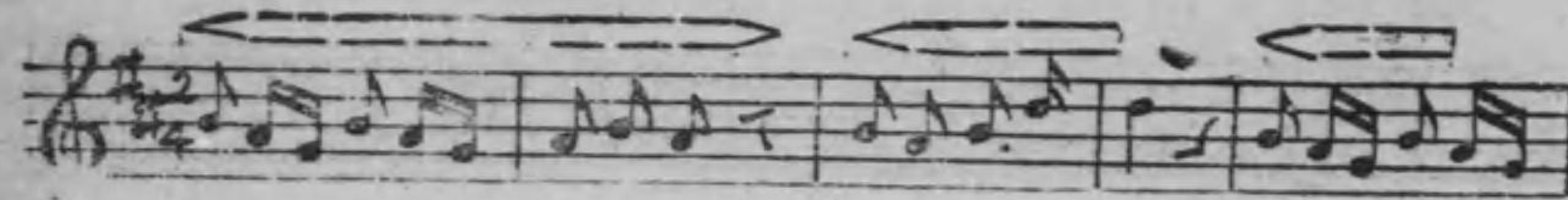
- ノキバニ ツクラン オホダル マ
- おどろく ばかりの おほたる ま

(24)

ト調

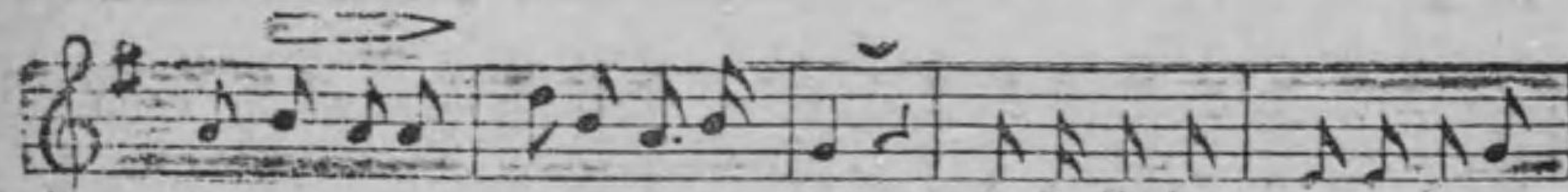
# 鬼とつこ

(尋一)



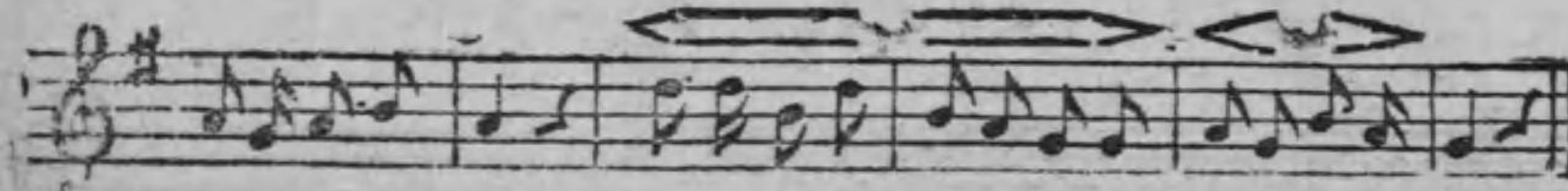
3 21 3 21 | 2 3 2 0 | 3 2 3 5 | 5 0 | 3 21 3 21

ソレ—ソレ— オニガ オヒカケ ル イソ—イデー  
さあ—さあ— にげろ おひかけ よう にげ—るが—



2 3 2 2 | 5 3 2. 3 | 1 0 | 5. 5 5 5 | 6 6 5 1

ココヘ— キタマヘ ナ ココヘハ オニデモ  
はやいか またぼくの おふのが はやいか



2. 1 2 3 | 2 0 | 5. 5 3 5 | 3 2 1 1 | 2 1 3. 2 | 1 0

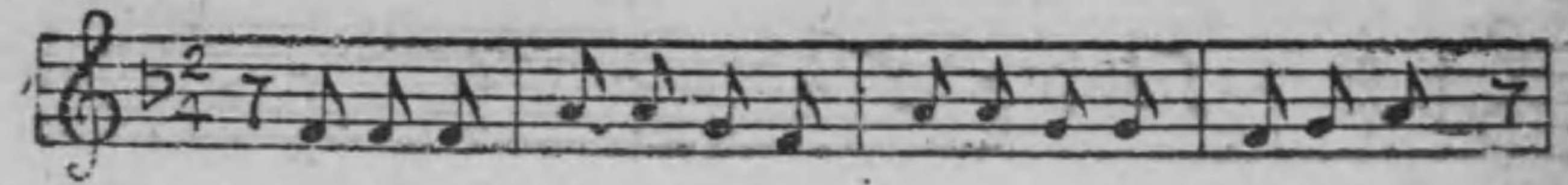
キツネデ モ コラレハ シナイ— ボクガキ ル  
こころみ に ひとあし にげて— みたまへ な

(25)

♩調  
♩=100

# おきやがりこほし

(尋一)



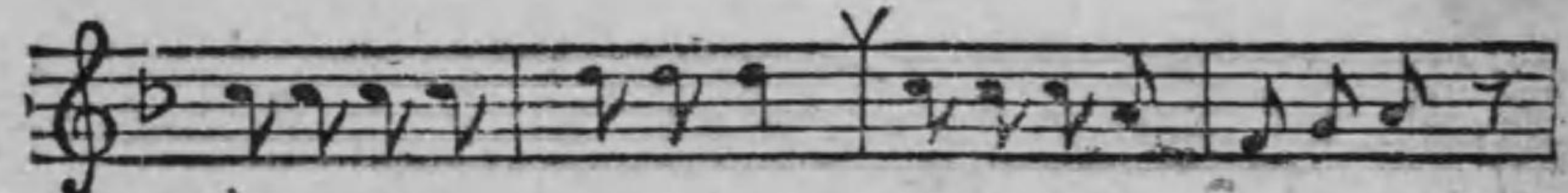
0 1 1 1 | 3 3 2 1 | 3 3 2 2 | 1 2 3 0

1. ハフリ ダサレテ コロコロ コロビ  
2. いくど ながても いつても おきる



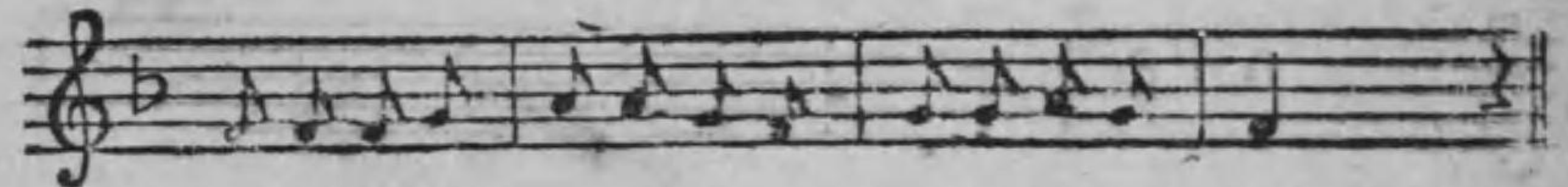
0 5 5 3 | 2 2 2 1 | 2 5 5 | 3 2 1 0

カラダ ユスツテ ムツクト オキテ  
— — — — — — — — — —



5 5 5 5 | 6 6 6 | 5 5 5 3 | 1 2 3 0

アチラヲ ムイテ ダマツテ スワル  
こちらを むいて ひとをば いらむ



1 1 1 2 | 3 3 2 1 | 2 2 3 2 | 1 0

オキヤガリ コボシハ オモシロ イ  
----- をかしい な

調 J=112

# 紙鳶の歌

(第一)



	5	3 4	5	3 4	5.	6	5	0
1.	タ	コ	タ	コ	ア	ガ	レ	
2.	ス	ダ	コ	ニ	ジ	ダ	レ	
3.	ア	レ	ア	レ	サ	ガ	ル	



6.	6	5	3	2.	3	1	0
カ	ゼ	ヨ	ク	ウ	ケ	テ	
ド	チ	ラ	モ	ウ	ケ	ザ	
ヒ	ケ	ヒ	ケ	イ	ト	ヲ	



	5	3 4	5	3 4	5.	6	5	0
ク	モ	マ	デ	ア	ガ	レ		
ク	モ	マ	テ	ア	ガ	レ		
ア	レ	ア	レ	サ	ガ	ル		



6.	6	5	3	2.	3	1	0
テ	ン	マ	デ	ア	ガ	レ	
テ	ン	マ	テ	ア	ガ	レ	
ハ	ナ	ス	ナ	イ	ト	ヲ	

# 欠

# 欠

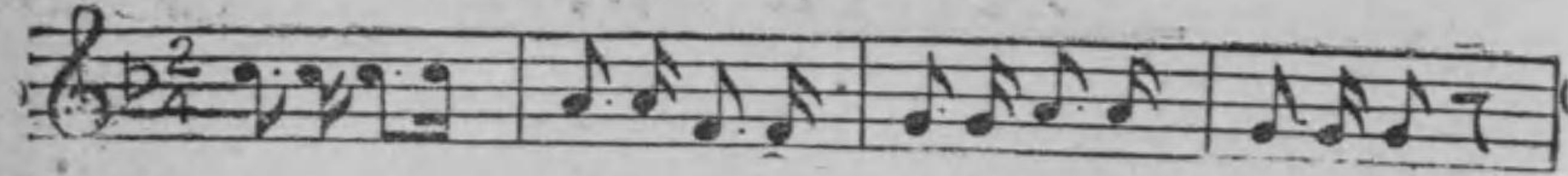
(29)

## 大江山

(苜二)

1. むかし丹波の大江山 鬼共多くこもり居て  
都に出ては人を食ひ 金銀財寶ぬすみ行く
2. 源氏の大將頼光は 時の帝のみことのり  
お受け申して鬼退治 勢よくも出掛けたり
3. けらいは名高き四天皇 山伏姿に身をやつし  
けはしき山や深き谷 道なき道をきり開き
4. 大江山に来て見れば 酒頭童子が頭にて  
青鬼赤鬼手下ばら 舞へよ歌への大騒ぎ
5. かねて用意の毒の酒 すすめて鬼をよいつぶし  
おひの中よりとり出す 鎧兜に身をかため
6. 驚きまどふやつ原を ひとり残らず斬り殺し  
酒頭童子の首を斬り めてたく都にかへりけり

# 小さき兵士 (尋二)



5. 5 5. 5 | 3. 3 1. 1 | 2. 2 3. 3 | 2. 2 2 0  
 1. ツツヲニ ニナヒテ キョーレツ タテテ  
 2. こえたる うまにー うちまた がりて



1. 2 1. 2 | 3. 3 3. 3 | 5. 3. 2. 3 | 1. 0  
 ヲヲシク ススムー ヲガホヘー イ  
 ををし すすむー わがきへ い



2. 2 1. 2 | 2. 3 3 0 | 3. 3 2. 3 | 5. 5 5. 0  
 ヒトタビ クニニ コトアル トキハ  
 いかほど かたき てきじん とでも



6 6 6 | 5. 6 5. 5 | 3. 5 3. 2 | 1. 0  
 テキヲ ヤブリテ シリソケ ン  
 つくに やぶれぬ ことやあ る



3. 2 3. 1 | 2. 2 2 0 | 5. 5 3. 5 | 6. 6 6 0  
 イザイザ ヲレラ チイサキ へイシ  
 いざいざ われら ちいさき へいし



5. 5 6. 5 | 3. 3 5 | 3. 3 2. 1 | 5  
 ススメヤ カミノ ハタタテ テ  
 すすめや かみの はたたて て

# 小さき兵士

一 { つつをになひて行列立てて ををしすすむわが歩兵  
 ひとたびくりに事ある時は てきをやぶりてしりぞけん  
 いざいざわれら小さき兵士 すすめやかみの旗立てて

二 { こえたる馬に打またがりて ををしすすむわが騎兵  
 いかほどかたき敵陣とても つくにやぶれぬ事やある  
 いざいざわれら小さき兵士 すすめやかみの旗立てて

三 { とりても城もただ一うちに うちてのりとる砲兵は  
 いざいざわれら小さき兵士 てきを千里にはらうらん  
 いざいざわれら小さき兵士 すすめや紙の旗立てて

四 { よるさえねひらず岩をきづき あだにそなふる工兵は  
 地中にみちを堀りつつ進み てきの砲臺こぼつらん  
 いざいざわれら小さき兵士 進めや紙の旗立てて

五 { だんがんはこび兵糧送くり 戦地にひかふ輜重兵  
 我せんしょうの勳をわから ともにがいかを歌ふらん  
 いざいざわれら小さき兵士 進めや紙の旗立てて



(32)

へ調  
♩=132

# 雲雀



3 2 3.2 | 3 2 1 | 3 5 5 3 | 1 2 3-

1. ビイビイ ビイト サヘヅル ヒバリ  
2. -----



1 3 3 2 | 1 1 5 | 1.7 1 2 | 3 3 2-

サヘヅリ ナガラ ドコマデ アガル  
さへずり やんで どこらへ おちた



3 6 5 - | 2 5 3 - | 6 5 3 - | 2 3 1 -

タカイ タカイ クモノ ウーカ  
あをい あをい むぎの なかか



3.2 3 4 | 5 5 3 1 | 3.3 2 1 | 2 3 1 -

コーエハ キコヘテ ミエナイ ヒバリ  
すーがた かくれて みえない ひばり

(33)

ニ調  
♩=112

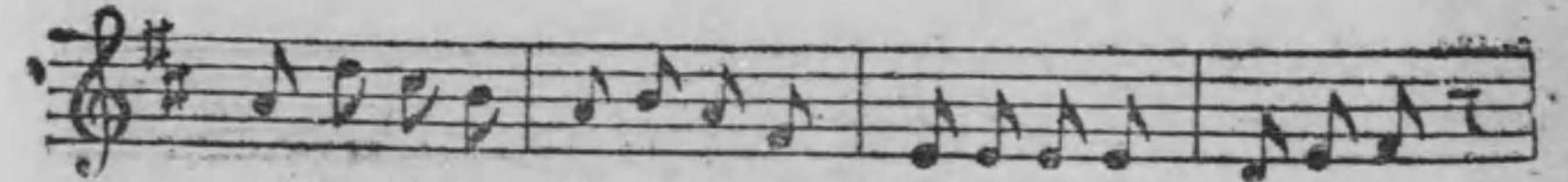
# とらま

(尋二)



5 0 1 0 | 5 0 1 0 | 3 6 5 3 | 2 5 5 0

1. ハイ シイ <sup>ハイ</sup> シイ アユメヨ コウマ  
2. ば ば <sup>ば</sup> ば <sup>ば</sup> はしれよ こらま



5 i 7 6 | 5 6 5 3 | 2 2 2 2 | 1 2 3 0

ヤマデモ サカデモ ズンズン アユメ  
けれども いそいで つまづく まいぞ



2 2 2 2 | 1 2 3 4 | 5 i 7 6 | 5 6 5 0

オマヘガ ススメバ ワタシモ ススム  
おまへが ころべば わたしも ころぶ



5 i 7 6 | 5 6 5 3 | 2 2 2 2 | 3 2 1 0

アユメヨ アユメヨ アシオト タカク  
はしれよ はしれよ こらばぬ やらに

ヘ 調  
♩=104  
愛ラシク

# 螢の子

(第 二)



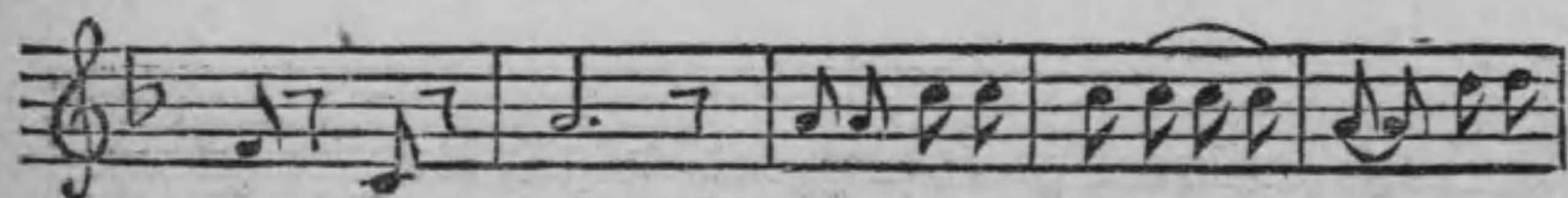
5 5 5 5 | 1 1 1 1 | 3 2 1 2 | 3 0

ホシカラ ウマレタ ホタルノ コ



3 3 5 5 | 3 3 1 1 | 6 6 2 2 | 5 0

テフチン トモシテ タンボミ チ



1 0 5 0 | 3 0 | 3 3 5 5 | 5 5 5 5 | 3 3 6 6

ピカリピカリ ピカリ ソツチノ ミヅハー ニーガイ



5 0 | 3 3 5 5 | 3 3 1 1 | 6 6 2 2 | 1 0

ソ コツチノ ミヅハー アーマイ ソ

ト 調  
♩=80

# 蛙とくも

(第 二)



1. 1 1 1 6 | 6 5 5 1 | 2 3 1 2 | 3 3 2

1. シーダレ ナナギニ トビツク カヘル

2. かぜふく こえだに すをはる こぐも



3. 3 3 5 5 | 2 1 | 2. 1 2 3 | 2 5

トンドハ オチ オチテハ トビ

はつては きれ きれは はり



5 5 3 2 | 3 3 2 1 | 2. 2 5 5 | 3 3 2

オチテモ オチテモ マタトブ ホドニ

きれても きれても またはる ほどに



1. 1 1 7 6 | 5. 1 1 2 | 3. 3 2 2 | 1 0

トウトウ ヤナギニ トビツイ タ

とうとう こえだに すをはつ た

蟬

(尋 二)



5̣ 5̣ 1.5 | 6 6 5 - | 3 3 3 2 1 2 | 3 - 0

1. コズエノ ハナハ— ミナチリハテ テ  
2. なつをや すみを— よろこぶやう に



5̣ 5̣ 1.5 | 6 6 5 - | 6. 6 2̣ | i - 0

ニハニア フバノ— シゲルコ ロ  
あちらの まだて— みんなみんな みんな



2̣ 2̣ i 2̣ | 6 i 6 5 3 | 2 1 2 3 5 3 | 2 - 0

ツーチノ ナカ—ヨリ ハ—ヒ—ダシ テ  
こちらの はか—げて じいじいじい じい

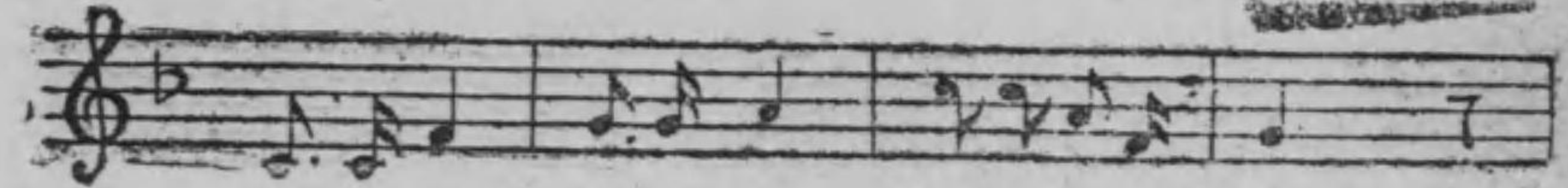


3 3 5 3 | 5 3 5 6 5 | 6. 5 6 1 | 2̣ i i 0

ナーツガ キターズト ウタフハ セミヨ  
かなかな かな—かな つくつく ほ—し

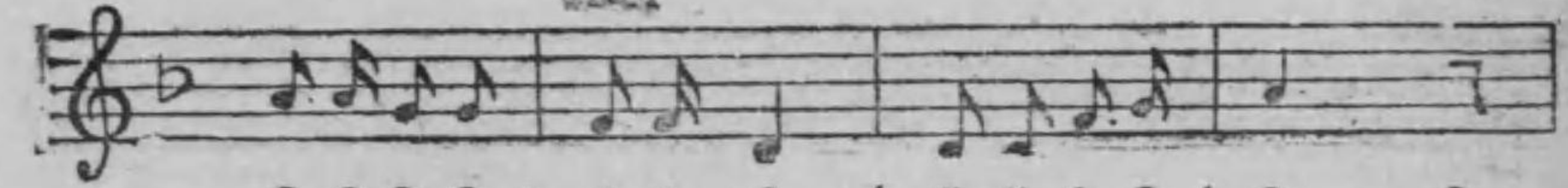
浦島太郎

(尋 二)



5. 5 1 | 2. 2 3 | 5 5 3. 1 | 2 0

1. ム カ シ ム カ シ ウ ラ シ マ ハ  
2. お と ひめ さ ま の ち そ う に  
3. ア ソ ビニ ア キ テ こ が ツ イ テ  
4. か へ つて み れ ば こ は い か に  
5. コ コ ロ ボ ソ サニ フ タ ト レ バ



3. 3 2 2 | 1. 1 6 | 5 5 1. 2 | 3 0

タ ス ひ タ カ メ ニ ウ レ ラ レ テリ  
オ イ ト ヤ ゴー め の ソ コ ソ コ ニ  
も と ゐ た い へ も む ら も な く  
ア ケ テ ク ヤ シ キ タ マ テ バ コ



3. 4 5 6 | 5. 5 3 | 2 2 3. 1 | 2 0

リ ユ ウ グ ウ ジ ヤ ウ へ キ テ ミ レ バ  
た だ め め ら し く お も し ろ く  
カ ー へ ル ト チ ウ ノ タ ノ シ ミ ハ  
み ー ち に ゆ き あ ふ ひ と び と は  
ナ カ カ ラ パ ッ ト シ ロ ケ ム リ



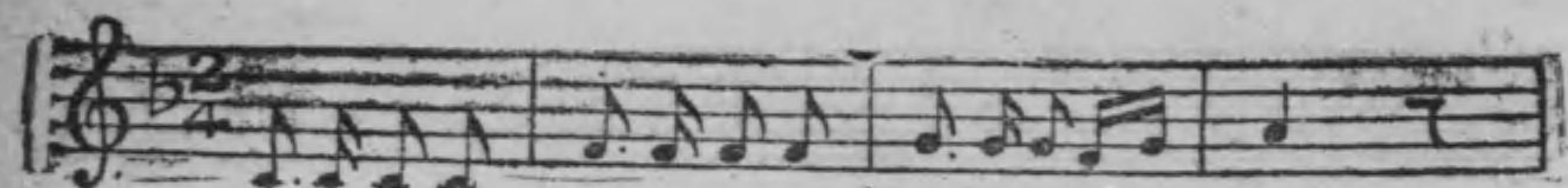
5. 5 3 2 | 1. 1 6 6 | 0 1 3. 2 | 1 0

エ ニ モ カ ケ ナ イ ウ ツ ク シ サ  
ツ き ひ の た つ も ー ゆ め の ら ち  
ミ ヤ ゲ の ニ た つ も ー タ マ の テ ー バ コ  
か ー ほ も し ら な ー も の ば ー か リ  
チ マ テ タ ラ ウ ハ オ デ イ サ ン

♩=80 調

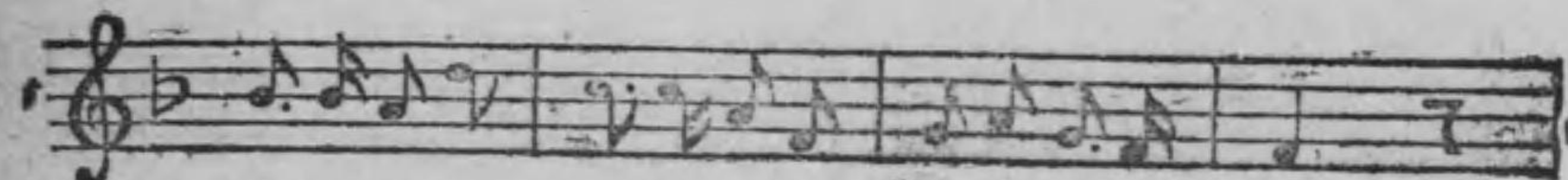
# かみなり

(尋二)



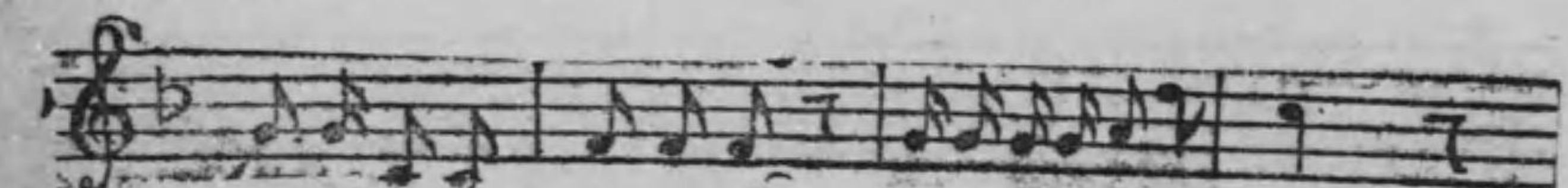
5.5 5 5 | 1.1 1 1 | 2.2 2 1 2 | 3 0

1. オホゾラ イチメン カキクモー リ  
2. たらうーは はだかて はらづつー み



4.4 3 6 | 5.5 3 1 | 2 3 2.1 | 1 0

ソロソロ フキダス ミナミカ ゼ  
こはくは ないぞと いふうち に



2. 2 5 5 | 1 1 1 0 | 2 2 2 2 3 6 | 5 0

ユフダチ クルゾ カミナリナル ズ  
ごろごろ びかり びかびかごろ り



6.5 4 3 | 4.3 2 1 | 2 3 2.5 | 1 0

ホシモノ イレヨト オホサワ ギ  
あへそを あさへて にげこん だ

ト 調

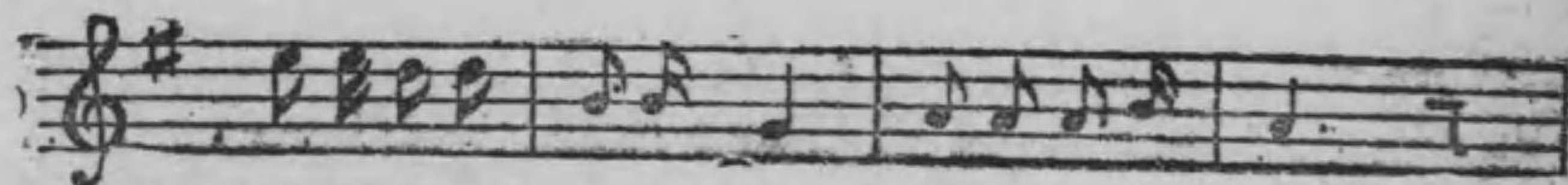
# 飛行機の夢

(尋二)



1.1 5 | 1.1 3 3 | 2 2 1.3 | 5. 0

1. ボクガ ツクツタ ヒカウキ ノ  
2. とくしよ さんじゆつ たいそら と



6.6 5 5 | 3.3 1 | 2 2 2.3 | 2. 0

ハンドル トツ テ マヒアガ リ  
なんでも かう を もらつた ら



5.5 5 5 | 3.3 1 1 | 3 3 2.1 | 6. 0

ニッポン コクヂウ トンデミ タ  
このこは よいこと ほめられ た



5. 6 5 | 1.1 3 3 | 2 2 5 6 7 | 1. 0

コレハ ユフベノ ユメデソー ロ  
こ れは ほんとの こととそー る

調  
♩=112

# 案山子

(尋二)



1. 2 3 3 | 2. 1 2 3 | 5 5 6 6 5 5 3 | 1 2 3 0

1. ヤマダノ ナーカノ イツボンアシノ カカシ  
2. やまだの なーかの いつぼんあしの かかし



1. 2 3 3 | 2. 1 2 3 | 5. 5 3 1 | 2 3 1 0

テンキノ ヨイノニ ミノカサ ツケテ  
ゆみやて おどして りきんて をれど



6. 6 5 5 | 1. 2 3 3 | 5. 5 5 6 | 5 3 2 0

アサカラ バンマデ タダタチ ドホシ  
やまては からすが かあかと わらふ



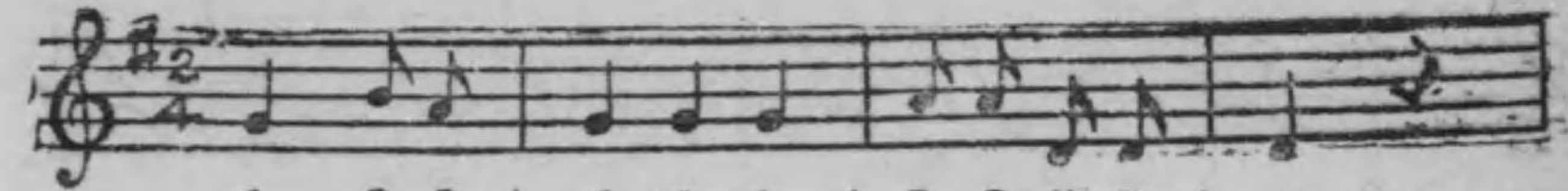
5. 6 5 6 | 5. 3 1 1 | 2. 2 3 4 | 5 5 1 0

アールケ ナイノカ ヤマダノ カカシ  
みーみが ないのか やまだの かかし

ト調

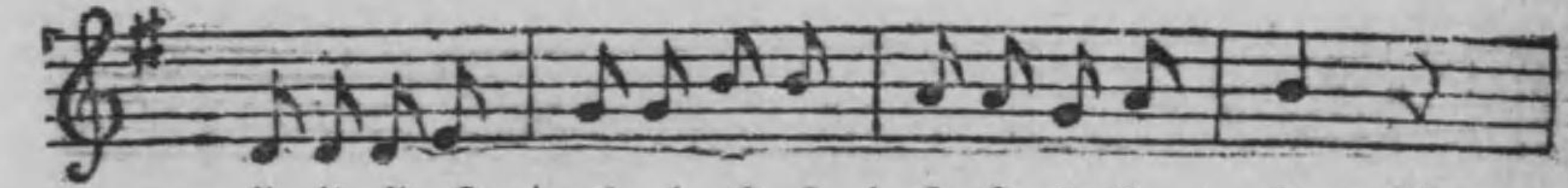
# 月見餅

(尋二)



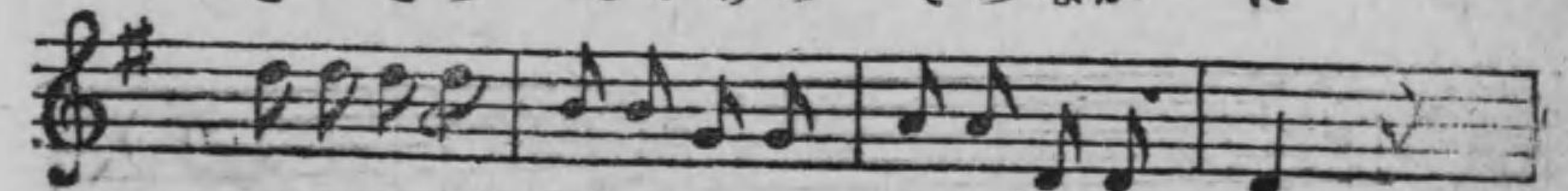
1 3 2 | 1 1 1 | 2 2 5 5 | 5 0

1. オ ツキ サマノ ソノナカ ニ  
2. こよいは 八月 十 五 日  
3. オ ツキ サマカラ モチガフ ル  
4. ひかうの まつの そのかけ や



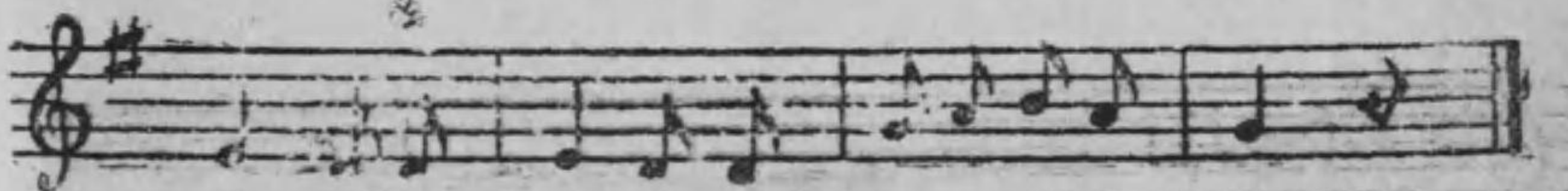
5 5 5 6 | 1 1 3 3 | 2 2 1 2 | 3 0

ウサギガ イツビキ ピョトキ ル  
うさぎも せつせと せをだし て  
フレフレ フレフレ ツキミモ チ  
ここの おいけの そのなか に



5 5 5 5 | 3 1 1 | 2 2 5 5 | 5 0

ソノマダ ウサギガ キネモツ テ  
ついたは ついたは もちたん と  
ボウヤモ チャウヤモ ソレヒロ イ  
ばらばら ばらばら ばらばら ばら



6 5 5 | 6 5 5 | 1 2 3 2 | 1 0

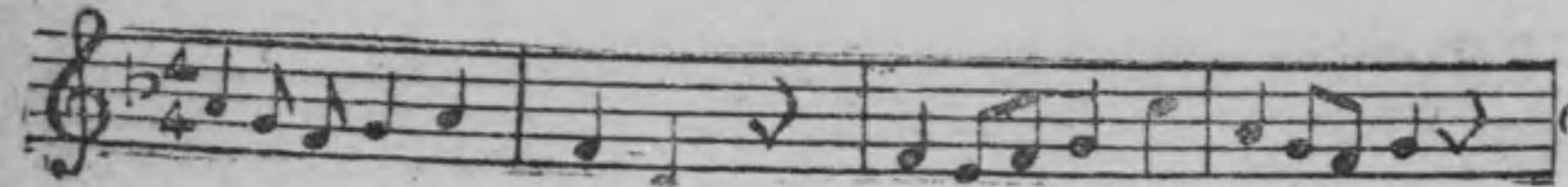
ボンポコ ボンポコ モチヲツ ク  
それを せかいに どつとま く  
ヒロヘヤ ヒロヘヤ ソレヒロ へ  
いさんて ひろへや みなひろ へ

(42)

調  
♩=92

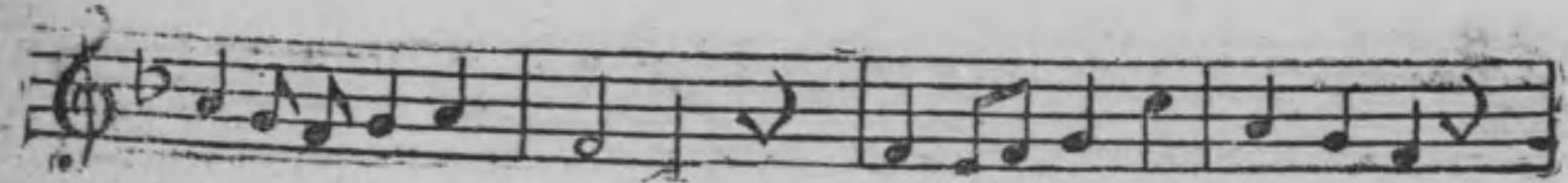
# 紅葉

(尋 二)



3 2 1 2 3 | 1-5 0 | 1 7 1 2 5 | 3 2 1 2 0

1. アキノユー ヒニ テル-ヤマ モミーヂ  
2. たにのなが れに ちり-うく もみ-ぢ



3 2 1 2 3 | 1-5 0 | 1 7 1 2 5 | 3 2 1 0

コイモウス イモ カズ-アル ナカニ  
なみにゆら れて はな-れて よつて



5 3 4 5 6 | 5-3 0 | 5 6 5 3 2 1 | 2 3 2 0

マツヲイロ ドル カヘ-デヤ- ツタハ  
あかやきい ろの いろ-さま- さまに



5 6 5 3 2 | 1-5 0 | 1 7 1 3 2 | 1- 0

ヤマノフモ トノ スソ-モヤ ウ  
みづのうへ にも おる-にし き

(43)

調  
♩=96

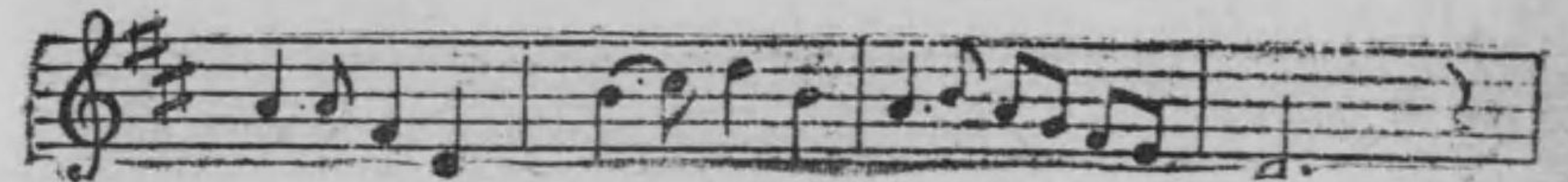
# ふじの山

(尋 二)



5.5 6 5 | 3 1 2 3 | 2.5 5 4 3 | 2- 0

1. アタマヲ クモ-ノ ウヘニダ- シ  
2. あをぞら たか-く そびへた- ち



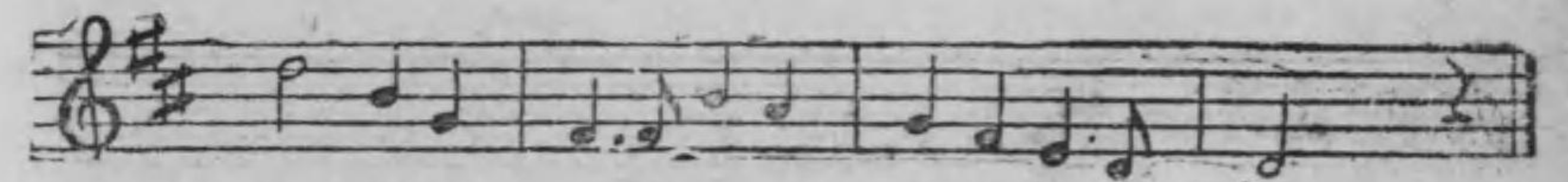
5.5 3 1 | 6.7 i 6 | 5.6 5 4 3 2 | 1- 0

シハウノ ヤ-マヲ ミヲロ-シ- テ  
からだに ゆ-きの きもの-き- て



2.2 2 2 | 1 2 3 4 5 | 6.7 i 6 | 5- 0

カミナリ サ-マーヲ シタニキ ク  
かすみの す-そ-を とほくし く



i-6 4 | 3.3 6 5 | 4 3 2.1 | 1- 0

フ-ジハ ニツボン イチノヤ マ  
ふ-じは につぽん いちのや ま



(46)

調  
♩=92

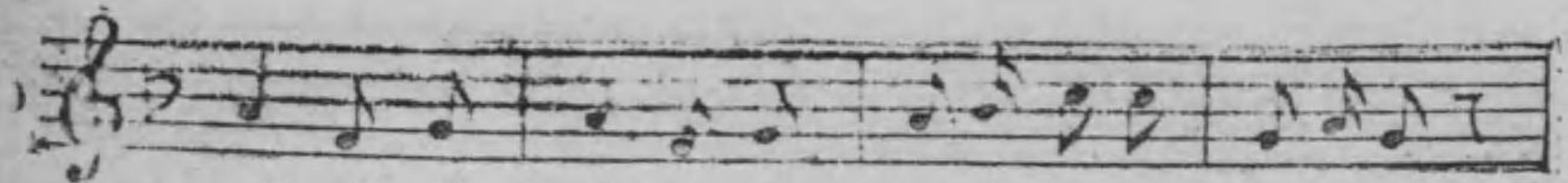
# 雪

(尋 二)



5.6 5.6 | 5 3 0 | 3.4 3.4 | 3 1 0

- 1. ユーキヤ コンコ アラレヤ コンコ
- 2. ゆーきや こんこ あられや こんこ



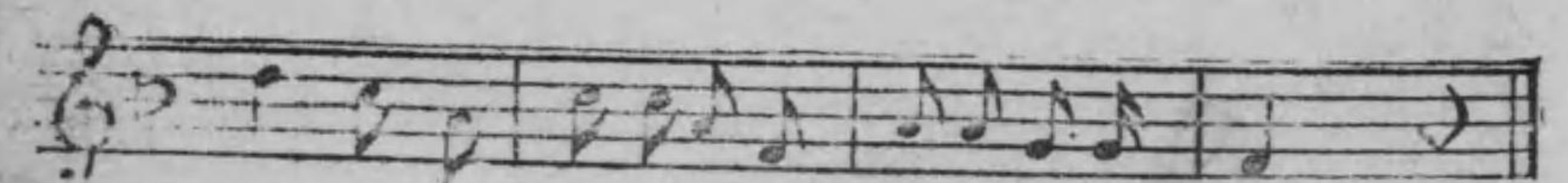
3 1 2 | 3 1 2 | 3.4 5 5 | 2.3 2 0

- フツテハ フツテハ ズンズン ツモル
- ふつても ふつても まだふり やまぬ



5.6 5.6 | 5 5 3 3 | 3.4 3.4 | 3 3 1 0

- ヤーマモ ノハラモ ワタバウシ カブリ
- いぬは よろこび にはかけ まはり



6 5 3 | 5 5 3 1 | 3 3 2 2 | 1 0

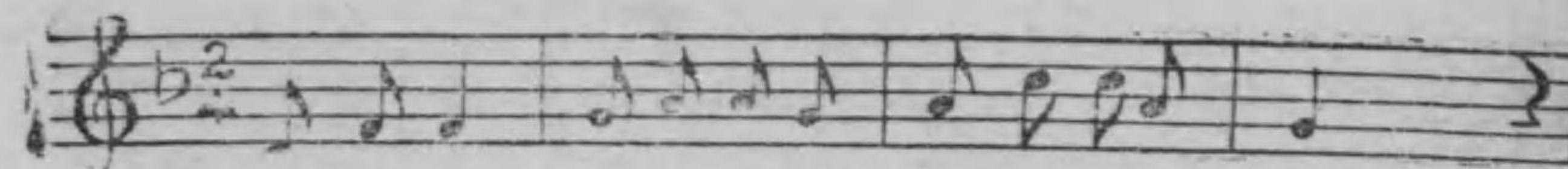
- カレキ ノコラズ ハナガサ ク
- ねこは こたつて まるくな る

(47)

調  
♩=104

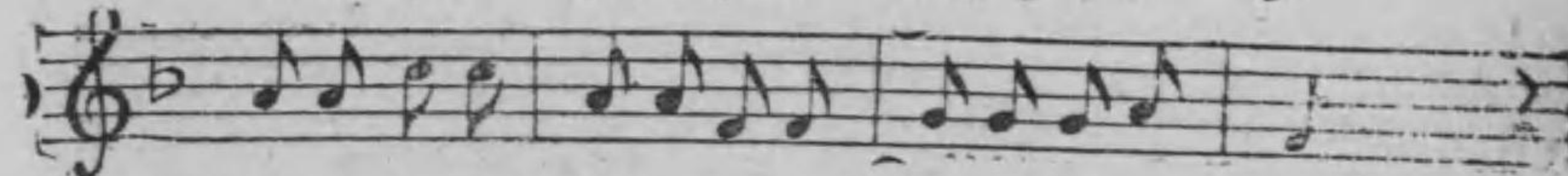
# 笛と太鼓

(尋 二)



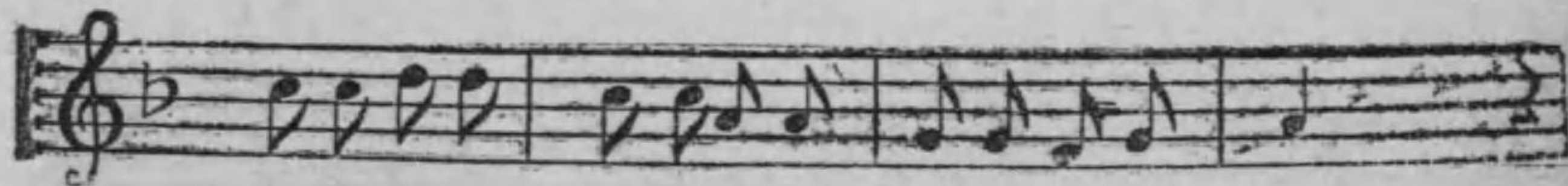
5 1 1 | 2 3 3 2 | 3 5 5 3 | 2 0

- 1. ケフハ ウレシイ ニチヨー ビ
- 2. けふは めてたい おひはひ び
- 3. ケフハ メデタイ オマツリ ビ
- 4. けふは わたしの たんじやう び



3 3 5 5 | 3 3 1 1 | 2 2 2 3 | 1 0

- ミンナデ ナカヨク アソバウ ヨ
- 
- 
- 



5 5 6 6 | 5 5 3 3 | 2 2 1 2 | 3 0

- オタイコ タタイテ フェファイ テ
- 
- 
- 



5 6 | 3 5 | 2 2 3 | 1 0

- ピーピー ドン ドン ビー ドン ドン
- 
- 
-



〜 調

# 兔の餅つき

(尋 二)



3.3 2 2 | 1.1 5 | 1.7 1 2 | 3. 0

1. ユフベノ ユメハ オモシロ イ  
2. だいふく もちの つきたて を



5 5 3 | 2.2 2 1 | 5.5 5 6 | 5. 0

ツキノ セカイニ イツタレ バ  
あとは おうちの おみやげ と



1.2 3 6 | 5.55 2 0 | 4.4 3 1 | 2. 0

ネヂハチ マーキノ シロウサギ  
くーれた おゆうばこ えんやら と



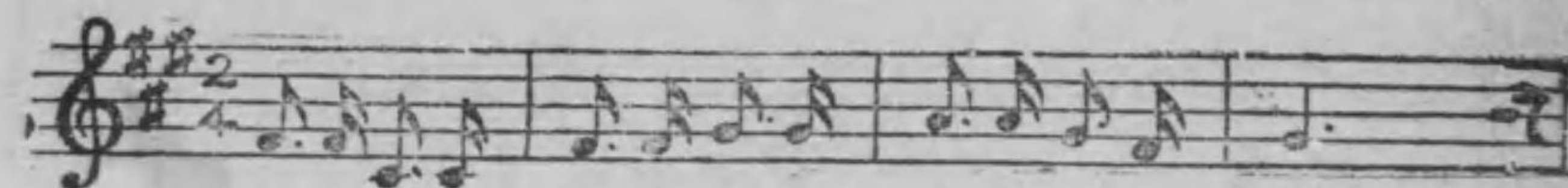
1.2 3 0 | 6 6 6 5 0 | 3.3 2 2 | 1 0

モチヲ ベツタンコト ツイテイ タ  
かつぐ ひやしに めがさめ た

櫻へ短

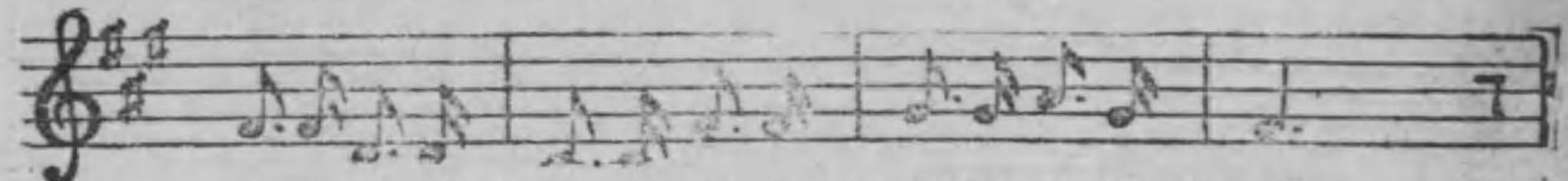
# 大黒様

(尋 二)



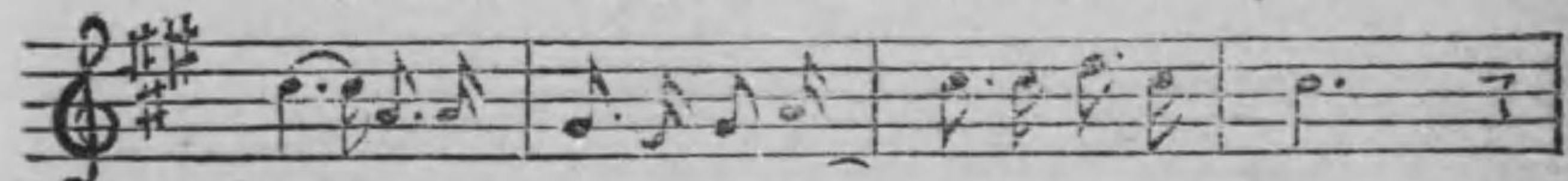
6.6 3,3 | 6.6 7.7 | 1.1 7.6 | 7. 0

1. オホキナ フクロヲ カタニカ ケリ  
2. だいきく さまはー あはれが り  
3. ダイコク サマノー イフトホ リ  
4. だいきく さまはー だれだら う



6.6 4.4 | 3 3 6 6 | 7.7 1.7 | 6 0

ダイコク サマガー キカカル ト  
きれいな みづにー みをあら ひ  
キレいな ミヅニー ミヲアラ ヒ  
おほくに ぬしのー みことと て



3.3 1.1 | 7.6 7.1 | 3.3 4.4 | 3. 0

コーゴニ イナバノ シロウサギ  
がーまの ほわたに くるまれ と  
ガーマノ ホワタニ クルマレ バ  
くーにを ひらきて よのひと を

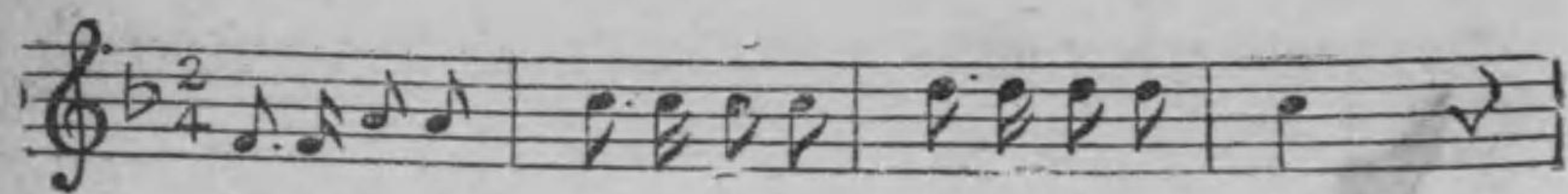


1.1 3.3 | 1.7 6.7 | 3.3 1.7 | 6 0

カーワヲ ムカレテ アカハダ カ  
よくよく おしへて やりまし た  
ウサギハ モトノー シロウサギ  
たーすけ なされた かみさま よ

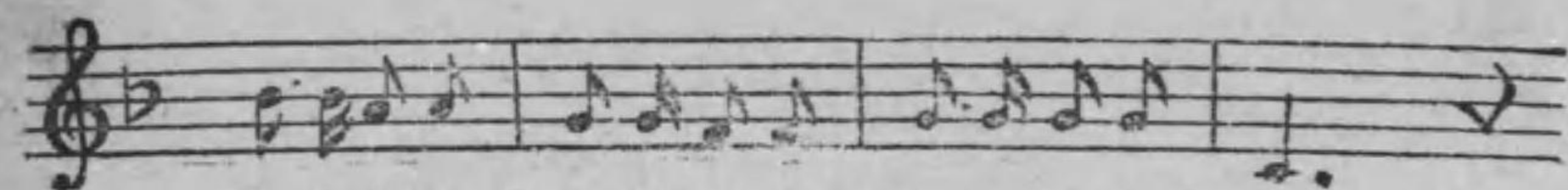
# 那須與一

(尋 二)



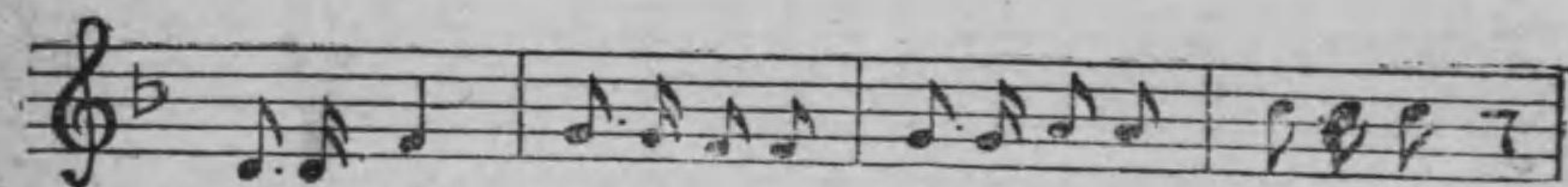
1. 1 1 3 3 | 5. 5 5 5 | 6. 6 6 6 | 5 0

1. ゲンペイ ショウブノ ハレノバ ショ  
2. あふぎは ゆふひに きらめき て



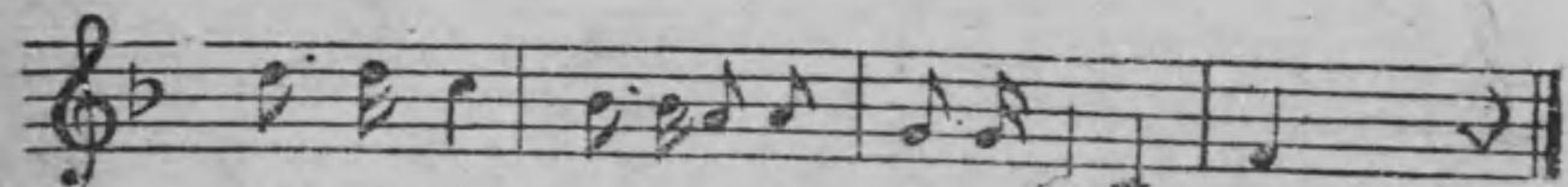
4. 4 3 3 | 2. 2 1 1 | 2. 2 2 2 | 5. 0

ブウンハ コノバニ サダマル ト  
ひらひら おちくる なみのう へ



6. 6 1 | 2 2 1 1 | 2. 2 3 3 | 5 5 5 0

ナスノ ヨイチハ イツシン フラン  
なすの よいちの ほまれは いまも



6. 6 5 | 4. 4 3 3 | 2. 2 5 5 | 1 0

ネラヒ サダメテ ヒョウトイ ル  
やしまの うらにー なりひび く

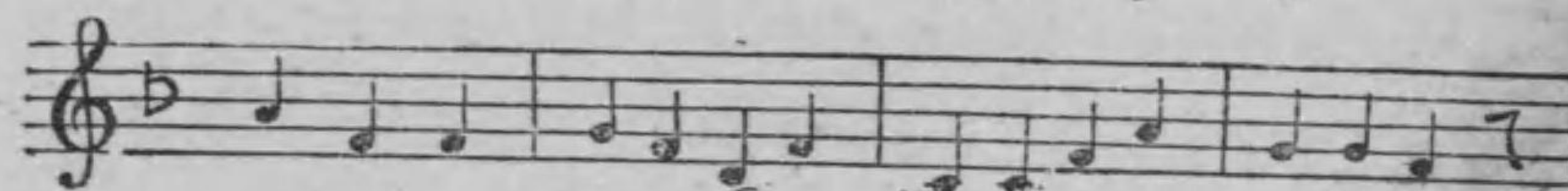
# 雛 祭

(尋 二)



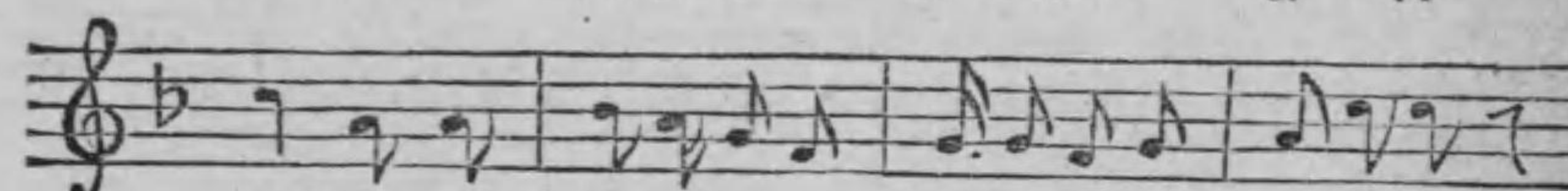
1. 1 1 5 | 6. 6 5 6 | 1. 1 2 3 | 2. - 0

1. ケ フ ハ オセツク ヒナサマ ハ  
2. け ふ は おせつく わたしら は



3 1 1 | 2. 1 6 1 | 5. 5 1 3 | 2 2 1 0

モモノ ハナサク ゴテンノ ウチニ  
ももの はなさく ごてんの まへに



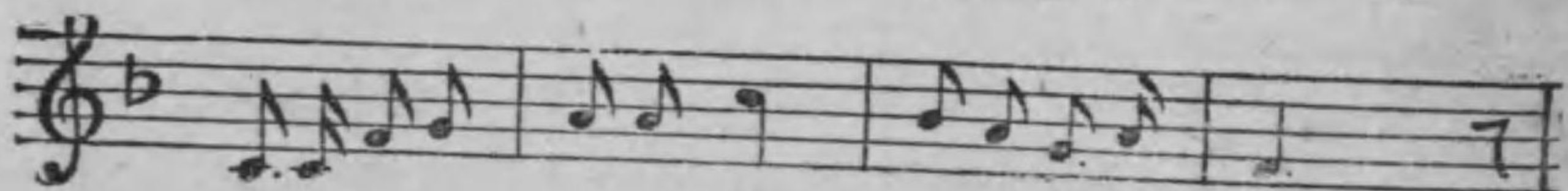
5 3 3 | 4. 3 2 1 | 2. 2 1 2 | 3 5 5 0

ゴニン バヤヤシ クワンニヨヲ メシテ  
くさの ひしもち しろさけ あられ



6 5 6 | 5. 5 3 2 | 1. 1 6 1 | 2 2 5 0

ウタヒ ハヤサセ マヒヲモ マハセ  
ちいさい おぜんにとりととのへて



5. 5 1 2 | 3 3 5 | 4 3 2. 3 | 1. - 0

オイハヒ ナサン オモシロ ヤ  
さしあげ ませう ひなさま に

J=123

# 春が来た

(尋二)

5 3 4 5 6 | 5 3 4 5 1 | 6 5 3.1 | 2- 0

1. ハルガキタ ハルガキタ ドコニキ タ
2. はながさく はながさく どこにさ く
3. トリガナク トリガナク ドコニナ ク

5 6 5 3 5 | i 2 i 6 i | 5 3 2.5 | 1- 0

- ヤマニキタ サトニキタ ノニモキ タ  
 やまにさく さとにさく のにもさ く  
 ヤマデナク サトデナク ノデモナ ク

ニ調  
J=126

# 雨

(尋三)

5.3 5 3 | 6 5 5 0 | 3.3 2 1 | 3 2 2 0

1. フレフレ アメヨ ミヤコノ アメヨ
2. ----- むなかの あめよ

1- 2 2 | 3.4 5 5 | 6.7 i 6 | 5 6 5 0

- ウーマヤ クルマノ ワウライ タエヌ  
 なすや きらりの はなさき そろふ

6.7 i 6 | 5.5 3 5 | 6.6 5 3 | 2 3 2 0

- マーチノ ホコリノ シビマル ホドニ  
 はたけの つーちの うるほふ ほどに

6 5 5 0 | i.6 i 6 | 5.6 5 2 | 3 1 0 0

- アメヨ フレフレ ホドヨク フレ  
 -----

# 森の樂隊

(尋三)

5 6 1 | 2. 2 1 2 | 5. 5 4 3 | 2. - 0

1. カ ス ミ タ ナ ビ キ  
2. ちよーしを あはせて はにぎやか テ

1 2 3 | 2. 2 1 6 | 5. 5 6 5 | 5. - 0

ハ ル モ ノ ド カ ニ  
ひよーしを あはせて おもしろく

6. 6 1 1 | 2 2 1 | 6. 1 6 1 | 2. - 0

ヤマガラ コガ ラ シジウカ  
もーりの くさきも おどるま ち

2 3 1 | 5. 6 5 3 | 2. 2 1 2 | 3 2 1 0

ヒワ ヤ メジロニ ウグヒス ヒバリ  
のやまの は一なの まひだす まてに

2 2 | 5. 5 5 5 | 6 6 5 5 | 1 1 2. 2

ビービー カラカラカラカラ コロコロコロコロ コロコロコロコロ  
びーびー からからからから ころころころころ ころころころころ

3 2 1 3 2 1 | 5. 6. 5 3 | 2. 3 2 | 1 0

チーチクチーチク ヒヨロヒヨロ ホーホケ キヨ  
ちーちくちーちく ひよろひよろ にーほけ きよ

# お玉じやくし

(尋三)

1 3. 2 | 5. 5 6 5 | 3. 3 5 6 | 5 0

1. オ タ マ ジャクシハ マツクロ デ  
2. お た ま じやくしの をがとれ て

6. 7 i 6 | 6 5 3 1 | 5. 3 2 1 | 2 0

アタマガ マールク ヲガナガ ク  
かへると な一つて てがてき て

1. 2 3 1 | 5. 5 3 1 | 5. 5 5 5 | 5 0

テアシガ ナクテモ チョロチョコ ト  
あーしが できると びんびんと

6 i 6 | 5. 5 3 5 | i. i i i | i 0

イケノ ナカヲバ ハネマハ ル  
くさの なかをば とびまは る

i i i 6 | 6 5 3 1 | 5. 3 2 1 | 1 0

オータマ ジャクシハ カハイイ ナ  
かへるの こどもは かはいい な